

スシモ親族ノ總員集會協議スルヲ要スルモノニ非ス又親族間ニ多少ノ不折合ノ事情アリテモ其多分カ協議議決スレハ其議決ハ正當ノモノナリト謂ハサルヲ得ス

○甲者カ親族會議ニ列席スルコトヲ得ル場合ニ在ルモ甲者自己ノ懈怠ニ因リ其會議ニ出席セザリシモノト裁判所カ認定シ其會議ヲ正當ノ議ナリト判決シタルニ對シ甲者ハ之ヲ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス

○親族會議ノ法規ナキ今日ニ在テハ他人カ該會議ニ列席シタルハトテ之ヲ無効ノ會議ト云フヲ得ス

○幼者ノ母ハ其幼者ノ利害ニ關スル親族會議ニハ當然參加スヘキモノナレハ特殊ノ事情ナクシテ之ヲ參加セシメサルトキハ其親族會議ノ決議ハ無効ナリ

○親族協議ニ列席スヘキ人ノ續柄ノ遠近ニ付テハ法律上一定ノ規定ナシ故ニ近親ニ非サル者カ親族協議ニ列席シタル一事ヲ以テ一概ニ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス

○最近親族數名存在スル場合其多數ニ充テサル親族ノ協議ハ親族會ノ決議ト爲スコトヲ得ス

〔第九百四十八條〕

○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリテ之ヲ受ケザリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

〔第九百四十九條〕

○民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反ス

ル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

○親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケタル者ヲ除ク外其招集ノ目的タル事項ヲ決議スルトキハ縱令異日裁判ニ因リテ決議無効ノ宣言ヲ受クルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ自ラ解散スヘキモノトス

〔同法〕

○親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケラレタルモノヲ除ク外其目的ト爲シタル事項ヲ一旦議決シタル場合ニ於テハ縱令其決議ハ異日裁判上取消サレ若クハ無効ノ宣告ヲ受クルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ當然解散セラレヘキモノトス

〔第九百五十一條〕

○會員中資格ナキ者ヲ以テ組織シタル親族會ノ決議ハ違法ノモノタリ
○民法第九百四十八條第二項ノ通知ヲ欠キタルトキハ之ヲ原因トシテ同法第九百五十一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキモ之ヲ提起スルニ付キテハ必ス同條一ヶ月ノ期間内ニ於テセサルヘカラス
○親族會カ不法ノ決議ニ依リ家督相續人ヲ定メタルトキハ之ニ對シ自ラ

二六	二	三三〇
二六	二	三三〇
二七	五	三七
三〇	九	一
三〇	二	三〇
三一	三	一〇
三六	六	六四

三三	五	三一
三三	二	二四
三六	一	三九五
三七	一	九五
三三	一	八〇

○相續權アルコトヲ主張セサル親族ハ右親族會ノ決議ニ對シ其不服ヲ裁判所ニ訴フヘキモノニシテ直ニ家督相續人ニ係リ其相續ノ取消ヲ請求スヘキモノニ非ス

○苟モ親族會ノ無効ヲ認メテ裁判シタル以上ハ其無効カ全然無資格ナル者ヲ選任シタルカ爲メナルト否トニ論ナク親族會ノ始メヨリ無効ナルコトハ同一ニシテ彼此區別アルヘキモノニ非ス

○相續人選定ノ爲メノ親族會ト相續人タル未成年者ノ爲メノ親族會トハ各特別ノモノニシテ相續人選定ノ親族會ノ決議ニ對スル訴訟ハ其親族會員ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ未成年者ノ爲メノ親族會員ニ向テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○親族會員二名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半數(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス

三五	三五	三五	三四	三五
九	九	九	七	五
三七	三七	一	元	七

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セザリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不適法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリテ之ヲ受ケザリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○親族會ノ無効ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ニ依リ決議無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ之カ取消ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ス

○親族會ノ決議ノ取消ヲ求ムル訴ニ於テハ其決議ヲ取消スノ權能ヲ有スル者即チ親族會員全體ヲ以テ對手人ト爲スヘキモノニシテ單ニ取消請求者ト反對ノ意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス然レトモ或事情ニ因リ後日會員ノ資格ヲ喪失シタルモノアルカ又ハ會員ノ一部ヨリ他ノ會員ニ對シ右ノ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其資格喪失者若クハ自己ヲ以テ對手人ト爲スノ要ナシ

○親族會ノ決議ハ縱令法令ノ規定ニ違背スルモ當然無効ナルモノニ非スシテ之ヲ無効トスルニハ必スヤ裁判所ノ宣言アルコトヲ要ス故ニ其決

三五	三六	三七
九	八	三
一六	八	三

議無効ノ確認ヲ求ムル訴ハ不法ナリ

○親族會ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ノ規定ニ從フニ非サレハ不服ヲ訴フルコトヲ得ス

○民法第九百五十一條ニ所謂親族會ノ決議ハ實質上無効ナルモノト取消シ得ヘキモノトヲ分タス苟モ親族會ノ爲シタル決議ハ總テ之ヲ包含セルモノトス

○裁判所ニ於テ親族會ノ決議無効ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其決議ノ元來無効ナルコトヲ確定スル效力ヲ生スルニ止マリ創設的ニ之ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

○親族會ノ決議ヲ無効トスル訴ニ於テハ其取消ヲ求ムル訴ニ於ケルト同シク特別ノ事由存セサル以上ハ親族會員全部ヲ對手人ト爲スヘキモノニシテ其決議ニ於テ過半数ヲ占メタル意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス

○不法ナル親族會ノ決議ノ取消ハ善意ノ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ボサストノ規定アラサルニ因リ一旦決議ヲ取消シタル以上ハ其決議取消ノ判決アリタル前後ヲ問ハス又第三者ニ對スルト否トヲ論セス絶對ニ取消ノ效力アルモノトス

三七	九五一
三七	一四七
三六	三三
三六	四七
三六	八九

○家督相續人選定ノ親族會決議ニ對シテ不服ヲ申立ツル場合ニハ其選定家督相續人ハ缺格者ナルカ或ハ被相續人ノ請求ニ因リテ廢除セラレタル前推定家督相續人ナル事實ヲ以テ不服ノ理由ト爲シ又ハ民法第九百八十五條ニ違背セル事實ヲ以テ其理由トスルカ如ク必スヤ法律上ノ基本アルコトヲ要ス

○親族會ノ決議ニ對シ一箇月ノ期間内ニ不服ノ訴アラサルトキハ其決議法律ニ違背スルモ效力確定スルヲ原則トス然レトモ其公ノ秩序ニ關スル規定ニ背反シ又ハ親族會ノ構成不合法ニシテ實質上決議ナキト均シキ場合ハ例外トス

(同三三)

親族會ノ決議方法定ノ期間經過ノ爲メ形式上確定シタル場合ト雖モ其内容ニシテ本來無効ナル以上ハ該決議ハ實質上ノ效力ヲ生ズルコトナシ

○三名ノ親族會員中其一名ニ對シ適法ノ招集手續ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミヲ召集セラレテ開キタル親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リテ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ具スレトモ當然無効ノモノニ非ス

(友對)

三名ノ親族會員中其一名ニ對シ親族會招集ノ通知ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミニテ開キタル親族會ノ爲シタル決議ハ無効ナリ

三九	一六四
四一	五〇六
四〇	二四四
四一	五〇六
三六	八二

○民法第九百五十一條ニ依ル親族會ノ決議ニ對スル不服ヲ理由アリトシテ裁判所カ其決議ノ效力ヲ喪失セシメントスル場合ニ於テハ之ヲ取消スト裁判スルモ將タ無効ナリト宣告スルモ其效力ニ差異アルコトナシ

○親族會招集ノ手續ニ違法アルカ爲メ其決議カ無効タルヘキ素質ヲ有スルモ初メヨリ無効ニ非サル場合ニ於テハ其取消ヲ請求スルモ違法ニ非ス

○民法第九百五十一條ニ依ル不服ノ訴ノ被告タルヘキ者ハ不服ヲ申立テラレタル決議ヲ爲シタル親族會員タルヘキコト勿論ナリ

○親族會カ法定ノ推定家督相續人アル場合ニ於テ家督相續人ヲ選定シ又ハ法定ノ後見人アル場合ニ於テ後見人ヲ選定シタルトキハ其決議ハ當然無効ニシテ民法第九百五十一條ノ不服ノ訴ニ因リ宣告ヲ竣テ始メテ無効タルヘキモノニ非ス

○親族會カ形式上適法ニ選定招集セラレタル場合ト雖モ曩ニ適法ニ選定招集セラレタルモノアルトキハ後ノ選定招集決定ハ實質上無効ナルヲ以テ其決定ニ基キタル親族會ノ議決モ亦當然無効ナリトス

○親族會員中無資格者アリテ同會ニ參加シタルトキハ其構成不適法ナルヲ以テ此場合ニ於ケル決議ハ其無資格者ヲ親族會員トシテ選定シタル

四	九七七
四	三三三
四	三三三
四	三三三
四	四〇二
四	九二

(第九百五十三條)

裁判カ取消サレタルト否ト又他ニ三名以上ノ有資格者カ參加シタルト否トヲ問ハス當然無効ニ歸スルモノトス

『第九百五十三條』

○幼者保護ノ爲メニ開催シタル親族會ニ於テ其會員タル者幼者ノ利害ヲ顧ミサルカ又ハ不利益ヲ來スヘキ行爲ヲ敢テスルカ如キハ親族會員ノ職責ニ違背シタルモノトス而シテ其行爲ハ議題ニ賛同スル方法ヲ以テ之ヲ爲スト自ラ進ンテ行フト將タ法定代理人ト共謀シテ爲ストハ之ヲ問フノ要ナシ

第八章 扶養ノ義務

○民法ノ扶養ニ關スル規定ハ公益上ノ必要ヲ限度トシテ親族間相互ノ扶養義務ヲ定メタルモノナレハ當事者ノ任意ヲ以テ定メタル扶養ノ權利關係ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○過去ニ於ケル養料ハ絶對的ニ請求シ得ヘカラサルモノニ非ス苟モ養料權利者ニ於テ扶養ヲ受ケサルヘカラサルノ状態ニ在ルコトヲ義務者ニ通知シ其義務ノ履行ヲ求メタルモ義務者カ其支拂ヲ遲滞シタル場合ニハ權利者ハ其相手方ノ遲滞ニ付セラレタル以後ノ養料ヲ請求シ得ルモ

四三	一九四
三	八六六
三五	二二三
六	

ノトス

(參照)

養育料ノ請求ヲ爲ス者ハ必スシモ先ツ別居生活ヲ裁判所ニ請求セサルヘカラサルモノニ非ス又之ヲ受クヘキ至當ノ理由アルトキハ月主ノ家ニ同居セサルモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第九百五十四條

(參照)

既ニ私生子タルコトヲ認メシ事實ノ存スル以上ハ公式ノ手續ヲ爲ササルモ其子ヲ養育スルノ義務ヲ免ルルコト能ハス

妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル子ヲ男子カ己ノ子ナリト認メタルトキハ養育料ヲ支給スル義務アリ

第九百五十九條

扶養ノ目的ハ生活ニ必要ナル需用ヲ自給スルコト能ハサル状態ニ在ル者ヲシテ其生活ノ資料ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ此意義ニ適セサル請求ハ扶養ノ請求トシテ之ヲ爲スモ固ヨリ是認スヘキ限ニ在ラス

第五編 相續

第一章 家督相續

○民法施行以前ニ在テ所謂仲繼相續ハ實親子ノ相續ト同シク養嗣子カ家

三七 一〇九五

三二 六 六七

二六 二 二八九

二九 四 七

三四 九 二

督ヲ相續シタル後死亡シ又ハ老年ニ至リ隱居スルニ及ヒテ先代ノ實子若クハ嫡孫カ養嗣子ニ繼テ其家督ヲ相續スルモノニシテ是レ則チ古來一般ノ習慣ナリトス

○民法施行前法定ノ推定家督相續人アル者カ一家維持ノ爲メ他ノ者ヲ以テ相續ヲ爲サシムヘキ必要アリトシ親族協議ノ上事由ヲ具シテ願出テタル場合ニ當該官吏カ其事由ヲ取調ヘ相當ナル推定家督相續人ナシトシテ許可ヲ與ヘタルトキハ之ニ因リテ爲シタル相續ハ慣例上復タ動カスヘカラサルモノトス

(參照)

刑法第百十四條同第百十五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相續權ノ如キ民法上ニ於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

相續ニ關シ親戚等カ協議ヲ爲スノ慣習又ハ相續届書ニ連署スヘキ法則ハ相續ニ付テノ要件ニ非ス故ニ此慣習又ハ法則ニ背戾スルモ既ニ爲シタル相續ヲ取消スニ足ルヘキ瑕疵ト爲ラズ名義上ノ相續人即チ仲繼相續人ナルモノハ嫡子ノ存在スルニ拘ハラズ便宜上之ヲ設クルヲ得ヘキコトハ我邦慣習ノ認ムル所ナリ

女戸主カ養子ヲ爲シタルトキト雖モ直ニ其養子ニ相續ヲ讓ラサルヘカラサルノ慣例ナシ明治六年第二十八號及ヒ同年第二百六十三號布告ハ華士族ノ家督相續ニ關スルモノナルニ依リ平民ノ家督相續ニ適用スルコトヲ得ス

民法 相續 家督相續

三四七

三五 一八九

四一 八五二

二九 八 八

三〇 四 七

三〇 五 三

三〇 九 七

戸主退隱シ新戸主之ニ代リタル場合ニ於テ戸籍取扱官吏カ戸籍簿中前代戸主ノ名稱身分年齢ヲ抹消シ其傍ニ更ニ後代戸主ノ名稱身分年齢等ヲ挿入スルハ各地方一般ノ慣例ニ非ス故ニ之ヲ是認セル判決ハ不法ナリ

第一節 總則

第九百六十六條

第九百六十六條

○請求權ノ有無ハ起訴時ノ法則ニ依リテ定ムヘキモノナルカ故ニ民法施行以前ニ於テ未成年者ノ爲メニ起訴シタル親族ノ請求權ハ其訴訟ノ進行中ニ施行セラレタル民法ノ規定ニ依リテ消滅スヘキモノニ非ス

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人アルニ關セテ親族協議上ノ出願ニ因リ當該官吏カ他人ヲ以テ相續セシムルコトヲ許可シタルトキハ家督相續回復ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○民法第九百六十六條ニ於テ法定代理人カ家督相續回復ノ請求權ヲ行フトアル以上自己ノ權利ニ因リテ之ヲ行フニ非スシテ無能力者ヲ代表シテ之ヲ行フノ意義ニ解釋スルヲ以テ普通ノ意義ニ適スルモノトス

○子カ父ト共ニ分家ヲ爲シタル場合ニ於テ其手續ニ違法ノ點アルカ爲メ子ニ對シ分家ノ效ヲ生セサルトキハ戸籍簿上之ヲ取消スト否トヲ問ハス父カ親權者トシテ權利ヲ行使シタルトスルモ其所爲ハ子ノ權利ニ對

三	六	一〇	一五
三	四	一〇	一五
三	八	一〇	一五
三	八	一〇	一五

シテ效力ヲ及ボスヘキモノニ非ス故ニ父ニ於テ其子ニ對スル相續權侵害ノ事實ヲ知ルモノ子ノ相續回復請求ニ何等ノ影響アルコトナシ

○自己ニ家督相續權アルコトヲ主張シ他人ノ不法相續ヲ排除セントスルニハ必スヤ家督相續回復ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ之ヲ請求スル權利ハ家督相續人ニ專屬スルモノトス

○家督相續回復請求ノ前提トシテ相續無効ノ確認ヲ請求スルハ法律ノ許ササル所ナリ

○民法第九百六十六條ノ規定ニ依ル家督相續回復請求權ノ時効ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所ハ之ニ據リテ裁判ヲ爲シ得サルモノトス

第九百六十八條

第九百六十八條

○民法實施前ニ於テ胎兒ハ相續ニ關シテハ既ニ生レタルモノト看做ストノ法文ナキハ勿論其慣習モ亦存在セルコトナシ

第二節 家督相續人

○戸主ノ兄弟若クハ姉妹ハ戸主ニ直系卑屬ナキ場合ト雖モ當然其相續人タル權利ヲ有スル者ニ非スシテ其親族ノ協議ニ因リテ相續人ト爲ルヲ得ルコトハ民法施行前ニ於ケル我國一般ノ慣例ニシテ此慣例ハ當時法

民法 相續 家督相續 家督相續人

三	元	元	元	元
三	元	元	元	元
三	元	元	元	元
三	元	元	元	元

律トシテ行ハルヘキモノナリ

○從來家督相續人タルヘキ者幼少ナル場合ニハ一家維持ノ必要上ヨリシテ親族協議ノ上相當ノ丁年者ヲ選ミ其筋ノ許可ヲ得テ家督相續人タラシムルハ士族平民ノ間ニ行ハレタリシ慣習ニシテ此場合ニハ相續ハ被相續人ノ死亡ト同時ニ開始スルモ其相續人ハ親族協議後マテ確定セス隨テ幼者ハ其遺產ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト看做ササルヘカラス

○明治ノ初年ニ於テハ法定ノ家督相續人カ被相續人死亡ノ當時幼少ナル爲メ其母ノ入夫ヲシテ仲繼相續ヲ爲サシムル場合ハ華士族ノ外其筋ノ許可ヲ要セサリシモノトス

第九百六十九條

○法定ノ推定家督相續人ノ相續權ハ民法第九百六十九條第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ス又同第七百四十四條第二十條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

第九百七十條

○民法施行前ニ於テ養親カ相續權ヲ付與セサル意思ヲ以テ爲シタル養子

縁組ト雖モ其養子ハ民法施行後ニ於テハ同法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スルコトヲ得ヘシ

○民法施行前ニ在リテハ養嗣子ト養子ト並存スル場合ニ於テ養親ノ相續權ハ養子縁組ノ先後ヲ問ハスシテ養嗣子之ヲ有シタルモノトス

○民法實施以前ニ在リテハ先代死亡後親族協議ノ上將來幼年ノ女戸主ト結婚セシムルノ目的ヲ以テ男子ヲ迎ヘタルトキハ其縁女タルヘキ女戸主ハ直ニ戸主ノ地位ヲ退キ養子代リテ其家督ヲ相續スヘク而シテ一旦相續ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ取得シタル以上ハ縱令其後ニ至リ縁女ト離婚スルモ之カ爲メニ其戸主權ヲ喪失スルコトナシ

○民法施行前法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者離縁シテ家ヲ去リ其婚姻中懐胎シタル子女未タ出生セサルトキハ其家ノ相續權ハ戸主ノ最近卑屬ナル長女ニ復歸シテ直ニ胎兒ニ移轉スルコトナシ故ニ戸主カ再ヒ婿養子ヲ迎ヘ其長女ニ配偶セシメタルトキハ其婿養子ハ養嗣子ト爲リ家督相續人タルノ身分ヲ取得スルモノトス

○民法施行前實子アル者カ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ當該行政應ノ許可ヲ經テ養子ヲ爲シタルトキハ其實子ハ相續權ヲ主張シ得サルモノトス

三五 六 二七

三五 六 一五〇

四三 六 六九

三五 九 一六

三六 六 六九五

三六 六 六九五

三七 四 四六

三六 八 八元

三六 三 三六

○民法實施前法定ノ推定家督相続人タル女子アル者カ婿養子ヲ爲シタル場合ニ於テハ其養子ハ推定家督相続人ト爲ルモノトス

(同主旨)

法定ノ家督相続人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者ハ之ト同時ニ養家ノ家督相続人タル身分ヲ取得スルコトハ古來ノ習慣ニシテ民法ノ規定モ亦之ニ異ナルコトナシ

○民法施行以前ニ於テモ家督相続ノ順位ハ同親等ノ男子間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ其生レ乍ラ嫡出子タル者ト父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲リタル者トノ間ニ在リテハ後者ハ其嫡出子タル身分ヲ取得セル時ニ生レタルモノト看做シテ前者ト長幼ノ序ヲ分ツヘキコトハ一般ノ法則トスル所ナリ

○民法施行前ニ於テハ長男戸主退隱シ其父逆相続ヲ爲シタルトキハ其長男ハ被相続人カ更ニ之ヲ嗣子ト爲スカ又ハ他ニ子女ナキ場合ノ外再ヒ相続ヲ爲スノ權利ヲ有セザリシモノナルモ如上ノ相続順位ハ民法ノ認めサル所ナレハ右ノ退隱者モ其施行後ハ同法第九百七十條ニ從ヒ第一順位ノ相続人トシテ相続權ヲ有スルモノトス

(參照)

本邦ノ習慣ニ於テ直系ノ卑屬親ヲ相続セシムルハ戸主死亡シ相続者未定ノ場合ニ於テコソ適用スヘキモノナレ先戸主死亡ノ際其實子ヲ措キテ傍系親ナル妹ヲシテ相続セシメタルコト既

ニ三十餘年ノ星霜ヲ經過シタル後ニ在テハ其習慣ヲ適用スルヲ得ス
戸主死亡セシトキ其嗣子相続ヲ爲サシテ傍系親其跡ヲ相続シタル後ニ出生シタル嗣子ノ實子ハ相続上何等ノ權利ヲモ繼承スルコト能ハス

私生子モ相続權ヲ有スル場合ナキニ非スト雖モ既ニ他姓ヲ名乘リ戸籍上某ノ庶子ト編入セラレタル以上ハ某家現戸主ニ代リテ其權利ヲ取得スルヲ得ス

相続ハ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニスルハ古來ノ慣例ナレトモ當然相続スヘキ卑屬親ナキ時ハ親族協議ノ上其家ニ適當スル女子ヲ選定スルモ亦慣例ノ許ス所ナリ

甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相続スヘキ權利アリト決スル上ハ縱令一時離縁ト爲リシ父ノ實家ニ養育セラレルモ爲メニ相続權ヲ失却スヘキモノニ非サレハ原裁判カ此等ノ陳述ニ對シ說明ヲ與ヘサルモ不當ニ非ス

養嗣子ハ所謂法定ノ家督相続人ナリト雖モ養子ニ至リテハ其嗣子タルト否トハ事實ノ如何ニ由ルヘクシテ法律上必スシモ嗣子ト推定スヘキモノニ非ス隨テ二名以上アル場合ニ單ニ先位ノ養子タリトテ必ス家督相続ノ權アリト論斷スルヲ得サルナリ

相続權カ總領ノ男子ニ屬スルコトハ我國古來ノ不文法ナリト雖モ總領ノ男子カ一旦戸主タリシモ一家整理ノ不能ナルカ爲メ終身退隱セシ以上ハ長子タルノ故ヲ以テ他ニ相続スヘキ者アルニ拘ハラズ當然再相続ヲ爲シ戸主ノ地位ニ復歸スルカ如キハ未タ我國ノ慣習ニ於テ認ムル所ニ非サルナリ

養子タル身分ヲ得テ始メテ取得スヘキ相続權ノ如キハ養子縁組ノ效力生セサルトキハ之ヲ取得スルヲ得ス

一家ニ於テ先代ノ長女ト養子タル男子存在シ互ニ相続權ヲ爭フトキハ養子ニ於テ長女ヲ措キ

二六	二六	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二	四三	四五	四三〇	三七	二八	二八	二八

四三	四三	四五	四	四二	四二	四二	四二
四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二

其者ト同順位ニテ家督相繼人ト爲ルコトハ嫡孫承祖ト稱シ古來ヨリ行ハレタル習慣ニシテ現行民法モ此習慣ヲ認メ其第九百七十四條ニ於テ明ニ之ヲ規定セリ

○民法施行前ニ於テ推定家督相繼人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從ヒ直ニ祖父母ノ推定家督相繼人タル資格ヲ有セシカ故ニ嫡孫ヲ排シ他人ヲ以テ相繼セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子ノ死跡相繼ヲ爲シタルトキハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スヘキ場合ニ非サレハ縱令嫡孫アルモ養子ヲシテ相繼セシムルヲ得ルモノトス

○嫡子相繼又ハ嫡孫承祖ノ相繼ハ我邦古來普通ノ慣例ナリト雖モ明治五年戶籍法改正施行以前ニ在リテハ士族以上ハ格別平民ニ至テハ一家維持上其他ノ事由ニ因リ嫡子又ハ嫡孫ヲ差措キ他ノ卑族親等ヲ以テ家督相繼人ト爲シ又ハ家督相繼ヲ爲サシムルカ如キハ一ニ被相繼人ノ自由ニ在リテ親族ノ協議若クハ官廳ノ許可ヲ必要トスルカ如キ法度又ハ慣行アルコトナシ

○明治以前ノ制度ニ於テモ嫡孫承祖ノ法則存在セサリシニ非スト雖モ戸主ニ數人ノ子アリテ長子カ相當ノ手續ヲ經テ廢嫡セラレ二三男カ家督

相繼人ト爲リタル場合ニ於テハ其廢嫡セラレタル長子ノ子カ當然新戸主ノ家督相繼人ト爲ルカ如キ慣習法存在シタルコトナシ

○民法施行前實行セラレタル嫡孫承祖ノ慣習法ハ法定ノ推定家督相繼人カ直系卑屬ヲ遺シテ家督相繼ノ開始前ニ死亡シ又ハ相繼權ヲ失ヒタル場合ニ其直系卑屬ヲシテ之ト同一ノ順位ニ於テ家督相繼人タラシムルコトヲ定メタルモノナレハ法定ノ推定家督相繼人タル資格ヲ取得セスシテ死亡シタル者ノ子孫ハ此法則ニ依リ承祖相繼ヲ爲シ得サルモノトス

○嫡孫承祖ノ慣習法ハ直系卑屬アル家督相繼人カ其相繼權ヲ喪失シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ承祖權ノ發生ハ相繼權ノ喪失ト同時タルコトヲ要ス從テ其喪失ノ當時直系卑屬生存セサル場合ニハ權利ノ主體ナケレハ縱令其主體タルヲ得ヘカリシ者後日出生シタリトテ其者ノ爲メニ權利發生スルコトナシ

○推定家督相繼人カ家督相繼ノ開始前廢嫡セラレタル場合ト雖モ其子カ養子緣組ニ因リ他家ニ在ルトキハ民法第九百七十四條ニ依リテ家督相繼人ト爲ルコトヲ得ス故ニ爾後離縁復籍シタリトテ代位相繼人タル身分ヲ回復スルノ理ナシ

三六

四六八

三七

一四三

三八

一一〇

四三

六二四

三五

四

一四九

三六

三

三六

二七二

第九百七十五條

○廢嫡ヲ爲スニハ被廢嫡者ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス
 ○民法施行前ニ於テモ廢嫡手續ヲ了セシテ分家シタルトキ分家者ハ當然家督相續權ヲ喪失スルモノト云フヲ得ス
 ○法定ノ推定家督相續人ヲ分家セシムルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲スカ又ハ遅クトモ分家ト同時ニ其手續ヲ爲ササルヘカラス
 ○廢嫡ノ手續ヲ了シタルヤ否ヤハ單ニ分家シタリトノ事實ノミニ依リ之ヲ推定スルヲ得ス
 ○法定ノ推定家督相續人ノ相續權ハ民法第九百六十九條第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ス又同第七百四十四條第一千二十條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス
 ○民法施行前ニ於テ被相續人タルヘキ者カ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫ノ廢嫡ヲ出願シタル場合ニ當該官廳力之ヲ聞届ケ爾後該出願者ノ相續人ト爲リタル者アルトキハ被廢嫡者ハ其相續人ニ對シテ家督相續回復ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス
 ○民法施行前ニ於テ嫡子及ヒ嫡孫ノ廢嫡ヲ爲ス正當ノ事由アリトスル場

三	一	三
三	二	一
三	四	一
三	四	一
三	四	一
三	九	一
三	一六	一
三	一八	一

合ニハ被相續人タルヘキ者ハ同時ニ其廢嫡ヲ出願シ得タルモノトス
 ○分家ト廢嫡トハ法律上其關係ヲ異ニスト雖モ民法實施前ニ於テハ廢嫡ノ事由ヲ限定シタル法則ナキノミナラス嫡子ヲ廢嫡スル事由ノ存スル場合ニ嫡子カ嫡孫ト共ニ分家セント欲スル情願ヲ以テ嫡孫ヲ嫡子ト共ニ廢嫡スル正當ノ事由ト認ムルモ敢テ當時ノ法則ニ違背シタルモノト云フヲ得ス
 ○民法實施以前ニ於テ當該官吏カ當時ノ法規ニ遵ヒ審査ヲ遂ケ相當ト認メタル上廢嫡願ヲ許可シタルトキハ其廢嫡ハ確定ノ效力ヲ生シ法規ノ許ス場合ニ在ラサレバ後日ニ至リテ之ヲ變改シ得サルモノトス
 ○民法施行前ト雖モ法定ノ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫カ一タヒ廢除セラレタル以上ハ更ニ其取消アルニ非サレハ同一被相續人ノ推定家督相續人ト爲ルコトヲ得ス

(參照)

嗣子ノ更改ハ古來ノ慣習上適法ノ事故ナケレハ之ヲ許サス
 戸主カ一家ノ維持上必要ヲ感シ又親戚最多數ノ贊同アルモ嗣子更改ノ適法ノ理由ト爲ラス

第九百七十七條

○民法第九百七十七條ハ相續人ヲ廢除シタル原因カ後日ニ至リテ消滅シ

三	一	三
三	二	一
三	四	一
三	四	一
三	四	一
三	九	一
三	一六	一
三	一八	一

タル場合ニ限り廢除ノ取消ヲ許シタルモノトス故ニ廢除ノ原因ト爲リタルモノカ全ク虚偽ノ事實ニシテ當初ヨリ存在セザリシ場合ニ於テハ廢除ノ取消ヲ許サス

○民法施行前被相続人カ推定家督相続人ノ身體虚弱ナル故ヲ以テ之ヲ廢嫡シ分家セシメタル場合ト雖モ爾後被廢嫡者カ廢家シテ被相続人ノ家ニ復歸シ且其身體健全ニ復シタル以上ハ民法第九百七十七條第一項ニ依リ廢嫡取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

〔第九百七十九條〕

○民法實施以前推定家督相続人ナキ被相続人カ豫メ家督相続人ヲ指定シテ戸籍ニ登記シタル場合ニ於テハ其相續人ハ縱令養嗣子ノ名稱ナキモ法律上養嗣子ト同一ノ取扱ヲ受ケ被相続人ノ死亡又ハ隱居ノ時ニ際シ家督ヲ相續スルノ權利ヲ有ス從テ爾後被相続人カ更ニ他人ヲ養子ト爲スモ之カ爲メニ其相續權ヲ奪ハルルコトナシ

○被相続人タル戸主カ家督相続人ヲ指定スルノ權ハ其性質上被相続人自ラ之ヲ行使スヘキモノトス故ニ被相続人カ他人ヲシテ家督相続人ヲ選定セシムル遺言ヲ爲スハ不法ナリ

(參照)

三七	五三
四	八九〇
三七	四三
四	五〇八

〔第九百八十二條〕

遺言ニ依リ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス
家督相続ノ順位ハ直系ノ卑屬親アル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ被相続人カ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタルトキハ其遺言ニ由ルヘキハ當然ニシテ且習慣ニ反スルモノニ非ス
遺言ヲ以テ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ有效ナリ而シテ其受任者カ選定ヲ爲スニ付テハ他ノ親族ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス又其受任者ハ之ヲ親族中ニ求ムルノ要ナシ

〔第九百八十二條〕

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキカ爲メ適法ニ招集セラレタル親族會カ民法第九百八十二條ノ規定ニ則リ既ニ家督相續人ヲ選定シタル以上ハ縱令其決議上相續順序ノ變更ニ關シテ遵守スヘキ同法第九百八十三條ノ規定ニ違背セシ點アリトスルモ該決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起シ之カ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ其選定ヲ當然無効ト爲スヲ得ス

○被相續人カ遺言證書ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ

○民法第九百八十二條ニ掲ケラレタル者ハ選定ヲ受クル以前ニ在テハ家督相續人ニ非サルヲ以テ相續權回復ノ請求權ヲ有セス

三〇	三七
三〇	九
三〇	二
三〇	四〇
三六	三九
三六	三九二
三八	一七五
四〇	九三

○家督相続人ヲ選定セル親族會ノ召集決定カ非訟事件手續法第十九條第一項ニ依リ取消サレタル場合ニ於テ他ニ親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判ニ因リ家督相続人ニ選定セラレタル者アルトキハ前者ノ相続人タル資格ハ召集決定ノ取消ト同時ニ當然消滅スルモノトス

(參照)

分家ノ戸主死亡シ其家ニ相続人ナク獨リ遺妻ノ存スルトキハ遺妻ニ於テ其家ヲ相続スヘキモノトス
 單身戸主死亡シ家督相続人ナキ場合ニ於テハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定スルヲ以テ我邦ノ慣習トス
 婚姻ニ依リ他家ニ入りタル者カ其後婚家ヨリ分レテ一家ノ戸主ト爲リ死亡シタルトキハ本家筋ノ親族及ビ其實方親族ノ協議ニ依リ相続人ヲ選定スヘキモノトス
 戸主死亡シ家族中他ニ相続人ナキトキハ戸主ノ遺妻ニ於テ相続スルノ權利アリ而シテ遺妻カ其相続ヲ放棄シタルトキ始メテ親族會ノ議決ニ依リ他家ヨリ相続人ヲ選定スルコトヲ得ルハ本邦慣習ノ認ムル所ナリ

第九百八十三條

第九百八十三條

○法定又ハ指定ノ家督相続人ナキ場合ニ於テハ被相続人ノ父母又ハ親族會ハ民法第九百八十二條規定ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相続人ヲ選定スヘク若シ其家族中ノ者ニシテ相続人ト爲ルコトヲ欲セス豫メ相続

四	二四
三六	二
三六	六
三六	六
三六	六
三一	三

第九百八十五條

第九百八十五條

人ニ選定セララルコトヲ辭スル者アルトキト雖モ苟モ右規定ノ順序ヲ變更シ又ハ全ク選定ヲ爲ササラントスルトキハ必ス先ツ裁判所ノ許可ヲ得サルヘカラス
 ○民法第九百八十三條ニ於テ前條所定ノ相続順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ハ裁判所ノ許可ヲ得タル後ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セルハ單ニ普通ノ決議順序ヲ示シタルニ外ナラサレハ苟モ相続順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ニシテ裁判所ノ許可ヲ受ケタル以上ハ其許可申請ノ手續ト時期トニ付キ多少同條ノ規定ニ異ナル所アリトスルモ之カ爲メニ該決議ハ直ニ無効ト爲ルヘキモノニ非ス

○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ親族會ハ父系母系ヲ論セス同條項ニ明記セラレタル者ノ中ニ就テ相続人ヲ選定シ得ヘキモノトス
 ○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於ケル相続人選定ノ親族會ノ決議ハ同規定及ビ民法第九百四十七條ニ背戾セサル限ハ縱令其選定ヲ適當ナラストスルモ之ヲ以テ該決議ニ對シ不服ヲ唱フルノ理由ト爲スヲ得ス

三	四	二七
三	五	
三	二五	
三	二五	

○親族會カ民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ家督相續人ヲ選定スヘキ場合ニ於テハ同條ニ掲ケタル者ノ中ヨリ其適當ナリト思惟スル者ヲ以テ相續人ニ選定スルノ專權ヲ有ス從テ其選定シタル家督相續人ノ適當ナルヤ否ヤノ事實ニ付テハ裁判所ノ干涉スヘキ限ニ在ラス

第三節 家督相續ノ效力

○相續人カ前戸主ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フヘキ場合ハ其相續以前ニ係ルモノニ止マリ其以後ニ於ケル行爲ニ付テハ責任ナシトス
 ○先代カ隱居後ニ受ケタル裁判ノ效力ハ其相續人ニ及ハサルモノトス
 ○隱居者カ隱居後ニ爲シタル法律行爲ハ其家督相續人ニ對シテ效力ヲ及ボササルコトハ一般ニ認メラレタル慣習法ナリ

第九百八十六條

第九百八十六條

○舊登記法實施以前ニ於テハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニハ相續財産ハ必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノタリ從テ相續人ハ前戸主ノ權利義務ヲ承繼スルモ公證記名ノ財産ニシテ讓渡ノ公證ヲ受ケサリシモノ迄モ一切之ヲ相續スルノ慣例ニ非ス故ニ其公證ヲ經サル財産ニシテ實際相續人之ヲ承繼シタルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キスト主張スルトキハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

三	三	三	三
四	二	二	二
四	二	二	二
四	二	二	二
五	二	二	二

(刑)

○相續人ハ相續ノ開始ト同時ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルハ勿論縱令相續開始ノ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ被相續人カ死亡ノ時ニ於テ所持シタル物件ノ占有ハ法律上當然之ヲ承繼スルモノトス
 ○株式會社設立費用ノ清算事務ハ創立委員其人ニ專屬スヘキ責任ナリトス從テ創立委員ノ相續人ニ對シ其清算ヲ請求スルハ失當ナリ
 ○登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ハ其權利者若クハ義務者ノ地位ニ代リテ權利義務ヲ承繼スルモノトス從テ登記名義人ノ相續人ハ登記ノ抹消ニ付テモ亦法律上自己ノ先人ト同一ノ義務ヲ負フモノナリ
 ○不法行爲ニ因リ身體ヲ害セラレタル者カ財産以外ノ損害ヲ填補セシムル爲メ加害者ニ對シ慰藉料ヲ請求スル意思ヲ表示シタルトキハ其請求權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ外ナラスシテ之ニ因リテ得ル金額ハ相續ノ場合ニハ相續人ノ取得スヘキモノナレハ被害者ノ一身ニ專屬スルモノニ非ス

(參照)

原院カ某者ヲ以テ相續ノ權アルモノト認定シタル以上ハ某者ハ縱令成規ノ手續(官廳ヘノ届出)ヲ經テ相續ヲ爲ササルモ其家ノ財産ニ付キ權義ノ關係ヲ有スルコト論テ疑タス
 相續人ハ特別ノ事情ナキ限ハ前戸主ノ有セル一切ノ權義ヲ繼承スヘキモノナレハ死亡者カ其

三	三	三	三
四	二	二	二
四	二	二	二
四	二	二	二
五	二	二	二

財産ヲ他人ニ遺贈シ又ハ退隱者カ之ヲ持續シタル等ノ事蹟存セサル限ハ前戸主ノ財産ハ當然相續人ニ歸スルヲ以テ一般ノ通義トス
戸主退隱スルトキハ一切ノ權利義務ハ家名ト共ニ跡相續人ニ移轉スルヲ以テ普通ノ慣例ト爲ス

第九百八十八條

第九百八十八條

○戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ其財産ノ一部ヲ留保シテ依然自己ノ所有ト爲シ得ルハ本邦ノ慣例ナリ

(同主旨)

戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ不動産ノ一部ヲ留保シテ依然自己ノ所有ト爲シ得ルハ民間ノ慣行ニシテ裁判例ニ於テモ之ヲ是認ス

○戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ其財産ノ幾部ヲ相續人ニ移サスシテ之ヲ自己ニ留保セントスルニハ特ニ其意思表示アルコトヲ要ス

○前戸主ニ於テ特ニ財産ヲ留保セザル以上ハ家督相續ニ依リテ前戸主ノ有セシ財産ハ總テ相續人ニ歸屬スヘキモノニシテ所有名義ヲ更正セサルモ之カ爲メ前戸主ノ留保セルモノト謂フヲ得ス

○民法實施以前ニ於テ隱居者カ其相續人ニ財産ノ全部ヲ讓與スルコトナク其幾分ヲ自己ノ財産トシテ留保スルニハ必ズシモ明確ニ其意思ヲ表示スルヲ要セス暗黙ニ留保ノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ル

(同主旨)

隱居而留保ノ意思ハ民法實施前ニ在テハ必ズ之ヲ明示スルヲ要セス暗黙ニ之ヲ表示シタル事實アルトキハ意思表示トシテ十分ナリトス

○民法實施以前ニ於テ戸主カ隱居スルニ方リ其財産特ニ不動産ノ幾分ヲ相續人ニ讓與セスシテ之ヲ留保スルニハ其所有名義ヲ改メス且相續人ニ對シ留保ノ意思ヲ表示スルハ足ル而シテ其意思表示ニハ一定ノ形式アルコトナク又更ニ讓受ノ手續ヲ要セザリシモノトス

○家督相續ノ開始シタル場合ニ於テ前戸主即チ隱居者又ハ女戸主カ特ニ法定ノ方式ニ依リ其財産ノ一部ヲ留保セザル限ハ一切ノ財産所有權ハ當然相續人ニ移轉スルモノトス

○民法施行以前ニ在テモ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ隱居者ノ有セシ一切ノ財産ヲ承繼スルヲ以テ通則トシ唯隱居者カ隱居料トシテ其財産ノ一部ヲ留保スルコトハ之ヲ認許シタルモ其全部ヲ舉ケテ留保スルカ如キハ慣例ノ許容セサル所ナリ

(参照)

家族ト雖モ記名ノ財産ヲ所有スルコトハ法律ノ許ス所ナリ乃チ戸主カ其相續人タルヘキ者ニ家督ヲ讓リテ隱居ヲ爲スニ當リ不動産ノ全部又ハ一部ニ付キ名義ヲ改メスシテ其所有ヲ留保シタルトキハ家族タル隱居ハ其記名財産ノ所有者ト云ハサルヘカラス家督相續人ハ其家ノ財

三〇	三五	三三	三二	三二	三〇	三〇
五	五	三	二	二	一〇	一〇
一七	六	九	四二	四二	六	六
九	九	九	九	九	九	九

三五	三六	三七	三〇
四	一七三	一〇四	七五
二〇九			

施行前ニ於テ一般ニ行ハレタル慣例ナリ

(參照)

死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニ非ス死亡者ノ卑屬ナル長男ニ於テ相続スヘキモノトス

一家ノ戸主死亡シ相続人タルヘキ子孫ナキトキハ継令家ヲ異ニスルモ其子カ父母ノ財産ヲ相続スヘキハ當然ナリ

第九百九十六條

(第九百九十六條)

○家族カ死亡シタル當時法定ノ遺産相続人ナク又現實ノ戸主存在セザリシ場合ト雖モ爾後前戸主ノ家督相続人ト爲リタル者ハ其家族ノ遺産ヲ相続スルノ權利アルモノトス

(參照)

同居家族ノ遺産ハ戸主ノ支配權ニ屬スルモ分家ノ家族死亡シ獨リ其者ノ遺妻存在セルトキハ遺妻ニ於テ右遺産ヲ相続スルハ當然ナリ

第三節 遺産相続ノ效力

第一款 總則

第一千一條

(第一千一條)

○民法第一千一條ハ被相続人カ有セシ權利義務ニシテ財産權上ノ關係ニ屬スルモノナル以上ハ遺産相続人ハ相続開始ノ時ヨリ其一切ノ權利義務

ヲ包括シテ承継スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス

○民法第一千一條ノ所謂被相続人ノ財産ニ屬セシ權利義務ニハ債務ヲ包含スルコト勿論ナルヲ以テ遺産相続人ハ被相続人カ負擔セシ債務ノミ存スル場合ト雖モ尙ホ之ヲ承継スヘキモノナリ

第三章 相続ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

(參照)

養子若クハ其離縁ハ内情如何ニ關セス苟モ戸籍ニ登錄セラレサル間ハ法律上其效ナキモノトス而シテ一旦養子ト爲リ相続權ヲ保有スル以上ハ公式ノ手續ナクシテ輒ク相続權ノ拋棄ヲ推測スルヲ許サス從テ其養子ニシテ遺産ノ處分ヲ爲スモ罪ト爲ラス

家督相続權ハ之ヲ拋棄スルヲ許ササル法則ナキニ依リ其拋棄ヲ認メタル裁判ハ違法ニ非ス

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千二十三條

(第一千二十三條)

○民法施行前ニ在テモ遺産相続人カ遺産ノ限度ニ於テ被相続人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附スルコトナク單純ニ相続ヲ爲シタルトキハ被相続人ノ負擔セシ財産上ノ債務ヲ無限ニ承継スヘキモノトス

民法 相続 相続ノ承認及ヒ拋棄 總則 承認 單純承認

四一	四二	四三	四四
二九	二九	二九	二九
一〇	一〇	一〇	一〇
四七九	四七九	四七九	四七九

三九	三九	三九	三九
二六	二六	二六	二六
二	二	二	二
四〇	四〇	四〇	四〇
二五	二五	二五	二五

〔同義語〕

民法施行前ト雖モ遺產相續人カ特ニ遺產ノ限度ニ於テ被相續人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附セシテ單純ニ相續ヲ爲シタル以上ハ被相續人ノ財産上ノ債務ハ無限ニ之ヲ承繼シタルモノト認メサルヘカラス

〔第一千二十四條〕

○民法第一千二十四條第二號ノ場合ニ於テハ縱令相續人カ事實上單純承認ヲ爲スノ意思ナカリシ時ト雖モ法律上其意思表示アリタルモノト看做スヲ以テ之ニ法律ヲ適用スルニ付テモ實際其意思表示アリシ時ト同一視スルヲ當然トス

第二款 限定承認

〔第一千二十五條〕

○家督相續人ハ限定承認ヲ爲シタル場合ト雖モ前戶主ノ一身ニ專屬シタルモノヲ除ク外相續開始ノ時ヨリ其有セシ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルモ前戶主ノ債務及ヒ遺贈ニ付テハ唯相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ責アルニ止マリ其固有ノ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スルノ責ナシ

第六章 遺言

第二節 遺言ノ方式

○遺言ヲ爲スニ際シ親族アル者ハ多クハ皆之ヲ立會ハシムヘシト雖モ遺言書ニハ必スシモ親族ノ立會連署ヲ要スルモノニ非ス

第一款 普通方式

〔參照〕

遺贈證書ハ必ス本人ニ於テ之ヲ自署シ又ハ證人ノ連署ヲ要スルノ條理ナシ殊ニ徳川氏政府百个條及ヒ寛保追加ノ如キハ現行法ノ效力ナキハ勿論裁判上慣例トシテモ亦當然認知セラルヘキモノニ非ス

第二節 遺言ノ效力

〔參照〕

遺言ハ單獨行爲ニシテ受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ因リテ遺言ノ效力ヲ異ニスルコトナシ

〔第一千七十七條〕

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

三七

二五八

四

二四一

三九

二七九

三三

六

七一

二六

五二〇

三三

三

三七

三九

二五三

(參照)

遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス從テ遺言者ハ其生存中何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得

第四節 遺言ノ執行

〔第一千一百十四條〕

○遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有スルニ依リ相續人カ遺贈ノ目的ヲ其名義ニ移シタル場合ニ於テ遺言執行ノ爲メ相續人ニ對シ訴訟ヲ提起スルカ如キハ固ヨリ其權限ニ屬ス

〔第一千一百十七條〕

○遺言執行者ハ單ニ相續人ノ代理人トシテ相續人ノ權利ノミヲ行使スルモノニ非ス

第五節 遺言ノ取消

〔第一千一百二十四條〕

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其効力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコト

三
四
四五

三六
一九〇

三六
一九〇

ナシ

第七章 遺留分

○民法ニ於テ家督相續人ノ受クヘキ遺留分ヲ侵害シタリトハ被相續人カ生前處分若クハ死後處分ヲ以テ相續ニ因リ法律上相續人ノ受クヘキ權利ヲ處分シタル場合ヲ云フ

〔第一千一百四十二條〕

○民法第一千一百四十三條第二項ノ場合ニ受贈者ニ於テ贈與ノ目的ノ上ニ設定シタル權利カ其目的ノ爲メ輕微ナル負擔ニシテ遺留分權利者カ之ヲ甘受セント欲スル以上ハ其負擔ノ附著シタル儘返還スルモ之カ爲メ目的ノ上ニ權利ヲ有スル者ヲ害スルコトナキヲ以テ此場合ニ於テハ遺留分權利者ニ對シ贈與ノ目的ノ返還ヲ許ササルヘカラス

〔第一千一百四十五條〕

○民法第一千一百四十五條ニ所謂滅殺スヘキ贈與アリタルコトヲ知リタル時トハ遺留分權利者カ單ニ被相續人ノ財産ノ贈與アリタルコトヲ知ルノミナラス其贈與ノ滅殺スヘキモノナルコトヲ知リタルトキヲ指稱ス故ニ該贈與ニ付キ滅殺權アルコトヲ知ラサル場合ニハ同條ノ時効ノ進行

三九
二五三

三五
六
一五六

三七
一三七

ヲ始ムルコトナシ

○遺留分權利者カ被相續人ト第三者トノ間ニ行ハレタル不動産ノ賣買ヲ以テ虛偽ノ意思表示ナリト確信シ買主ニ對シテ賣買登記取消ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ起訴ノ當時該賣買ノ成立ヲ了知シタルモノト云フヲ得タ從テ其主張ニ反スル事實ナキ以上ハ該不動産賣買ニ對スル滅殺請求權ノ時効ハ訴訟提起ノ當時ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノニ非ス

元

元

六一

六一

商

法

商 法

第一編 總則

第一章 法例

(第一條)

『第一條』

○舊商法ノ施行中満期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時効期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレハ満期日ヲ算入スヘキモノニ非ス

○債務者ヲシテ質物ノ代理占有ヲ爲サシムル所ノ動産質ハ從來此ノ如キ商慣習アリトスルモ民法實施後ハ質權ノ效力ヲ喪フヘキモノトス

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

(刑) ○白紙委任狀ヲ使用シ記名株券ノ處分及ヒ流通ヲ容易ナラシムル商慣習ハ廣ク實際ニ行ハレ法律の效力ヲ有スルモノトス

○株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於

三六	三五	三五	三四
	六	二	一〇
三六	九	四七	一五

○テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

○内地裁判所カ内地人ト臺灣人トノ間ニ於ケル商事上ノ訴訟ヲ裁判スル場合ニハ臺灣ノ慣習ニ準據スヘキ限ニ在ラス

第二章 商人

○酒類製造業ヲ廢止シタル後ニ於テモ依然酒類販賣業ヲ持續スル事實アルニ於テハ其商人タル身分ヲ存續スルモノト云ハサルヘカラス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 商業登記

第十二條 『第十二條』

○支配人ヲ選任シタル者カ登記ヲ爲ササルトキハ其選任ノ事實ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモ第三者ヨリ之ヲ以テ其主人ニ對抗スルコトヲ妨ケス

四	三六	四二	三六
			九六
			二六
			七三
			一四七
			九九九

第十五條 『第十五條』

○商法第十二條ハ登記當事者カ登記スヘキ事項ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナレハ之ヲ援キテ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム後見人カ其登記ヲ爲ササルニ於テハ之ト商行爲ヲ爲シタル債權者ハ其債權ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ權ナシト謂フヲ得ス

第十五條 『第十五條』

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

(反對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

第四章 商號

第十六條 『第十六條』

三	三六	四	三六
			九〇八
			七〇
			五七九

○ 一個人ノ商號ハ民事訴訟法第九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱ト爲スヲ得サルモノトス

○ 商號ナルモノハ一定ノ商人カ取引上自己ヲ指示センカ爲メ使用スル名稱ニ外ナラサレハ使用者ハ他人ニ代リテ取引ヲ爲ス場合ト雖モ尙ホ其商號ヲ使用シ得ルモノニシテ登記ノ有無ハ毫モ之ニ關係ナシ

〔第十八條〕

○ 商會ナル文字ハ商人カ商號トシテ普通慣用スル語辭ニシテ其文字自體ハ會社ナル文字ト同一ノ意義ニ解スヘカラストスルモ之ニ合名ノ二字ヲ冠シ合名商會ト云フトキハ世人ヲシテ直ニ合名會社ナリト信セシムヘキ虞アルカ故ニ會社ニ非スシテ其商號中ニ合名商會ナル文字ヲ用ユルトキハ商法第十八條第二項ノ制裁ヲ免ルコトヲ得ス

〔第二十三條〕

○ 運送其他ノ營業ヲ讓渡スルニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スヲ通常トス故ニ其反證アラサル限ハ總テ讓渡アリタルモノト推定セサルヘカラス

第五章 商業帳簿

〔第二十五條〕

○ 商法第二十五條ハ商人ハ日日ノ取引其他ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載シタル帳簿ヲ備フルコトヲ要ストノ旨趣ニシテ此等ノ事項ヲ日日記入スルコトヲ強要シタルモノニ非ス

〔第二十六條〕

〔參照〕

商法第二十六條第一項ニ於テ商人又ハ會社ニ對シ定時ニ財産目録ヲ調製スルノ義務アルコトヲ規定シタルハ他人ヲシテ其時ニ於ケル資産ノ状態ヲ知悉セシムルノ旨趣ニ外ナラス故ニ其第二項ノ價格ナルモノハ客觀的ノ價格即チ目錄調製當時ノ交換價格ヲ指スモノトス

第六章 商業使用人

○ 商業使用人カ主人ニ代リテ其營業ニ關スル行爲ヲ爲スニハ主人ニ對シ忠實ニシテ其利益ヲ圖ルヘキモノトス故ニ其主人ノ爲メ不利益ナルコトヲ知リテ或行爲ヲ爲シ之ニ損害ヲ生セシムルニ於テハ其賠償ノ責任スヘキハ言ヲ竣タサレトモ右ノ行爲ヲ以テ法律上當然無効ナリトスルヲ得ス

〔第三十條〕

○ 支配人ハ主人ノ營業ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限

三四六 七

四〇 三九

四二 二九

三三〇 三三

四〇 九一

三五 五 五五

四一 一〇一

○ヲ有スルニ因リ其資格ニ於テ當然代理人ヲ選任シ得ルモノトス
 ○商法第三十條第一項ニ所謂營業トハ商行爲ヲ爲スコトヲ業トスルノ義ナルヲ以テ苟モ其業務ニ關スル行爲ハ性質ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ包含セルモノトス從テ支配人ノ代理スヘキ行爲ナリヤ否ヤハ行爲ノ性質自體ニ依リ決スヘキ事項ニ非スシテ代理セラルヘキ主人ノ營業ニ關スルヤ否ヤニ因リテ定マルモノナリ

第二編 會社

第一章 總則

〔第四十六條〕

○商法第四十六條ニ謂フ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ストノ規定ハ會社ノ目的トスル事業ニ直接ナル準備行爲ヲ爲シ得ストノ旨趣ナリ

〔第四十八條〕

○會社ノ行爲カ公ノ秩序ヲ害スルトキハ縱令其設立ノ目的ハ適法ナル場合ト雖モ裁判所ハ檢事ノ請求又ハ職權ニ因リ之カ解散ヲ命シ得ルモノトス

○商法第四十八條ニ所謂會社カ公ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲ストハ旅店若

四三

一七九

四三

七四

三六

二九九

三七

二二七

クハ料理店營業ノ會社ニシテ其店內ニ賭場ヲ開クコトヲ業トシ又ハ米穀賣買會社ニシテ空米相場ヲ爲スカ如キ會社ノ行爲カ公ノ秩序ニ反スル場合ヲ指稱ス從テ會社ノ役員カ業務ヲ執行スルニ當リ法規若クハ定款ニ違背シ誠實ニ其職責ヲ盡サス爲メニ株主及ヒ債權者ニ損害ヲ與ヘタル場合ノ如キハ之ニ包含セス

第一章 合名會社

第一節 設立

〔第五十三條〕

○商法第四百十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハズ總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

四三

一

四三

三七

三六

九〇八

(反對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトト問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

商法第五十三條ノ規定ハ其第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異同ハ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトト問ハス總テ變更登記トシテ登記スヘキ法意ナリト解セサルヘカラサルモノトス

○商法第五十三條ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキトハ會社ノ所在地並ニ取締役監査役ノ住所等ニ移動アリタル場合ハ勿論行政區畫改正ノ結果土地ノ名稱ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ指稱セルモノトス

(同法意)

商法第五十三條ニ所謂事項ノ變更ニハ住所ノ變更ヲ包含ス而シテ住所ノ變更トハ獨リ住所ノ土地家屋ニ移動ヲ生シタル場合ノミナラス其表示即チ土地ノ名稱又ハ番號ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ包含セルモノトス

(反對)

商法第五十三條中第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ地名改稱ノ場合ヲ包含セス單ニ事項其モノ即チ本支店ノ位置ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スモノトス

商法第五十三條ニ所謂第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ單ニ事項其モノノ變更ノ場合ノミヲ指シタルモノト狹義ニ解釋スヘキモノトス

三三	四	三四	三九	四〇	三四	三三
三二	六	二	〇	八四	六	四
二三	五	四	〇	二	五	七〇

第四節 社員ノ退社

第七十條

第七十條

○商法第七十條ニ所謂他ノ社員ノ一致トハ除名セラルヘキ社員ノ外尙ホ複數ノ社員アリテ其者等ノ意思ノ合致ヲ指稱スルモノトス從テ社員ノ除名ハ會社カ三名以上ノ社員ヨリ成ル場合ニ於テノミ有效ニ行ハルヘキモノナリ

第五節 解散

第七十四條

第七十四條

○商法第七十四條第七號ニ所謂裁判所ノ命令トハ獨リ同法第四十七條第四十八條ノ命令ノミナラス同法第八十三條ノ規定ニ基ク裁判所ノ判決ヲモ包含スルモノトス

第八十一條

第八十一條

○商法第八十一條ニ會社カ合併ヲ爲シタルトキハ云云トアルハ同法第七十八條ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ云云トアル其決議ヲ爲シタル時ヲ指スノ法意ニ非スシテ決議ヲ爲シタル後實際合併ヲ爲シタル時ヲ意味スル規定ト解釋セサルヘカラス

第八十三條

第八十三條

商法 會社 合名會社 社員ノ退社 解散

三三	三七	三四	三三
三二	三七	三三	三七
二三	五三	三三	三七

○商法第八十三條ニ依ル會社解散ノ請求ハ會社ニ對シテ爲スヘキモノニシテ個人タル社員ヲ相手取ルヘキモノニ非ス

第六節 清算

○民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ニハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

○會社ノ清算トハ會社解散ノ場合ニ於テ其現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ且債務ヲ辨濟シ若シ殘餘財産アルトキハ之ヲ引渡ス等ノ如キ會社財産ノ處分ヲ指稱セルモノトス

〔第九十一條〕

〔第九十一條〕

○商法第九十一條第一項第一號ニ所謂現務ノ結了トハ會社解散後ニ於ケル現在ノ事務ヲ結了スルト云フノ意義ニ外ナラス

〔刑〕

○酒造合資會社カ業務執行上犯法行為ヲ爲シ其結末ヲ告ケスシテ解散シタルトキハ清算人ハ之ヲ結了セシムルノ義務アリ從テ税法違犯ノ訴追ヲ審理ヲ受クルカ如キモ亦商法第九十一條第一號ノ所謂現務中ニ包含スルモノトス

〔參照〕

會社解散ノ決議無效ノ訴ハ商法第九十一條第二項ノ規定ニ該當スルヲ以テ清算人ハ會社ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

〔第九十二條〕

〔第九十二條〕

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財産トハ會社財産中ヨリ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムヘキ債權ヲ取除キタルモノヲ指稱スル文字ニシテ其動産タルト不動産タルト債權タルト將タ又其他ノ財産タルトヲ問ハス會社カ現ニ有スル總テノ財産ヲ包含スルモノトス

〔第九十五條〕

〔第九十五條〕

○商法第九十五條ニ所謂清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社ノ財産ヲ社員ニ分配スルヲ得ストハ會社ハ其負擔スル債務ヲ悉皆償却シタル後ニ非サレハ其財産ヲ分配スルヲ得ストノ意ニシテ相當ノ金額ヲ準備シ置クトキハ負債辨償前ニ在テモ財産ヲ分配スルヲ得トノ律意ニ非ス

第三章 合資會社

○會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニ在ルモノノ支拂ヲ求ムル權利ハ一ノ債權ニ外ナラスシテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故ニ特別

三七	五二三
三五	八
三九	一〇〇
三五	一〇二
四二	二七〇

三五	五	一〇一
三六	三	一〇一
三五	三	一〇一
三六	三	一〇一
三五	三	一〇一
三六	三	一〇一

ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲スニ妨ナキモノトス

〔第一百十二條〕

○合資會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一切ノ權利義務ヲ指稱スルモノナレハ普通ノ債權ト同視スヘキモノニ非ス

〔第一百十四條〕

○合資會社カ特ニ代表社員ヲ定メタル場合ト雖モ其解散シタル後ニ於テハ無限責任社員ハ各清算人ト爲リ且第三者ニ對シテ各自會社ヲ代表スヘキ資格權能アルモノトス

第四章 株式會社

第一節 設立

○株式會社ノ目的ニシテ主務省ノ認可ヲ受クヘキモノナルトキハ發起ノ際先ツ其認可ヲ受ケ而シテ後設立ニ關スル規定ニ從ヒ成立スヘキモノトス

○株式會社ノ發起人カ其資格ヲ以テ他人ニ對シ或債務ヲ約スルモ會社ハ必スシモ之ヲ引受ケサルヘカラサルモノニ非ス

三六

五〇二

三六

一四四

四〇

四一五

四二

三三〇

四二

三三〇

〔第一百二十條〕

○株式會社カ發起人ノ約シタル債務ヲ引受ケタルトキハ發起人ト契約シタル者ハ爾後會社ニ對シテ其履行ヲ請求スルコトヲ得ルモ會社ノ引受ケサル債務ハ會社ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス
○數名ノ發起人カ設立費用ヲ負擔シテ會社ヲ設立セントスル行爲ハ組合契約ニ酷似スルヲ以テ之ニ其規定ヲ準用スヘキモノトス
○發起團體ハ會社ノ前身ナルヲ以テ其發起ノ爲メニ生シタル權利義務ハ會社成立シ且之ヲ承認シタル場合ニハ其會社ニ承繼スルヲ當然トス從テ發起團體カ引受證據金及ヒ拂込株金ヲ他ニ預金ト爲シタルトキハ會社ハ直接ニ預金ノ債務者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

〔第一百二十條〕

○株式會社ノ目的ハ其定款ニ依リテ定マルモノトス從テ手形ノ支拂保證ヲ爲スコトカ株式會社タル銀行ノ目的ノ範圍内ニ在ルヤ否ヤハ其定款所定ノ目的ニ包含スルヤ否ヤニ據リテ之ヲ定メサルヘカラス

○株式會社ノ設立ニ際シ事實上發起人ノ如キ状態ニ於テ行動シタル者アルモ其氏名住所ヲ定款ニ記載セス且之ニ署名セサルトキハ其者ハ法律上會社設立ノ發起人ト云フヲ得ス
○株式會社ノ發起人カ定款ヲ作成シタルモ之ニ署名又ハ記名捺印セザリ

四一

三三

四〇

九六

四三

九六二

四三

九六二

四二

三三〇

シトキハ其定款ハ當初ヨリ無効ナルカ故ニ縱令會社カ既ニ登記ヲ經テ其事業ニ著手シ形式上存在スル如キ觀ヲ呈スル場合ト雖モ其設立ハ何等ノ手續ヲ竣タヌシテ當然無効ナリトス而シテ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルニ因リテ成立スル會社ナルト否トハ問フ所ニ非ス

【第二百二十九條】

○株式引受人ハ株主タル權利ヲ取得スルト同時ニ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負擔セルモノトス故ニ株金拂込ノ催告カ二週間ノ期間ヲ存セサル爲メ法律上ノ效力ナキコトヲ理由トシテ未タ拂込ノ義務ナシト云フヲ得ス
○株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行爲ニ非ス

【第二百四十一條】

○株式會社設立ノ登記ヲ爲スニ當リ各株式ニ付キ少クモ四分ノ一ノ金額ヲ拂込マサレハ其登記ハ適法ナラス然レトモ之カ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ尙モ登記ノ取消サレサル間ハ會社ノ法人資格ハ他人ニ對抗スルコトヲ得
○商法第二百四十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算ス

ヘキモノトス

○同一ノ者カ監査役ニ再選セララルモ是レ全ク改選ノ結果ニシテ即チ監査役ニ變更アリタルモノニ該當スルニ因リ更ニ之ヲ登記スヘキモノトス

○商法第二百四十一條第二項ノ規定ニ依リ株式會社ニ準用スヘキ同第五十一條第二項ニ所謂會社設立後支店ヲ設ケタルトキトハ株主總會ニ於テ新ニ支店ノ設立ヲ決議シタルトキヲ謂フニ非スシテ其決議後現實支店ノ開設アリタルトキヲ指スモノトス

第二節 株式

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミハ記載アリテ年月日及ヒ宛名ヲ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ帳轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

○記名株券ニ白紙委任狀ヲ添附シ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ帳轉流通スル慣習ノ存スル以上ハ縱令直接ノ當事者間ニ於テ祕密契約ヲ爲シ或場合ニ於テノミ白紙委任狀ヲ利用シテ株券ヲ處分スルコトヲ許シタル場合ト雖モ善意ニシテ且過失ナキ第三者カ慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ該祕密契約ニ基キ之ヲ攻撃ス

三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ルコトヲ得サルモノトス

○株式會社カ資本ヲ増加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ルヲ以テ既ニ引受ヲ爲シタル株主ニ於テモ其拂込ヲ拒絶スルノ權利ヲ有スルモノトス

○株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

(刑) ○記名株券ノ所有者カ其株券ニ委任狀及ヒ處分承諾證ヲ添ヘテ之ヲ相手方ニ交付シタル後第三者カ善意且過失ナク其相手方ヨリ該株券竝ニ附屬書類ノ交付ヲ受ケ之ヲ占有シタル場合ニハ第三者ヲシテ其正當ニ豫期シタル權利ヲ取得セシムヘキハ當然ナリ

(刑) ○如上ノ場合ニ於テ記名株券ニ添附セラレタル委任狀及ヒ處分承諾證カ眞正ノ成立ヲ有セサルカ若クハ其株券竝ニ附屬書類ノ授受カ正當權利者ノ任意ニ出テサルトキハ縱令第三者ニ於テ善意且過失ナク其引渡ヲ受ケ之ヲ占有スルモ該株券ニ付キ何等ノ權利ヲ主張シ得サルモノトス

○株主カ株式ニ因リテ有スル權利ハ單純ナル債權ニ非スト雖モ株式會社ノ營業ニ因リテ生スル利益ノ配當ヲ受クル權利アルノミナラス會社解散ノ後ハ清算ノ結果殘餘財産ノ分配ヲ受クヘキ權利アリ從テ株式ハ債權ノ性質ヲ包容シタル權利ト謂フヘシ

○株券記名者カ名義書換ノ手續ニ關スル白紙委任狀ヲ添附シタル株券ハ交付ニ依リ輾轉流通スルモノトス而シテ委任狀記名者ノ死亡ハ其輾轉流通ヲ妨クルノ事由ト爲ラス

○株主ハ株式引受ヲ爲シタル場合ナルト其讓渡ヲ得タル場合ナルトヲ問ハス株金支拂ノ義務ヲ有シ且其義務ハ株式ヲ讓渡スルモ之ヲ免ルヘキモノニ非ス

【第四百四十四條】

○商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社ノ資本充實ノ爲メ現實拂込ヲ爲サシムル必要ニ基因シタルモノナレハ株式讓渡人カ負擔セル株金辨濟ノ義務ヲ履行スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

(同旨)

商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社資本ノ充實ヲ期スル必要ニ基因シタルモノナレハ株式讓渡人カ其負擔セル株金辨濟ノ義務ヲ履行スル場合ニ於テモ亦同項ノ制限ニ羈束セラレルモ

三

七

三

二四

三

一〇四七

三

五四二

三

五四二

四〇

八〇六

四二

三四二

四三

六元

四三

九三七

〔第四百十九條〕

○會社設立登記前ノ株式讓渡ニ關スル給付ハ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ニ原因シタルモノト云フヲ得ス

○商法第四百十九條但書ノ規定ハ登記前ニ於テ株式ノ讓渡又ハ其讓渡ノ豫約ヲ許ストキハ株式ヲ投機ノ具ニ供スル弊害ヲ生シ兼テ又會社ノ基礎ヲ危クスルノ虞アルカ故ニ之ヲ豫防スルノ旨趣ニ出ツルモノトス從テ株式引受ノ未タ確定セサル場合ト雖モ該但書ノ適用ヲ妨クルコトナシ

四

六九

四

五〇

四

五六

〔第四百五十條〕

（參照）

會社カ株券ノ名義ヲ替替ユルハ株券ノ真正ナルコトヲ保證スルニ非スシテ株主ノ變更ヲ承認スルニ過キス

三

二六

商法第四百五十條ノ規定ハ記名株式ノ讓渡人若クハ讓受人ハ同條ノ手續ヲ了セサレハ會社及ヒ其他ノ第三者ニ對シ讓渡行爲ノ效力ヲ利用シ得サル旨趣ヲ聲明シタルニ外ナラスシテ會社及ヒ其他ノ第三者ノ爲メニ其行爲成立セサルノ趣意ニ非ス

三

一五三

株式會社ハ商法第四百五十條ノ手續未了前ト雖モ記名株式ノ讓渡人ニ對シテ讓渡行爲ノ存在ヲ主張シ以テ自己ノ利益ヲ防護スルノ權利ヲ有スルモノトス

三

一五三

商法第四百五十條ハ絶對的規定ナルカ故ニ苟モ記名株式ノ讓渡ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルニハ如何ナル場合ニ於テモ同條所定ノ手續ヲ踐ムコトヲ要ス

四〇

一〇四

〔第四百五十二條〕

○催告トハ特ニ之ヲ領受スヘキ人ニ對シ發スヘキモノニシテ公告ト同視スヘキニ非ス故ニ特殊ノ規定若クハ意思表示アラサル限ハ公告ヲ以テ催告ニ代フルコトヲ得ス

三五

五三

○株式會社カ其解散前ニ於テ既ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ適法ニ催告シタル以上ハ株主ハ會社ニ對シテ其義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ルモノトス故ニ其後會社カ解散ニ因リ清算ノ時期ニ移ルモ之カ爲メ株主ノ地位ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

三七

五九四

（刑）

○株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

三七

一七

○株式會社カ株主ヲシテ株金ヲ拂込マシムルニ當リ催告ヨリ二週日ヲ經過セル以後ニ拂込期日ヲ指定シ以テ拂込ノ期間ト爲スニ於テハ商法第百五十二條ノ要件ヲ具備シタルモノトス而シテ其期間ニ付テハ民法ノ期間計算法ニ從フヘキモノナルモ之カ爲メ同條ノ猶豫日數ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス

三六

一〇四

○株金拂込ノ催告ハ各株主ニ對シ二週間前ニ之ヲ行フコトヲ要ス從テ該期間ヲ存セサル催告ハ無効ナリ

三九

六

○株金拂込ノ催告ニシテ其要件ヲ具備セサルカ爲メ無効ニ歸シタル以上ハ縱令事實上二週間ヲ經過セル後再ヒ催告ヲ爲スモ商法第五百五十二條第二項ニ謂フ通知ノ效力ヲ生スルコトナシ

三九

六

○株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ經テ會社ノ承諾ヲ得テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令拂込義務者ト會社トノ合意アルモ代物辨濟又ハ更改等ニ因リテ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

三九

一三三

(同三三)

株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ經テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令當事者ノ承諾上代物ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ其履行ニ代ヘテ手形若クハ債務證書ヲ授受スルモ之カ爲メ株金拂込ノ債務ハ消滅スルモノニ非ス

三九

九八四

○商法第五百五十二條第一項ノ規定ハ株金ノ拂込ニ關シ會社ノ踐行スヘキ手續ヲ定ムルト同時ニ株主ノ爲メ期間ヲ設ケタルモノトス故ニ拂込ノ催告カ法定ノ期間ヲ存セサルニ拘ハラズ株主ニ於テ其期日ニ拂込ヲ爲スカ又ハ期日ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ承諾スルハ期間ノ利益ヲ拋棄セ

ルモノニ外ナラス

三九

二七〇

○株主ハ商法第五百五十二條第一項ノ拂込催告ニ因リテ均等ニ拂込義務ヲ生スルモノナレハ同條第二項ノ催告及ヒ失權通知ハ必スシモ總株主ニ對シテ均等ニ之ヲ爲スノ要ナシ

四〇

三〇七

○株式會社カ商法第五百五十二條第一項若クハ定款ニ定ムル期間ヨリ短キ催告期間ヲ以テ拂込ノ催告ヲ爲シタル場合ニハ縱令株主ニ於テ期間ノ利益ヲ拋棄スルモ之カ爲メニ失權ノ通知ヲシテ同第五百五十三條第一項所定ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ス

四〇

七三

【第五百五十三條】

○株主ノ權利トハ株式即チ義務ヲ包括スル一種ノ權利ヲ指稱スルニ外ナラサレハ株主ニシテ其權利ヲ失フ以上ハ株式ニ付キ何等ノ關係ナキニ至リ其結果株主タル資格ヲ喪失スルモノトス

三九

三四

○商法第五百五十三條ノ規定ハ拂込ノ義務ヲ怠リタル株主ニ對スル制裁ナルヲ以テ其株式ハ當然會社ニ歸屬スルモノトス故ニ競賣ノ結果滯納金額ヲ控除シテ餘剩ヲ生シタル場合ニ於テ會社カ其金額ヲ利得スルハ畢竟法律ノ規定ニ因ルモノナレハ之ヲ目シテ不當利得ト云フヲ得ス

三九

四五四

○株式會社カ現株主以外ノ者ニ對シ株金ノ拂込ヲ請求スルノ權ハ商法第

百五十二條及七第百五十三條ノ手續ヲ踐ミタル後同條所定ノ株式讓渡人竝ニ從前ノ株主ニ對シテノミ存スルモノトス

三六

三三七

○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ尙ホ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ當然株主タルノ權利ヲ失ヒ其株式ハ一旦會社ノ有ニ歸スルモノトス從テ同法第百五十三條ニ基ク競賣ノ讓渡人ハ會社ニシテ從前ノ株主ニ非ス

(同法百)

三六

三三七

商法第百五十三條第一項ハ會社カ同法第百五十二條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ナシテ會社ノ利益ノ爲メニ其株式ヲ失ハシメ而シテ會社ハ其各讓渡人ニ對シ拂込ノ催告ヲ爲シ最先ノ拂込者ニ其株式ヲ取得セシメ若シ其各讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ競賣ニ付スル目的ヲ以テ一時之ヲ取得スルモノト解釋スルヲ相當トス隨テ右株式ノ競賣ニ付キ賣主ノ地位ニ在ル者ハ從前ノ株主ニ非スシテ會社ナリトス

三六

三三四

○株式讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ株式會社ノ平常ノ場合ハ勿論破産ノ場合ニ於テモ亦商法第百五十二條及七第百五十三條ノ規定ニ依テ之ヲ定メサルヘカラス

三六

三二八六

○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ株式ノ拂込ヲ爲ササル場合ニハ其株主タル權利ヲ失却スト雖モ該株式ヲ競賣シ尙ホ滯納金存スルトキハ從前ノ株主ハ其義務者タル地位ヲ脱却スルコトヲ

得ス即チ從前負擔シタル株式拂込ノ債務不履行ノ地位ニ在ルヘキ法意ナリトス

三六

九五四

○商法第百五十二條ノ催告及七通知ヲ受ケタル株主カ當時未成年者ナリシトキハ會社ハ其株主ニ對シテ法定ノ手續ヲ履踐シタリト主張スルコトヲ得ス從テ其株主ハ拂込ヲ爲ササルモ之カ爲メニ當然失權ヲ來スヘキモノニ非ス

四〇

九二

○株金拂込ノ催告ニシテ定款所定ノ期間ヲ存セサルカ爲メ無効ト爲リタル以上ハ縱令第二回ノ催告ハ有效ニシテ且株主カ之ニ應セサリシトスルモ株主權喪失ノ效果ヲ生スルコトナシ

四二

五五五

○株式會社カ商法第百五十二條ノ規定ニ依リ株主ニ對シ株金拂込ノ催告ヲ爲シタルモ株主之ニ應セサル場合ニ於テ強制執行ノ手段ニ據リ其株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムルト將タ之ヲ失權セシムルトハ一ニ會社ノ自由ニ屬スルモノトス

ヲ以テ讓渡人ノ責任發生スルコトナシ

○數名ノ株式讓渡人中會社ニ對シ株金不足額全部ヲ辨濟シタル者ハ單ニ直接ノ讓受人ニ對シテ求償權ヲ有スルニ過キサレハ之ヲ踰越シ其以後ノ讓渡人ニ對シテ直接ニ求償ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○株式會社カ失權株主ノ株式ヲ賣却スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依ラサルトキハ縱令賣却代金ノ滯納金額ニ滿タサルコトアルモ株式讓渡人ニ對シテ其不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス

○商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ株式讓渡人カ會社ニ對シ株金ノ不足額ヲ辨濟スヘキ義務ハ數人相次テ株式ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ各讓渡人平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スルモノニ非スシテ各自其不足額全部ニ付キ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス

（同主旨）

株式カ相次テ數回讓渡セラレタル場合ニ於テ會社ニ對シ讓渡人ノ負擔スル債務ハ一ノ擔保義務ニ外ナラスト雖モ民法ニ謂フ保證人ノ債務ト異ナリ分割義務ニ非スシテ全部義務ナリトス

○株主カ商法第百五十三條第二項ノ規定ニ依リ其權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ株式ノ競賣ニ因リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキ從前ノ株主ヨリ其不足額ヲ辨濟スルハ即チ株金ノ拂込ヲ爲スモノニ外ナラズ

三六	二八六
三七	一三七
四〇	一六五
三元	一四八
三七	一三七
四三	三三一

○株式讓渡人カ商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ競賣不足額ヲ辨濟スル債務ハ株金辨濟ノ義務ニシテ損害賠償ノ義務ニ非ス

○商法第百五十三條第三項ニ所謂競賣トハ競賣法ノ規定ニ依ルヘキモノヲ指稱シ之ニ據ラサル競賣ハ當然無効ナリトス而シテ其無効ハ何人ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

（同主旨）

株式會社カ商法第百五十三條第三項ニ依リ失權株主ノ株式ヲ處分スル場合ニハ競賣法ノ規定ニ據ラサルヘカラス然ラサレハ其競賣ハ全然無効ニシテ法律上何等ノ效力ヲ有セサルモノトス

○商法第百五十三條第四項ノ規定ハ株主ノ滯納金タル債務不履行ニ因リ會社カ辨濟ヲ請求スル場合ニハ其遲延利息ヲ損害賠償トシ又ハ競賣ノ費用等ヲ損害賠償トシテ請求スルコトヲ妨ケストノ法意ナリ

○商法第百五十三條第一項ニ依リ株主タル權利ヲ喪失セシ者ニ對シ會社カ拂込ノ履行ヲ求メスシテ損害賠償トシテ未拂込ノ金額等ヲ請求スルハ法律ノ許ササル所ナリ

○株式會社ノ定款ヲ以テ豫定シタル株金拂込ニ關スル損害賠償額ハ會社ニ生シタル損害ノ賠償金額ト看做スヘキモノニシテ株金ノ拂込ト其性

四三	六九
四三	九七
三元	一四六
三元	九五
四〇	二九三

質ヲ同ウセス

〔第五百五十四條〕

○株式會社カ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ讓渡人ニ對シ商法第五百五十三條第二項ノ催告ヲ爲シタル一事ハ以テ同法第五百十四條ノ法定期間ノ内外ヲ問ハス會社カ讓渡人ニ對シ競賣不足額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ論據ト爲スニ足ラス

○株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社カ商法第五百十三條第三項ニ從ヒ競賣不足額辨濟ノ催告ヲ爲シタル以上ハ其訴訟ノ提起ハ縱令辨濟催告ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シ又ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル日ヨリ二年以上ヲ經過シタル後ニ在ルモ讓渡人ハ同法第五百十四條ノ免責ノ利益ヲ受クルコト能ハス

○商法第五百十四條ノ免責規定ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後三年ノ法定期間内ニ同第五百五十三條第三項ノ競賣不足額ニ付キ會社ヨリ讓渡人ニ對シテ辨濟ヲ請求シタル場合ニ在ラザレバ其適用ナキモウ

第三節 會社ノ機關

○株主ハ其資格ニ於テ直接ニ取締役若クハ清算人ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權

利ヲ有セス

○株式會社支店長カ數年間該支店ニ於テ支配人ノ如ク一切ノ會社業務ヲ處理シ殊ニ手形ノ振出支拂等ニ付キ同會社ヲ代表シ來リタル事實アル以上ハ其間手形振出行爲ニ付キ會社ヲ代理スル權限ヲ有セシモノト認定スルモ違法ニ非ス

第一款 株主總會

○投票ハ其記載明確ナラズ又ハ誤記アル場合ニ他ノ證據ニ依リ何人ノ投票ナルヤヲ明確ニ知り得ルニ於テハ其投票ヲ無効トスヘキ條理ナシ

〔第五百五十六條〕

○商法第五百五十六條第一項ニ所謂各株主トハ記名式ノ株券ヲ有スル株主ヲ指稱セルモノトス而シテ記名式ノ株券ヲ有スル株主トハ同第五百七十一條及ヒ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒ株主名簿ニ其氏名住所ヲ記載シ且自己ノ氏名ヲ株券ニ記載シタル者ノ謂ナリ

(參照)

商法第五百五十六條第二項ハ株主ナシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セラルヘキ事項如何

三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムル規定ナルヲ以テ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

商法第五十六條第二項ノ規定ハ株主ヲシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セラルヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムルノ注意ナリトス故ニ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

株式會社カ一定ノ金員ヲ借入レントスル場合ニ於テハ其利率及ヒ償還期限ノ如キ若クハ借入ノ實行ヲ取締役又ハ株主中ヨリ選出スル委員ニ一任スルコトノ如キハ唯附從ノ事項タルニ過キサルヲ以テ商法第五十六條第二項ノ所謂決議スヘキ事項ニ該當セス

〔第六十一條〕

○官吏カ公法上ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ場合ニ於テハ公法上別段ノ規定アルニ非サレハ其權限ヲ證スヘキ書面ノ提出ヲ必要トセス從テ代理權證明書ノ提出義務ニ關スル私法上ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

〔第六十三條〕

(參照)

株主總會ニ於テ出席株主カ其權利數以外ノ投票ヲ爲シ又ハ正當ノ委任狀ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ此等ノ投票ヲ無効トシ又ハ除却シタリトテ株主權ノ行使ヲ妨害スルモ

三五	七
三七	五九
四〇	六三
四〇	一〇三

ノニ非サレハ之カ爲メ總會ノ決議ヲ無効トスヘキ理由ナシ

株式會社ノ總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ不法ナルノ故ヲ以テ總會ノ決議ヲ無効ト爲スニハ舊商法ニ依リタルモノナルト新商法ニ基キタルモノナルトヲ問ハス訴ヲ以テ無効タルノ宣告ヲ受ケサルヘカラス

株主總會ニ於テ株主ニ非サル者及ヒ其代理人ニ非サル者カ決議ノ數ニ加ハリタルトキハ商法第六十三條ニ所謂決議ノ方法カ法令ニ反スル場合ニ外ナラサレハ之ヲ原因トシテ總會決議ノ無効ヲ確定セントスル株主ハ同條ノ規定ニ依リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ

商法第六十三條ニ該當スル株主總會ノ決議ト雖モ裁判所ノ無効宣告アル迄ハ有效ニ存立スルモノトス

株主總會ヲ招集スルニ當リ或株主ニ通知ヲ發セサルトキハ其株主ノミナラス他ノ總テノ株主ト總會ノ決議無効ノ宣告ヲ請求シ得ルモノトス

商法第六十三條ニ規定セル株主總會ノ決議ハ裁判所ノ宣告ヲ待チテ始メテ無効ト爲ルモノナレハ現ニ解散ノ状態ニ在ル會社ニ對シテハ清算人ヲ會社ノ代表者トシテ其決議無効ノ請求ヲ爲スヘキモノトス

會社カ株主總會ヲ招集スルニ當リ株主ノ一部ニ對シテ其通知ヲ發セサルトキハ商法第六十三條ノ所謂總會招集ノ手續カ法令ニ反スル場合ニ外ナラズ故ニ斯ノ如キ總會ノ決議ハ絕對ニ無効ナルモノニ非スシテ株主ヨリ其無効宣告ヲ請求シ裁判所ノ宣告ヲ待チテ始メテ之カ無効ヲ主張シ得ルモノトス

〔第六十三條ノ二〕

(參照)

商法 會社 株式會社 會社ノ機關 株主總會

三四	九
三五	七
三八	五三〇
四〇	一〇
四三	二五〇
四二	二五〇
四二	五二四

〔第六十三條ノ三〕

商法第六十三條ニ於テ總會ノ決議無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ株主ニ許シタル規定ハ株主ノ取消權ヲ認メ之ニ基キテ決議ノ取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於テ取消ヲ請求スル期間ヲ限定シタルニ依リ明瞭ナリ

〔第六十三條ノ三〕

(參照)

舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ

商法第六十三條第三項ノ株券ヲ供託スヘキ條件ハ訴ノ要件ナルヲ以テ之ヲ爲ササルトキハ其訴訟ハ不成立ニ歸スルモ起訴ト同時ニ之ヲ爲サスニテ訴訟ノ進行中何時ニテモ其手續ヲ爲シ之ヲ追補シ得ルモノトス

第二款 取締役

○株式會社ノ支配人カ其財産ヲ費消シタルトキハ會社ハ損害ヲ被フリタルモノナレハ此事實ニ因リテ監督義務者タル取締役ニ對シテ損害賠償ノ請求權發生スルモノトス而シテ費消者ノ資力ノ有無如何ニ依リ此請求權ニ何等ノ消長アルモノニ非ス

○株式會社ニ支店アリテ或取締役カ專ラ其事務ヲ擔當スヘキ場合ニ於テ監督不行届ニ因リ會社ニ損害ヲ生シタルトキハ其取締役ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラス

○社長ナル名稱ハ民法商法其他ノ法律ニ於テ特ニ認メラレタル稱呼ニ非サレトモ我國ノ取引上慣用セラルル一種ノ熟語ニシテ會社ノ主席取締役ヲ意味スルモノトス

〔第六十四條〕

○株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラレタル取締役ハ商法第六十八條ノ株券ヲ供託スルト否トニ拘ハラヌ取締役ノ任務ヲ有效ニ行フコトヲ得ルモノトス

○株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ハ單獨行爲ナルカ故ニ被選者ノ受諾就任ヲ竣ツコトナク其決議ノミニ因リテ直ニ選任ノ效力ヲ生スルモノトス

(同旨)

株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役ノ選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ス故ニ其效力ハ被選者ノ承諾ヲ俟タズシテ發生スルコト勿論ナリ

〔第七十條〕

(參照)

民法第四十四條第一項ノ規定ハ商法第七十條ニ依リ株式會社ノ取締役ニ準用スヘキモノナルカ故ニ取締役カ被用者ノ選任又ハ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リ因テ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ法人タル會社ニ於テ其實ニ任スヘキモノトス

四二	四二	三五	三三	三三
二	二	五	二	二
三三	二元	三三	三三	三三

四一	三五	三三	三三
二	二	二	二
三三	二元	三三	三三

チ分タス會社ハ常ニ手形ノ無効ヲ主張シテ支拂ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

〔第七十七條〕

(參照)

株式會社ノ取締役カ會社ノ營業科目ヲ誤テ汎博ニ登記シタル場合ト雖モ其營業科目ハ依然定款ニ定メタルモノニ外ナラサレハ取締役カ定款ニ反シ營業科目ニ屬セサル行爲ヲ爲シタルトキハ會社ハ之ニ關シ責任ヲ有セス
株式會社ノ業務執行ニ關シ不法行爲アル場合ニ於テハ其行爲ニ與リタル者ノミ之カ責ニ任スヘキモノトス

株式會社ノ取締役カ會社ノ機關及ヒ其法定代理人トシテ之ニ對シ種種ノ義務ヲ負擔スルハ契約關係ニ非スシテ法律ノ規定ニ基ク一種ノ義務ナリトス故ニ取締役カ此義務ニ違背シ會社ニ損害ヲ生ゼシメタルトキハ其賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三款 監査役

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス

〔第八十五條〕

○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ付キ會社ヲ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

第四節 會社ノ計算

〔第九十三條〕

○株式會社ノ取締役カ定時總會ニ於テ商法第九十條ニ掲タル書類ヲ提出シ且其故意又ハ過失ニ因リテ生ジタル損失ヲ報告シ總會ノ承認ヲ受ケタルトキハ會社ニ對スル責任ハ不正行爲アリタル場合ヲ除ク外之ニ因リテ解除セララルモノトス從テ會社カ損害賠償ニ關スル取締役ノ責任ヲ免セサラシメント欲スルトキハ總會ニ於テ承認ヲ與ヘサルカ又ハ斯ノ如キ場合ト雖モ依然其責任ヲ負フヘキ旨ヲ特約セシムルコトヲ要ス

○株式會社カ取締役ヲシテ如上ノ特約ヲ爲サシメタル後之ヲ定時總會ニ提出シ其承認ヲ經タルトキハ縱令總會カ取締役ノ事業報告ニ對シ何等ノ留保ヲ爲サスシテ承認ヲ與ヘタル場合ニ於テモ其取締役ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ハ該特約ニ依リ依然存續スヘキモノトス
○株主總會ノ承認ハ専ラ總會ニノミ屬スルモノナレハ會社ハ反對ノ事項ヲ約定シテ之ヲ左右スルコトヲ得ス從テ會社カ其意見ノミニ依リ如上ノ特約ヲ爲シタルトキハ何等ノ效力ヲ有セスト雖モ該特約ヲ總會ニ提出シ之カ承認ヲ受ケタル以上ハ其有效ナルヘキハ當然ナリ
○株式會社ノ取締役カ商法第九十條ニ掲タル書類ヲ定時總會ニ提出シ

四二

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

テ其承認ヲ經タル場合ト雖モ該書類ニ掲記セサル事項ニ付テハ未タ其責任ヲ解除セラレサルモノトス

〔第九十八條〕

○商法第九十八條ノ株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムルコトニ付テハ法律上別ニ何等ノ制限アラサルヲ以テ獨リ現在ノコトニ止マラス必要アルニ於テハ既往ニ遡リテ調査セシムヘキモノト解セサルヘカラス

○申請ノ取下ハ各人ノ自由意思ニ屬スルモノニシテ其單獨ニテ申請ヲ爲シタル場合ト他人ト合同シテ之ヲ爲シ其合同カ申請ノ目的ヲ達シ得ヘキ一ノ要件タリシ(例ヘハ検査役選任ノ申請ノ如キ)場合トニ依リテ差異アルモノニ非ス

○商法第九十八條ニ依ル検査役選任ノ申請事件ニ付テハ其検査役ノ調査ヲ受クヘキ會社ハ該事件ノ相手方ニ非ス故ニ其決定ノ當事者表示ノ部ニ會社ヲ表記セサルモ不法ニ非ス

○商法第九十八條ハ検査役選任ノ請求ニ付キ一モ條件ヲ附スルコトナケレハ裁判所ハ請求者カ果シテ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ之ニ該當スルニ於テハ會社財産ノ狀況危殆ナラサ

四

二元

三

七

四

三

五

一〇
二二

三

六九

ルコト或ハ其他ノ理由ヲ以テ該請求ヲ拒否スルノ權ナシ從テ會社ハ其検査役選任ノ裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリト云フヲ得ス

○商法第九十八條ハ會社解散前ニ關スル規定ニシテ會社解散シタルトキハ同條ノ規定ニ依リ検査役ヲ選任スヘキモノニ非ス

第六節 定款ノ變更

〔第九十九條〕

(參照)

株式會社カ資本ヲ增加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ルヲ以テ既ニ引受チ爲シタル株主ニ於テモ其拂込チ拒絶スルノ權利ヲ有スルモノトス

第七節 解散

○取締役ハ會社ヲ代表シ其本來ノ目的タル業務ヲ執行スル爲メ選任セラレルモノナレハ會社カ解散スルトキハ之ト同時ニ當然其代表者タル資格ヲ失フモノトス

第八節 清算

〔第二百三十四條〕

(參照)

解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ササルヘ

商法 會社 株式會社 定款ノ變更 解散 清算

三

一三九

四

一〇九

三

二四

三

五二六

カラス

民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナル
モ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

解散シタル株式會社ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ商法第五百十二條及ヒ第五百十三條
ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

清算中ニ在ル會社ニ對シ訴訟ニ依リ其解散ニ關スル決議ノ無効ヲ確認セシメントスルニハ清
算人ヲ會社ノ代表者ト爲スヘク此場合ニ於テ清算人ハ其職務權限ヲ以テ會社ノ代表者タルヘ
キモノトス

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株
金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第
九十二條ヲ適用スヘキモノトス

破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル場合ニ於テハ商法第二
百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

株式會社ノ清算人カ其就職ノ日ヨリ二个月ヲ經過シタル後債權申出期間ヲ定メテ催告スルハ
法律ノ認メサル所ニシテ又一旦適法ニ定メタル期間ハ爾後之ヲ變更スルコトヲ許ササルモノ
トス

清算中ノ會社ト雖モ其債務ノ履行ニ付キ必要ナリトスルトキハ株金拂込ノ請求ニ關スル規定
ニ從テ株主及ヒ株式讓渡人ニ對シテ其權利ヲ實行スルコトヲ得

○從テ株主及ヒ株式讓渡人ニ對シテ其權利ヲ實行スルコトヲ得

第六章 外國會社

【第二百五十五條】

○商法第二百五十五條ハ外國會社ノ法人タルト否トヲ區別セサレハ日本

ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ其本國法ニ於テ法人タラサル場合ニ於テ
モ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ商法ノ規定ニ依リ日本ニ於ケル代表
者ヲ定メタルトキハ其者ハ會社ノ營業ニ付キ一切ノ裁判上又ハ裁判外
ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有シ其日本ニ設ケタル支店ノ營業ニ關スルト外
國ニ在ル本支店ノ營業ニ關スルトヲ論セス會社ノ營業全部ニ付キ代表
權ヲ有スル法定ノ代理人ナリトス

○外國會社カ日本ニ設置セル一支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル代表
者ハ日本全國ニ對シテ代表權ヲ有ス從テ内國中他ノ地方ニ於テ更ニ支
店ヲ設ケタル場合ニ重ネテ其支店所在地ニ登記ヲ爲ササルモ之カ爲メ
全國ニ於ケル代表權ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社
ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限
ヲ有スヘキモノトス

第七章 罰則

三	四	五	六	七	八	九
一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三
二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇
三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七
三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四
四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一
五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八
五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五
六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二
七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九
八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六
八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三
九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

三	四	五	六	七	八	九
一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三
二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇
三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七
三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四
四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一
五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八
五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五
六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二
七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九
八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六
八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三
九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

第二百六十二條

(參照)

第二百六十二條

商法第二百六十二條第十號規定ノ旨趣ハ要スルニ民法第七十九條ノ期間内ハ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ清算人ニ禁シタルニ止マリ此規定アルカ爲メニ既ニ到來シタル辨濟期延長スルモノト云フヲ得ス

株式會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作成スル事務ノ如キハ必スシモ取締役躬親ヲ之ニ從事スルコトヲ要セス故ニ其監獄ニ拘禁セラレ執務不能ノ境遇ニ在ル場合ト雖モ取締役ハ商法第二百六十二條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

法令ノ規定ニ依リ株式會社カ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作成スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ作成セサルトキハ縱令其以前ニ於テ作成シタル財産目錄及ヒ貸借對照表アリトスルモ商法第二百六十二條第二號ニ該當スル違犯行爲タルコトヲ免レス

商法第二百六十二條第一號ニ於テ會社ノ取締役カ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲スコトヲ禁スルハ單ニ共會社又ハ株主ノ利益ノミヲ保護スル爲メニ非スシテ一般ニ公益ヲ保護スルノ必要ヲ認メタルニ因ルモノトス從テ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シタル取締役ハ之カ爲メニ會社若クハ株主ノ利益ヲ害セサルノ故ヲ以テ同條ノ適用ヲ免ルルコトヲ得ス

第二百六十一條

(參照)

第二百六十一條

商法第二百六十一條第一項第九ニ所謂不正ノ記載トハ其記載ノ正シカラサルヲ云フモノニシテ詐欺又ハ故意ニ出テタルトキハ勿論過失ニ基クテキト雖モ此規定中ニ包含スルモノトス株式會社ノ監査役カ死亡シタル場合ニ取締役カ變更登記ヲ爲スコトヲ怠リタル理由ヲ以テ之ヲ過料ニ處スルニハ其過失ニ因リ法定ノ期間内ニ登記ヲ爲サザリシ事實アルコトヲ要ス

商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滯ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滯アル以上ハ其原因ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス

株式會社ノ取締役カ其本店並ニ支店ノ所在地ヲ管轄スル各登記所ニ對シ變更登記ノ申請ヲ怠リタル場合ニ於テハ其各行爲ハ各一箇ノ犯則ヲ構成スルモノトス

第三編 商行爲

第一章 總則

- 銀行及ヒ商人間ニ信用ヲ開ク爲メ汎ク行ハルル根抵當ハ有效ナリ
- 金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ
- 銀行カ金圓預ケ人ニ對シ其印章ヲ押捺セル預金通帳ヲ持參スル者ニ支拂ヲ爲スヘキコト及ヒ該印影ノ盗用ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ調査スル義務ナキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス
- 株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行爲ニ非ス

三五	四	三六	三六	三五
五				九
五		二六九	二六九	四九
		五二八		

三九	四〇	三九	四一	四三
六二	二五〇	八四	二〇七	九七
			一五五	
			二〇七	
			九七	

第二百六十四條
(刑)

【第二百六十四條】

○芝居茶屋業ハ商行為ナリ

○商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引トハ法令ノ規定ニ依リ銀行ニ於テ行フ所ノ法律行為ノ義ニシテ即チ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ若クハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲スノ行為ヲ指稱セルモノトス從テ單ニ金錢ノ貸付ノミヲ爲ス行為ハ銀行取引ト稱スルコトヲ得ス

○金錢ノ貸付ト雖モ媒介行為タル徵標ナキモノハ銀行取引ニ屬セス

第二百六十五條

【第二百六十五條】

○製糸ノ販賣ヲ營業ト爲シ其營業ノ爲メニ他人ヨリ立替金ノ給付ヲ受ケタル行為ハ商法施行以後ハ勿論其以前ト雖モ商行為ニ屬シ其行為者ハ商人ノ資格ヲ有シタルモノトス

○商法施行前ニ於テハ如何ナル行為カ商行為ナルヤニ付キ特別ノ法規存セザリシト雖モ商人カ營業ノ爲メニスル行為ノ商行為タルコトハ當然ノ條理ナリトス

○商法第二百六十五條ニ所謂商人カ其營業ノ爲メニスル行為トハ商人カ其營業ノ爲メニ外部トノ關係ニ於テ爲ス所ノ行為ヲ指稱ス故ニ共同商業者間ニ於テ共同營業ニ關スル内部關係ヲ定ムル契約ノ如キハ之ニ包

三	九
三七	一七七
四一	七六〇
三元	八六
三元	一三八

合セス

○會社ノ支配人カ會社ノ爲メニ金錢ヲ借入レタルトキハ縱令其營業カ金錢ノ貸借ヲ目的トセサル場合ト雖モ反證ナキ限り該行為ハ會社ノ目的遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムルヲ當然トス

第二百六十六條

【第二百六十六條】

○商法第二百六十六條前段ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知リタルト否トニ拘ハラサル規定ニシテ其後段但書ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラザリシトキハ代理人ニ對シテモ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明カニシタルモノトス

第二百七十三條

【第二百七十三條】

○手形ニ振出人數名アルトキハ其一人ニ爲シタル呈示ハ總テノ振出人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス

○共同運送業者カ船舶所有者ニ對シ備船料ヲ支拂フ義務ヲ負擔セル場合ニ於テ其立替支拂ヲ他人ニ委任スルハ即チ商行為ニ外ナラサレハ受任者ニ對シ各自連帶シテ償還ノ義務ヲ負擔スヘキモノトス

第二百七十七條

【第二百七十七條】

四	八三
四	二〇八
三元	七五
三七	一五七
四二	四六

○商行為ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ民法第三百四十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ設定行爲ニ於テ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ特約シタルトキハ其特約ハ有效ナリ

【第二百七十九條】

○商法第二百七十九條ノ規定ハ指圖債權又ハ無記名債權ニ付テハ民法第四百十二條第一項ノ適用ナキ旨ヲ明カニシタルモノニ過キスシテ訴訟ニ於ケル付遲滯ノ準則ヲ示シタルモノニ非ス
○約束手形ノ所持人カ履行ノ請求ヲ以テ時効ヲ中斷セント欲スル場合ニハ裁判上ノ請求ヲ除ク外必スヤ商法第二百七十九條ノ規定ニ準據スルコトヲ要ス然ラサレハ其請求ハ時効中斷ノ效ヲ生セス
(同主旨)

手形ノ呈示ヲ伴ハサル支拂ノ催告ハ無効ニシテ時効中斷ノ效果ヲ生セス

○商法第二百七十九條ニ所謂履行ノ請求ヲ爲シタル時トハ裁判上ノ請求ニ在テハ訴狀カ相手方タル債務者ニ送達セラレタル時ヲ謂フ
(反對)

裁判外ノ請求ノ場合ニ於テ手形債權者カ其債務者チシテ遲滯ノ責ニ任セシムルニハ履行期限ノ到來シタル後手形ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルモ裁判上ノ請求ノ場合ニ於テ

三七

八三

三六

一四二

三六

一四五

三六

八九

四三

三四

ハ債權者カ其履行ノ訴ヲ有效ニ提起スルトキハ其提起ノ時ヨリ債務者チ遲滯ニ付スルモノトス

【第二百八十二條】

(參照)

證券裏書ニ關スル商法第二百八十二條第四百五十七條及ヒ明治三十三年法律第十七號ハ證券ノ流通ヲ圓滿ナラシムル爲メ設ケタルモノニシテ專ラ公益ヲ圖リタル規定ナリトス
證券ヲ讓渡スルニ當リ讓渡人ニ於テ裏書讓渡欄内ニ捺印ノミヲ爲シ氏名ノ記入ヲ讓受人ニ委任シタルトキハ讓受人ハ委任ノ旨趣ニ從ヒ讓渡欄内ニ讓渡人ノ氏名ヲ記入シ裏書ニ關スル商法及ヒ明治三十三年法律第十七號所定ノ形式ヲ完備セシムルニ非サレハ其證券ノ裏書讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

【第二百八十五條】

○債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ本來ノ債權カ其形體ヲ變シタルニ過キスシテ別箇ノ債權ヲ成スモノニ非ス故ニ本來ノ債權カ商行為ニ因リテ發生シタルモノナルトキハ其不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權モ亦然ラサルヲ得ス

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行為ニ因リテ生シタル

三六

一四二

四三

二二

四三

三二

四二

三三

モノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第三百三十七條及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時効ニ罹ルモノトス

第一章 賣買

○商品ニ關スル損害賠償額ハ特別ノ事情ナケレハ契約ノ價額ト市價トノ差額ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナリ

〔第二百八十六條〕

○商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキ賣主カ之ヲ供託シ又ハ競賣スルコトヲ得ルニハ先ツ買主ヲ遲滯ニ付シタルコトヲ必要トス

○商法第二百八十六條ハ賣主カ適法ノ提供ヲ爲シタルコトヲ前提トシテ規定セラレタルモノナレハ同條ノ催告ハ即チ競賣ノ前提條件ニシテ之ヲ以テ直ニ民法第四百九十三條ノ所謂受領ノ催告ト同一視スヘキモノニ非ス

第四章 匿名組合

〔第三百一一條〕

○單ニ匿名組合契約ヲ解除スルコトト匿名組合ノ解散及ヒ出資金ノ返還ニ關スル契約ヲ取結フコトトハ之ヲ同視スヘキモノニ非ス

第五章 仲立營業

〔第三百六十六條、第三百七十七條〕

(刑)

○仲立人カ其媒介ヲ依頼セラレタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ豫メ給付ノ目的物ヲ受領スルコトハ商法ノ認許セサル所ナルヲ以テ其受領行爲ハ仲立人ノ業務上ノ行爲ナリト云フヲ得ス

〔第三百二十二條〕

〔第三百二十二條〕

○仲立營業者カ其媒介シタル商行為ニ付キ商法第三百八條ノ手續ヲ終リタルトキハ茲ニ報酬請求權發生シ媒介行爲ノ後日實行セラルト否トヲ問ハサルヲ以テ通例トス然レトモ當事者カ特ニ該請求權ノ發生ヲ媒介行爲ノ實行ニ繋ラシメ其實行ナケレハ報酬ヲ請求シ得サルコトヲ約スルハ違法ニ非ス

第六章 問屋營業

〔第三百十三條〕

商法 商行為 仲立營業 問屋營業

四二

二三九

三七

一四四

四

九九四

四

九九四

三

七七五

三

九七一

四

八二〇

○委託販賣トハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ商品ヲ委託シ之カ販賣ヲ委任スルヲ云フ故ニ其販賣ノ時機及ヒ直段ニ付キ別ニ商習慣又ハ特約ノ存セサル限ハ受託者ニ於テ相當ト思料スル時機及ヒ直段ヲ以テ適宜ニ之カ販賣ヲ爲シ得ルモノトス

〔第三百十四條〕

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス

○仲買人ハ取引所ニ於テハ自己ノ名ヲ以テ取引スヘキモノナレトモ仲買人ト注文者トノ間ニハ委任關係存スルヲ以テ取引所ニ於ケル取引直段ト注文者ニ報告シタル直段トハ同一ナラサルヘカラス

○取引所仲買人カ委任者ノ承諾ヲ得シテ爲シタル轉賣若クハ買戻ハ委任者ニ對抗スルコトヲ得ス

○取引所仲買人カ爲シタル轉賣若クハ買戻ヲ委任者カ承諾セサル場合ニ於テ仲買人カ更ニ委任者ノ爲メニ賣建若クハ買建ヲ爲シ之ヲシテ初ヨリ轉賣若クハ買戻セサリシ地位ニ在ラシムル商慣習ハ法令ニ違背スル

所ナク又委任ノ本旨ニ背反スル所ナシ

第七章 運送取扱營業

〔第三百二十一條〕

○運送取扱ノ委託者ハ運送取扱人ニ對シテハ取次行爲ニ因リテ生スル債權ヲ主張シ得ルモ取次行爲ノ相手方其他ノ第三者ニ對シテハ運送取扱人ヨリ其債權ノ移轉ヲ受クルニ非サレハ直ニ自己ノ債權トシテ之ヲ行使スルコトヲ得ス

〔第三百二十二條〕

○商法第三百二十二條ニ所謂運送ニ關スル注意云云ノ規定ハ運送人ニ適用スヘキ同法第三百三十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘキ程度ハ運送品ノ性質其他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハス

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷

三四 五 九

四〇 六九四

三五 四 二九

三三 四 二五

三三 六 二四

三三 一〇 二六

三三 五 九

第三百二十八條

主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

第三百二十八條

○商法第三百二十八條第一項ニ所謂運送取扱人ノ責任トハ商法上特ニ運送取扱人タル資格ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ總括的ニ指稱セルモノトス而シテ此規定ハ運送人ニ準用セラルルヲ以テ運送人ハ其資格ニ基ク賠償責任ノミニ付キ同條ノ消滅時效ヲ援用スルコトヲ得

○商法第三百二十八條第二項ハ運送貨物ノ全部滅失シタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ運送會社カ荷送人ニ貨物引換證ヲ交付シ後更ニ他ノ引換證ヲ作成シテ他人ニ貨物ヲ引渡シ質權者ニ損害ヲ加ヘタル如キ場合ニ適用スヘキ規定ニ非ス

第八章 運送營業

第一節 物品運送

○債務者カ運送貨物ノ取扱ニ關シ將來負擔スルコトアルヘキ債務ヲ確保スル爲メ運送人ニ保證金ヲ納付シタル場合ニハ其貨物取扱ニ關スル契約終了後運送人ニ對シテ債務ヲ負擔スルコトナキ事實確定セサレハ之カ返還ヲ請求シ得サルモノトス從テ債權者ハ縱令此債權ヲ差押ヘ且轉

付命令ヲ受クルモ運送人ニ對シテ直ニ保證金ノ支拂ヲ要ムルコトヲ得

○運送人カ運送品ヲ荷受人ニ引渡シ運送ヲ結了スルニハ一ニ運送契約ノ旨趣ニ服從セサルヘカラス故ニ該契約ニシテ運送品カ到達地ニ達シタル後ト雖モ荷受人ニ引渡スヘキ指圖アルマテ其地ノ運送店ニ之ヲ留置スル旨趣ニ出テタルトキハ運送人ハ引渡ノ指圖アルマテ運送品ヲ保管スヘキ義務ヲ負フモノトス

○荷送人荷受人及ヒ運送人ノ權利義務ハ運送契約又ハ商法ノ規定ニ依リ定ムヘキモノニシテ單ニ荷送人荷受人間ノ特約ニ據リテ之ヲ定メ得ヘキモノニ非ス

○荷爲替ナルモノハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人ト爲シタル爲替手形ヲ振出シテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取り荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場合ノ擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ債權者ニ交付スルニ因リテ成立スル行爲ニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

○貨物引換證又ハ船荷證券ヲ作成シタル場合ニ於テハ運送人ハ該證券ニ

三元	四五	四一	四二
一五三	二	四五	六六
四五	二	四五	六六
四五	二	四五	六六

依リテ間接占有ノ取得者タルコトヲ證明スル質權者ノ權利ヲ否認シ得サルモノトス故ニ苟モ其交付シタル證券ノ還付ヲ受クルニ於テハ請求者ハ直接ニ其交付ヲ受ケタル荷主ナルト荷主ノ處分ニ因リ正當ニ之ヲ把持スル質權者タルトニ論ナク運送品ノ占有ヲ解キ之ヲ其處分ニ委セサルヲ得ス

○荷爲替契約ニ依リ運送品ヲ目的トシテ質權ヲ設定セントスル場合ニハ荷主ハ運送人ヨリ交付ヲ受ケタル貨物引換證若クハ船荷證券ヲ把持シ運送品ヲ處分スルノ權利ヲ留保スル間ニ於テ其間接占有權ヲ質權者ニ移轉シ以テ質權ノ設定要件ヲ具備スルコトヲ得セシメサルヘカラス

【第三百二十三條】

○貨物引換證ニ運送賃ヲ記載セサルヘカラスアル必要アル場合ニ於テハ商法第三百二十三條第二項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ若シ其記載ヲ欠クトキ即チ運送賃先拂トノミ漠然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサルカ如キ場合ニハ其效力ヲ喪フコトアルヘキモ常ニ其記載ヲ必要トスルモノニ非ス

○貨物引換證ニ記載スヘキ要件トシテ規定セラレタル事項ハ必要アル場合ニ於テハ縱令其一項タリトモ之ヲ具備セサルハ該證券ハ效力ヲ有セ

四	六
四	六
三	五
三	五

サルモノトス是故ニ貨物引換證ニ記載スヘキ運送賃支拂濟ノ場合ハ格別其未拂ナル場合ニ於テハ必スシモ其數額ヲ明示スルコトヲ要セスト雖モ之ヲ算定スルニ足ルヘキ標準ヲ知り得ル程度ニ記載セサルヘカラス

○荷送人カ運送賃ノ前拂ヲ爲シタルトキハ縱令貨物引換證ニ之ヲ掲ゲサルモ其要件ヲ缺キタルモノニ非ス

○運送人カ荷爲替附ノ荷物ニ對シ荷送人ノ請求ニ因リ荷物引換證ヲ交付スルニ當テハ商法第三百二十三條ノ要式ヲ具備シタル書面ヲ作成セサルヘカラス從テ其要件ヲ欠如シタル書面ハ引換證タルノ效ナキモノトス

○運送株式會社カ發付スル貨物引換證ニハ其代表者ニ於テ署名スルコトヲ要ス故ニ株式會社ノ記名アルノミニシテ其代表者ノ署名ナキモノハ引換證タルノ效力ヲ有セス

【第三百二十七條】

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セザラシムヘキ

三	九
三	九
三	七
三	七
三	九
三	九

責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

〔同義語〕

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナルカ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタルトセハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

○運送人カ契約上ノ場所以外ノ地ニ荷物ヲ送付シタルカ爲メ荷受人ニ之ヲ到達セシムルコト能ハサル以上ハ商法第三百三十七條ニ所謂運送品ノ滅失ニ該當スルヲ以テ之ニ因リ荷送人ノ被ラタル損害ハ運送人ニ於テ賠償ヲ爲スヘキ責任アリトス

○不可抗力トハ或事變ニシテ之ニ遭遇セル者カ自己ノ地位ニ應ズル施設ヲ爲スモ其發生及ヒ有害ナル結果ヲ防止シ得サルモノヲ謂フ從テ運送品ノ損害カ不可抗力ニ因ルコトヲ證明シタル以上ハ運送人カ其防禦ノ注意ヲ怠リシ過失ニ因ラサルコトハ自ラ立證セラレタルモノトス

〔第三百三十九條〕

○數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セスシテ荷送人ニ損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ

三七 二五八
三六 四
三七 七九
三九 八〇七

對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ

○如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行為ヲ爲シタル運送人ニ對シテ求償權アルノ外其行為者タラサル他ノ運送人ニ對シテ全部ノ請求權ナシ

○最初ノ運送人ニ次テ運送ノ委託ヲ受ケタル者カ其義務ヲ履行セサルトキハ直接ニ荷送人ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フモノトス

〔第三百四十條〕

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニ於テ運送品ノ滅失ヲ原因トシ其損害賠償ヲ請求スルハ獨リ該證券所持者ノミ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ引換證ヲ所持セサル者ハ荷物ノ所有者タルト將タ荷物ニ付キ危險ヲ負擔スル者タルトヲ問ハス其請求ヲ爲スノ權ナシ

〔第三百四十二條〕

○商法第三百三十三條第一項ノ規定ニ依リ貨物引換證ノ交付ヲ受ケタル荷送人ハ其證券ノ第一所持人トシテ運送人ニ對シ同第三百四十二條第一項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス

三九 九一
三六 九五〇
四二 五三四
四三 七四六

○荷送人カ商法第三百四十二條ノ規定ニ依リ運送人ニ對シテ運送品返還請求ノ權利ヲ行使スルニ付テハ單ニ運送品返還請求ノ意思ヲ表示スレハ足ルモノニシテ特ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス

〔第三百四十三條〕

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニハ之ヲ所持セサル荷受人ハ運送品カ到達地ニ達シタル後ニ於テモ尙ホ荷送人ノ權利ヲ取得セサルモノトス

〔第三百四十四條〕

○荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ又ハ貨物引換證ト引換ニ引渡ヲ請求セサル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絕シ得ルモノニシテ又之ヲ拒絕スヘキコトハ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル運送人ノ責任ナリトス

〔第三百四十九條〕

○數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其效力ヲ生スルモノトス故ニ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ該運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

第二節 旅客運送

〔第三百五十條〕

○不法行爲ヲ原因トシテ運送人ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ商法第三百五十條ヲ適用スヘキモノニ非ス

第九章 寄託

第二節 倉庫營業

〔第三百五十九條〕

○商法第三百五十八條以下ノ規定ニ基ク質入證券ハ其證券自體ニ於テ同法第三百五十九條ノ要件ヲ具備セサルヘカラス故ニ他ノ事物ヲ以テ其要件ヲ證明シ若クハ他ノ比例ヲ採テ其要件ヲ推定スルカ如キハ性質上之ヲ許サス

〔第三百六十五條〕

(參照)

債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虛偽ナルニモモヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス

三六	三七	三六
三九	三七	三九
七	三七	三九
七	三七	三九

三七	三七	三七
三七	三七	三七
三七	三七	三七
三七	三七	三七

商法第三百六十五條同第三百三十五條ニ規定シタル裏書ノ效力ハ適法ノ裏書ニ非サレハ之ヲ有セサルコト勿論ナルヲ以テ預證券及ヒ買入證券ノ讓渡欄ニ裏書人ノ捺印ノミアリテ記名ナキトキハ裏書ノ效力ヲ生セス

『第三百七十九條』

○倉庫營業者ガ贓品ヲ預リ適法ノ預證券ヲ發行シタル場合ニ其預證券カ刑事被告人ノ手ヲ離レサル前即チ第三者ニ讓渡セラレサル以前ニ於テハ裁判所ハ私訴被告人タル刑事被告人ヲシテ預證券ヲ提出セシメ之ト引替ニ被害者ニ物品ヲ引渡サシムヘキモノトス

第十章 保險

○會員中結婚出産又ハ就學兒童アル場合ニ他ノ會員ヨリ若干ノ金圓ヲ讓出セシメ其幾分ヲ之ニ給與シテ殘額ヲ利得セントスル會社事業ハ保險行為ニ類似セル一ノ條件附法律行為ト稱シ得ヘキモノ之ヲ以テ直ニ保險行為ト云フヲ得ス

第一節 損害保險

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ

金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ讓出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ

第一款 總則

『第三百八十四條、第三百八十五條』

○家屋ノ買主ハ未タ其登記ヲ爲ササルモ既ニ自己ノ所有タル上ハ火災ニ因テ生スルコトアルヘキ損害ハ即チ自己ノ損害ナルカ故ニ之ヲ填補スル爲メ其家屋ヲ被保險物ト爲シ以テ適法ニ火災保險契約ヲ取結ヒ得ヘキモノトス

第二節 生命保險

『第四百二十七條』

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ讓出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ

四

1017

三

三

三七

六

四五

三

七

三四

五

七

一

第三百八十四條、第三百八十五條

第四百二十七條

第三百七十九條

(刑)

非サルナリ

〔第四百二十八條〕

(參照)

商法第四百二十八條第四項ノ規定ハ保險契約者カ被保險者ト別人ナル場合ハ勿論其同人ナル場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス
商法第四百二十八條第二項ノ規定ハ生命保險契約ニ定メタル生死ノ條件成就若クハ期限到來以前ニ係ル權利ノ讓渡ヲ制限シタルモノナレハ其條件既ニ成就シ又ハ期限既ニ到來セル場合ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

〔第四百二十九條〕

(參照)

被保險者ノ病症ハ直接生命ニ危險ヲ及ホスヘキ惡性ノ原因ヨリ來ルモノト否トヲ論セス苟モ生命ノ危險ヲ測定スルニ多少ノ關係アルヘキヲ以テ其中ニ就キ緊要ノ關係ヲ有スルモノハ即チ重要事項トシテ契約ノ際之ヲ保險者ニ告知スヘキモノトス而シテ或事項因果シテ生命ノ危險測定ニ緊要ノ關係アルヤ否ヤハ事實承審官ノ專決スヘキ所ナレトモ之ヲ一定ノ病症ニ限ルヘキモノニ非ス
被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ申込ヲ爲シ醫師ノ診査ヲ受ケタルヤ否ヤノ事實ハ保險契約ヲ締結スルヤ否ヤノ決意ニ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實ニ該當スルモノトス
保險者カ診査醫ヲ機關トシテ保險契約ヲ締結シタル場合ニハ被保險者ノ健康状態ニ付キ其診

三七
三四

三八
二四二

四一
七五六

三九
八〇六

四〇
四四三

查醫カ知了セル事實ハ保險者ニ於テモ亦之ヲ知り得ヘキ状態ニ在ルモノトス

商法第四百二十九條ハ被保險者ノ生命ニ關スル危險測定ノ爲メ重要ナル事實又ハ事項ノ申告義務ヲ保險契約者ニ負擔セシメタルモノトス從テ其危險測定ニ關係ヲ有セサル職業ヲ詐リタルカ如キハ同條ノ所謂重要ナル事實又ハ事項ニ該當セス

保險契約者カ保險料ヲ繼續シテ支拂フヘキ資力ヲ有スルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ保險者ニ告知スルノ義務ナキモノトス

被保險者ニ人違アルカ又ハ詐欺ノ申込ヲ爲シタルトキハ民法總則ノ規定ニ依リ其契約無効ニ歸シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス從テ商法第四百二十九條ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

生命保險契約ノ拒絕ハ保險業者カ被保險者ノ生命ニ關スル危險ヲ測定シ不利益ト認メタル場合ニ存スルヲ普通トス從テ被保險者カ以前他ノ保險業者ヨリ契約ノ申込ヲ拒絕セラレタル事實ハ商法第四百二十九條ノ所謂重要ナル事實ニ該當ス

被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ契約ノ申込ヲ爲シタル事實又ハ同一契約ノ申込ヲ爲シ承諾ヲ受ケタル事實ハ被保險者ノ生命ニ付キ危險測定ニ何等ノ關係ナケレハ商法第四百二十九條ノ所謂重要ナル事實ニ包含セス

商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ事項トハ生命保險契約ノ性質上危險測定ノ爲メニ重要ナルモノヲ指稱シ契約當事者ノ意思如何ハ問フ所ニ非ス

商法第四百二十九條ハ強制的規定ニ非サルヲ以テ之ニ異ナル別段ノ意思表示ヲ爲スコトヲ妨クス而シテ其意思表示ノ内容ハ當事者ノ任意ニ決定シ得ヘキモノナレハ重要事實タルヘキ既往病歴ヲ重要ナラサルモノトシ又ハ之ヲ重要ナルモノトスル場合ニ於テモ其告知ヲ爲ササル

四〇
四八三

四〇
九三九

四〇
九三九

四〇
九三九

四〇
九三九

四〇
九三九

四〇
九三九

結果ニ付キ該規定ニ異ル意思ヲ表示シ保險者ノ選擇ニ從ヒテ契約ノ效力ヲ定ムルコトヲ得

第四編 手形

第一章 總則

○東京又ハ大阪ト稱スルトキハ一團ヲ成ス所ノ地域ナル東京市又ハ大阪府ヲ指示セル固有名稱ニシテ幾團ノ地域ヲ包括セル東京府又ハ大阪府ヲ指示セル名稱ニ非ス

○手形ハ賣買取引ハ勿論金錢貸借其他種種ノ原因ニ基キ振出スコトヲ得ヘキモノナレハ金錢貸借ノ原因ニ基キ手形ヲ振出シタル事實アリトスルモ直ニ外觀ノ爲メニノミ手形ヲ振出シタルモノト謂フコトヲ得サレハ其直接ノ當事者間ニ於テモ之カ爲メニ手形上ノ權利關係カ發生セサルモノト爲ササルヘカラサルノ理由ナシ

○改正商法ハ從來慣用ノ捺印主義ヲ捨テ專ラ署名ノミニ重キヲ置クカ故ニ同法中署名ヲ以テ證券成立ノ條件ト爲シタル規定ニ於ケル署名トハ自署ノ義ニシテ單ニ記名ノミヲ以テ足レリトスルノ意義ニ非サル法意ナリト解釋セサルヘカラス

○手形債務ノ履行ハ手形ニ署名シタル者ニ對シテノミ之ヲ強要シ得ルモ

四〇 一〇二五

三五 三 一

三五 六 一〇一

三五 九 五九

ノトス

○手形上ノ權利ハ法律ニ特別ナル規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外手形券面ニ記載シタル事項ニ非サレハ之ヲ主張シ得サルモノニシテ別箇ノ證書ニ依リ之カ補足ヲ爲スコトヲ許サスト雖モ此等手形上ノ權利ヲ發生セサル別箇ノ證書存在シタレハトテ之カ爲メニ其手形ヲシテ無効タラシムヘキモノニ非ス

○取引所外ニ於ケル定期取引ハ其既ニ結了シタルト否トヲ問ハス又注文者カ之ヲ知ルト否トヲ論セス全ク不法ニシテ當然無効タルヘキモノトス故ニ斯ノ如キ取引ヲ原因トシテ手形ヲ授受スルモ其直接ノ當事者間ニ在リテハ手形上ノ權利關係ヲ生スルコトナシ

○法定ノ形式要件ヲ完全ニ記載セル手形ハ其記載事項ニ眞實ナラサルモノアルモ尙ホ形式完備ノ手形タルコトヲ失ハス故ニ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シ其記載事項ノ眞實ナラサルコトヲ理由トシテ手形債務ヲ免ルルコトヲ得サルハ當然ナリ

○手形ニ記載セラレタル事項ハ手形面ノ文言ニ從ヒテ之ヲ解釋スヘク他ノ證據方法ニ依リ當事者ノ意思ヲ推測シテ其意義ヲ定ムヘキモノニ非スト雖モ右ノ記載事項カ如何ナル意義ヲ有スルヤヲ手形面ノ文言ニ據

三七 一九九

三七 五七二

三七 七〇一

三七 九三七

リテ解釋スルコトハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬ス
 ○手形ノ債權關係ハ一ニ其振出當時ノ文言ニ依リ定マルヘキモノニシテ
 後日ニ至リ其不足ヲ補充シ誤謬ヲ訂正スルモ之カ爲メニ既往ニ遡リテ
 手形ノ缺點ヲ追完シ得ヘキモノニ非スト雖モ其補正カ當事者間任意ニ
 行ハレタル場合ニ於テハ補正ノ當時更ニ新ナル振出行爲アリシモノト
 認ムルニ妨ナシ

○手形カ外觀上法定ノ要件ヲ具備スルトキハ手形トシテ形式上有效ナレ
 トモ若シ其實質ニ於テ手形行爲ノ成立ヲ妨クヘキ瑕疵アルトキハ其手
 形行爲ハ無効ニ歸スヘキモノトス

○約束手形ノ振出人ハ被裏書人ニ對シ其裏書讓受ノ眞實ナラサルコトヲ
 争ヒ得ヘキハ勿論ナレハ裁判所ハ手形裏書ノ眞正ナルヤ否ヤノ争點ヲ
 判斷セサルヘカラス

○手形債務者ハ手形ノ眞實ナル所持人ニ對シテノミ債務ヲ辨濟スル責任
 ヲ負フモノナレハ手形金ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ノ眞實
 ナル所持人ニ非サルコトヲ争ヒ得ヘキハ當然ナリ

○手形ニ瑕疵アルモ既ニ其使用ヲ終リタルトキハ之カ無効ヲ主張スルコ
 トヲ得ス

三七
一〇三

三七
二三三

三六
七〇六

三九
九七五

三九
二四八

四〇
二三三

○手形上ノ債務ヲ負擔スル爲メ紙面ニ署名シ他人ニ手形ノ要件ヲ補充セ
 シムル意思ヲ以テ之ヲ交付シタルトキハ署名者ノ行爲ハ其交付ノ當時
 既ニ完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノトス從テ書面交付ノ後手形要
 件補充ノ當時ニ至ルマテノ間ニ於テ署名者死亡シ又ハ無能力ト爲ル等
 ノ事故生スルモ原則トシテ其署名ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○手形振出人又ハ裏書人ノ記名捺印ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムルモ法律
 上妨ナケレハ苟モ其記名捺印カ名義人ノ意思ニ出テタル以上ハ該名義
 人ハ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○振出人カ爲シタル手形行爲ノ效力ノ有無ハ受取人ノ裏書行爲ノ效力ニ
 何等ノ影響ヲ及ホサス從テ其振出行爲カ當然無効ナルト將タ取消ニ因
 リテ無効ニ歸シタルトヲ問ハス裏書人ハ被裏書人ニ對シテ手形上ノ義
 務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

○手形上ノ權利義務ハ其證券ト分離シテ效力ヲ生スルモノニ非サレトモ
 直接當事者間ニ在テハ合意上其效力ヲ變更シ若クハ他ノ債務ニ更改ス
 ルコトヲ妨ケス

四〇
六〇八

四一
一九八

四二
八六六

四三
八三五

第四百三十五條

第四百三十五條

○手形上ニ使用セラレタル文言カ地方ノ慣習上如何ナル意義ヲ有スルヤ

ニ付テハ當事者ニ於テ鑑定又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ釋明シ得ルモノトス

○手形上ノ責任ハ一ニ其手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

(同義)

手形署名者ノ責任ハ手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

○手形振出人ハ手形ノ振出ニ依リ現實自己ヲ利シタルト否トニ拘ハラズ手形ノ文言ニ因リ券面記載ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモ此債務ヲ免レタル振出人ハ常ニ手形面記載ノ金員ヲ利得シタルモノト速斷スルコトヲ得ス

第四百二十六條

○代理人トシテ手形ニ署名スル者カ本人トノ代理關係ヲ表示スルニハ一定ノ文字ヲ記載スヘキ特別ノ方式アルニ非ザルヲ以テ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲スコトヲ認識シ得ル程度ニ記載スレハ足ルモノトス
○如上ノ場合ニ於テ代理人カ手形面ニ本人ヲ表示スルニハ其氏名又ハ商號ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ本人其人ヲ認識シ得ル程度ニ記載ス

ルヲ以テ足レリトス

第四百二十七條

○手形ヲ偽造シタル者ハ善意ノ取得者ニ對シ手形上ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス故ニ偽造手形ヲ受領シタリトテ未タ損害ヲ被ムリタルモノト云フヘカラス

○手形ノ變造ニシテ單ニ或文言ヲ添加シタルニ止マリ既存ノ文言ヲ變改シタルモノニ非サル場合ニハ變造ニ係ル部分ヲ除却セハ變造前ノ文言ハ依然存在スルヲ以テ手形上ノ權利關係ニ何等ノ影響ヲ及ホサス從テ其前ニ署名シタル者ハ以前ノ文言ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

○一覽拂ノ手形ニ裏書シタル者ハ爾後該手形カ滿期日アルモノニ變造セラレタル場合ト雖モ一覽拂手形ノ裏書人トシテ責任ヲ負フニ止マリ其變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノニ非ス

第四百二十八條

○商法第四百二十八條ノ規定ハ手形ニ署名シタル者ハ其文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキモノナルカ故ニ手形當事者中偶々無能力ノ故ヲ以テ其債務ヲ取消スモノアルモ之カ爲メ他ノ署名者ノ債務ニ影響ヲ及ホササルコ

四〇	三五九
三七	三七一
三六	三七一
三三	三七一
三二	三七一

三七	二七九
三六	二七九
三三	二七九
三二	二七九

トヲ示シタルモノニシテ全然意思能力ヲ有セサル無能力者ノ手形行爲ヲ以テ有效ナリトスルノ法意ニ非ス

○商法第四百三十八條ハ手形振出ノ當時無能力者タリシ者カ其取消權ノ存續中手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホササルコトヲ定メタルモノニシテ無能力者自ラ手形ヲ振出シタル場合ニ未タ行爲能力ヲ得サリシ時ニ在ラサレハ其振出行爲ヲ取消シ得サル旨ヲ定メタルモノニ非ス

○商法第四百二十八條ニ所謂他ノ手形上ノ權利義務トハ手形行爲ヲ取消シタル無能力者以外ノ者ノ權利義務ヲ指稱セルモノトス從テ無能力者ニ對スル手形所持人ノ支拂請求權ノ如キハ之ニ包含セス

『第四百四十條』

○雇人カ約束手形ヲ振出シタル後受取人ヨリ其手形金額支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該手形ハ主人ノ代理トシテ振出シ受取人ハ其事實ヲ知悉シ乍ラ之ヲ受取リタルモノナリト抗辯ハ當事者間ニ生セシ直接ノ事由ナルヲ以テ商法第四百四十條但書ノ規定ニ從ヒ振出人ヨリ受取人ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノトス

○手形ノ記載事項カ虛偽ニシテ眞正ナル事實ヲ立證スルトキハ之カ爲メ

三	三	三	三
七〇六	七〇六	七〇六	七〇六

『第四百四十一條』

實質上當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ在リテハ手形上ノ請求ニ對スル實質上ノ抗辯トシテ其無効ヲ主張シ得ルモノトス
○手形債務者カ裏書人ニ對シ相殺ニ適シタル債權ヲ有スル事實ハ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ニシテ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルニハ必スシモ裏書人ニ對シテ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ要セス
○振出人カ額面ノ金員ヲ受取ルコトヲ條件トシテ手形ヲ振出シタルトキハ手形金額請求者ニ對シ未タ其金員ヲ受取ラサルコトヲ爭ヒ得ルモノトス

○手形ヲ取得セシ原因カ消滅シタル場合ニ於テハ其取得者ハ手形取戻ノ請求ニ應セサルヘカラス

○商法第四百四十一條ハ形式上適法ナル手形所持人ハ其取得ノ際讓渡人カ手形ヲ讓渡スル權利ナキコトヲ知リタルカ又ハ之ヲ知ラサルニ付キ重大ナル過失アル場合ノ外有效ニ手形ヲ取得スヘキコトヲ規定シ以テ善意ノ手形取得者ノ權利ヲ確保シタルモノトス

○商法第四百四十一條ノ規定ニ依リ手形ノ返還ヲ請求シ得ルニハ手形所持人カ手形ノ規定ニ依ラサル事由ニ因リ手形ヲ失ヒタル場合ニ於テ其

三	三	三	三
二〇	二〇	二〇	二〇
二五	二五	二五	二五

〔第四百四十二條〕

取得者ニ惡意又ハ重過失アリタルコトヲ要ス

○手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所住所及ヒ居所ヲ有セサル場合ニ於テ商法第四百四十二條ノ手續ヲ爲サシテ當然支拂請求ノ手續ヲ爲シタルモノト看做シタルハ違法ナリ

○拒絕證書カ拒絕者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ争フトキハ被拒絕者ニ於テ其場所ハ拒絕者ノ營業所又ハ住所ナルコトヲ證明スルノ責任アルモノトス

○執達吏カ當該官署若クハ公署ニ問合ヲ爲サシテ振出人ノ住所ナリト判斷シタル事項ハ裁判所ヲ羈束スル效力ナシ

○支拂ノ場所ヲ記載シタル手形ニ付テハ該場所ニ於テ其呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

〔第四百四十三條〕

〔第四百四十三條〕

(參照)

舊商法ノ施行中滿期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時効期間ノ計算ニ付テハ民法第四百四十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノナルハ滿期日ヲ算入スヘキモノニ非ス

〔第四百四十四條〕

〔第四百四十四條〕

○商法第四百四十四條ニ所謂振出人ノ受ケタル利益トハ其現實ニ受ケタル利益ヲ指稱シ手形債務者カ支拂ニ代ヘテ更ニ手形ヲ振出シタル事實ノ如キハ此ニ包含セス

第一章 爲替手形

○荷爲替契約ハ荷送人ト銀行トノ間ニ於テ一種ノ消費貸借關係ヲ生スルモノニシテ商法施行以前ヨリ存在シタル行爲ナリトス從テ荷爲替手形ハ必スシモ商法所定ノ爲替手形タルコトヲ要セス

○商法施行以後當事者カ爲替手形ノ名稱ヲ以テ發行シタル證券ハ縱令荷爲替ノ方法ニ供セラレタル場合ト雖モ其手形關係ニ付テハ同法ニ規定セル手形ノ法則ヲ適用スルコトヲ要ス

第一節 振出

○商法ハ二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セス故ニ數人カ一ノ手形ヲ振出スモ其效力ノ妨ト爲ルコトナシ

(同手形)

手形ニ振出入數名アルモ其效力ノ妨ト爲ラズ

〔第四百四十五條〕

〔第四百四十五條〕

商法 手形 爲替手形 振出

三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
二二五	八	一	一	一	一	一	一〇
四	四	三	三	二	一	一	一
				九二	三五〇	一五七	三

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セス

○商法カ補箋ヲ使用スルコトヲ認許セサル場合ニ補箋ニ記載シタル事項ハ手形上ノ效力ヲ生セス

○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルハカラス

第四百五十一條

○手形中満期日ヲ表示スヘキ場所ニ年號ノミヲ記載シ月日ノ記載ナキト

キハ一覽拂ノモノト認ムルヲ相當トス

第四百五十二條

〔參照〕

支拂擔當者ナルモノハ支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テノミ定ムヘキモノトス

第四百五十四條

○支拂場所ノ指定ハ支拂行爲ヲ爲スヘキ一定ノ場所ヲ表示セサルヘカラスト雖モ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載

ノ如ク之ヲ手形ニ表示スヘキ文字ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

〔同義〕

○支拂場所ノ記載ハ手形ノ必要事項ニ非サルヲ以テ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ノ如ク之ヲ表示スヘキ文字ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

○手形ノ支拂場所ノ表示方法ニ付テハ商法中別段ノ規定ナケレハ苟モ普通ノ方法タル以上ハ如何ナル名稱ヲ以テ之ヲ表示スルモ妨ナシ

○株式會社某銀行ト云フカ如キ名稱ハ一定ノ法人ヲ表示スル爲メニ用キラレ又其營業所ノ表示トシテ用キラルルヲ通常トス故ニ振出人ハ斯ル名稱ヲ以テ手形ノ支拂場所ヲ表示スルコトヲ得ヘシ

第二節 裏書

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス隨テ償還義務者カ其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セザルモノトス

○差押債權者カ轉付命令ノ效力ニ因リ取得シタル手形ニ基キ振出人ニ對シテ支拂ヲ請求スル場合ニ在リテハ裏書ヲ要スルモノニ非ス
○裏書ハ獨立ナル手形行爲ニシテ他ノ手形行爲ト分離シ有效ニ成立スルコトヲ得從テ一旦有效ニ成立セル裏書ハ原手形ノ振出人ノ署名偽造ナ

三五	九	一〇二
三五	九	一〇三
三六	三	一〇五
三七	一	一〇六
三九	二	一〇八
四〇	二	一一三
四一	二	一一六
四二	二	一二一
四三	二	一二六
四四	二	一三一
四五	二	一三七

三七	二七九
三九	二八二
四〇	二八六
四一	二八六
四二	二八六
四三	二八六
四四	二八六
四五	二八六
四六	二八六
四七	二八六
四八	二八六
四九	二八六

ルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス
 ○銀行取締役カ其権限内ニ於テ銀行ノ爲メニスルコトヲ表示シ署名ノ上手形ノ裏書ヲ爲シタルトキハ該手形行爲ハ直接ニ銀行ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス而シテ取締役ノ真意カ果シテ銀行ノ利益ヲ計ルニ在リシヤ將々其地位ヲ濫用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リシヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○銀行取締役カ其地位ヲ濫用シ不正ニ利益ヲ獲得セント企テ手形ニ裏書シタル所爲ニ付キ文書偽造罪トシテ處罰ヲ受ケ其裏書ノ部分ヲ沒收セラレタル場合ト雖モ該處分ハ手形所持人ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

〔第四百五十五條〕

○裏書ニ因ル手形債權ノ讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足レリトセス其手形ヲ被裏書人ニ交付シテ始メテ完成スルモノトス
 ○手形ハ裏書禁止ノ記載アル場合ヲ除ク外當然裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘキモノナレハ手形金請求訴訟ノ提起ハ毫モ裏書ノ妨ト爲ルモノニ非ス

〔第四百五十七條〕

○手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ商事會社ノ支店ヲ記載シタルモノハ

該支店ニ於テ商行爲ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノトス

（同義句）

商事會社ハ其本店若クハ支店ニ於ケル商行爲ノ人格ナルヲ以テ手形ノ裏書ヲ會社支店宛ト爲シタル場合ニ於テ其裏書讓受人ハ法人タル會社ナリトス

手形ノ裏書ニ某株式會社支店ヲ裏書讓受人ト爲シタル場合ニハ某株式會社ヲ以テ裏書讓受人ト爲シタルモノト看做スヘキモノトス

○本店ト支店トノ間ニ於ケル手形ノ裏書ハ同一人間ニ爲シタル裏書ニシテ手形上何等ノ效力ナク其裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナリトス

○手形ノ裏書ヲ爲スニ付キ之ニ附箋シテ裏書人カ署名シタルハ商法第四百五十七條ニ所謂補箋ニ外ナラサレハ裏書ノ方式ニ背反スル所ナシ
 ○商法第四百五十七條ニ規定セル二種ノ裏書ハ孰レモ指圖式手形ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論記名式ノ手形ニ付キテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ商法ノ解釋上毫モ疑ヲ容レズ

○手形券面ヲ補フ紙片即チ補箋ヲ使用スルコトヲ得ヘキ場合ハ商法カ手形券面ニ記載セシムルコトノ事實上困難ナル場合ヲ豫想シ特ニ之ヲ使用スルコトヲ認許シタル場合ニ限ルモノトス

三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四
七	七	八	七	五	四	七
二五	二五	一四	二五	七	五	二五
九	二	八	二	五	四	九
一〇三	一〇八	一四	一〇八	七	五	一〇三

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
八五	八五	四七	四七	四七	四七	四七
二八	二八	七五	七五	七五	七五	七五
二八	二八	七五	七五	七五	七五	七五
二八	二八	七五	七五	七五	七五	七五

- 商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メ之ヲ使用スルコトヲ認許セズ
- 手形ノ成立前其受取人タルハキ者カ豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合下雖モ爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ノ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ振出行爲完成スル下キハ其裏書ハ之ト同時ニ效力ヲ發生スルモノトス
- 手形行爲ヲ爲ス者カ其手形ニ記載スル氏名又ハ商號ハ必ス公簿上ノモノニ限ルヘキ理由ナケレハ氏名若クハ商號ノ形體ヲ具フルモノニシテ本人ノ慣用ニ依リ知人又ハ隣佑間其稱呼ナルコトヲ知了セル場合ニハ所謂通稱ハ勿論雅號下雖モ亦手形方式上ノ氏名若クハ商號タルニ妨ナキモノトス
- 手形裏書人カ裏書ノ日附ヲ廻記シタル場合下雖モ仍ホ其日附ノ存在タルコトヲ失ハサルカ故ニ此一事ヲ以テ裏書ノ形式不適法ナリト云フヲ得ス(第五百二十九條三六年一四四頁參照)
- 署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人カ之ヲ他人ニ交付シタル下キハ即チ讓渡ノ效力ヲ發生セシムルノ意思ヲ表示シタルモノナレハ

三五	九	101
三六	八	102
三七	七	103
三八	六	104
三九	五	105
四〇	四	106
四一	三	107
四二	二	108
四三	一	109

其實取立委任ノ目的ニ出テタツトスルモ唯當事者間ニ或種ノ關係ヲ生スルニ止マリ法律上有效ナル讓渡ノ成立ヲ妨クヘキモノニ非ス從テ第三者ハ其讓渡ヲ否認シ得サルモノトス

○手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指定セサル以上ハ偶ニ其裏書ノ年月日ヲ記入スルモ白地裏書トシテ有效ナリトス

〔同義〕

手形ノ裏書ニシテ被裏書人ノ指定ナキ場合ニ於テハ苟モ裏書人ノ署名アルトキハ年月日ノ記載アルト否トニ拘ハラズ適法ノ裏書ナリトス

〔第四百六十一條〕

○無記名裏書アル手形ノ所持人カ商法第四百六十一條ニ從ヒ自己ヲ被裏書人ト爲スニ付テハ年月日ヲ記載スルコトヲ要セス

〔第四百六十二條〕

○手形ノ所持人カ支拂拒絶證書作成期間經過ノ後裏書ヲ爲シタルトキハ手形債務者ハ手形ニ記載ナキ事項ト雖モ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ總テ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルモノトス

○商法第四百六十二條ハ支拂拒絶證書作成期間經過ノ後手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ノ隨伴シタル

四一	二五四
四二	九五
四三	104
四四	105
四五	106
四六	107
四七	108
四八	109

權利ニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサル趣意ヲ明カニシタルモノニシテ即チ如上ノ被裏書人ニ對シテハ同第四百四十條之適用アラサルコトヲ示シタルニ外ナラス

○商法第四百六十二條ハ民法第九十四條第二項ノ適用ヲ除外シタル規定ナリトス

〔第四百六十三條〕

(參照)

尙爲替ニ於ケル爲替手形ハ流通證券トシテ發行スモノニ非ス從テ受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其旨趣タル手形記載ノ金額取立ヲ委任スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非ス
手形債權ノ讓渡ノ爲メニスル裏書ト取立ノ爲メニスル裏書トハ其目的ヲ同ウセス從テ取立ノ爲メニスル裏書ヲ表面上讓渡ノ爲メニスルカ如ク假裝スルコトハ事實上必スシモ之ヲ爲シ得サルモノニ非ス
取立委任ノ裏書ハ手形ノ讓渡ニ非サレハ被裏書人ハ取立委任ノ裏書ヲ除ク外他ノ裏書ヲ爲スコトヲ得ス故ニ其裏書人ハ依然手形債權者ニシテ毫モ權利ヲ減損セラレザルヲ以テ何時ニテモ其手形ヲ回收シ裏書讓渡ヲ爲シ得ヘキ地位ニ在ルモノトス

〔第四百六十四條〕

○署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人甲者カ同シク署名ノミニ

依ル裏書ヲ以テ之ヲ乙者ニ讓渡シ乙者ハ更ニ之ヲ丙者ニ裏書シタルモ其不適式ニシテ無効ナルトキハ空白ト異ナラス故ニ丙者カ自己ヲ被裏書人ト爲シタル場合ニ在テハ甲者ハ直接ノ前者タルヘキコト當然ニシテ其間裏書連續ノ問題ヲ生スヘキモノニ非ス

第三節 引受

○爲替手形ノ支拂人ハ單ニ資金ノ送付ヲ受ケタルカ爲メ手形ノ引受ヲ爲ササルヘカラサルノ義務ヲ負擔スルモノニ非スシテ引受ノ諾否ハ一ニ其意思如何ニ因リ定マルモノトス

〔第四百六十八條〕

○手形ノ引受行爲ヲ目的トスル契約上ノ債務ハ商法第四百六十八條ノ手續ヲ履踐セサレハ發生シ得サルモノニ非ス

○爲替手形ノ振出以前ニ引受人トシテ紙面ニ署名シタル者カ將來他人ノ之ニ振出要件ヲ記載スル所ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ以テ其書面ヲ他人ニ交付シタルトキハ手形行爲トシテ有效ナルモノトス

第五節 支拂

○支拂人ニ於テ爲替手形金ヲ支拂ヒタル事實ヲ證明セシニ拘ハラヌ振出人ニ於テ資金送付ノ事實ヲ證明セサル場合ニハ未タ其送付ナキモノト

四一 六七

四二 五〇

三六 七六

三九 二四八

三九 一六三

四一 二四八

三五 二八

三六 一四八五

四〇 六〇五

〔第四百八十二條〕

○手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルニハ必ス家屋内ニ於テ爲ササルヘカラストノ法則ナキカ故ニ手形ニ特記セラレタル支拂場所カ庭園堀又ハ池ニ變シタルトキト雖モ其場所ニ於テ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書作成ノ手續ヲ行フヘキモノトス

〔第四百八十三條〕

○商法第四百八十三條支拂ハ手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セストノ規定ハ手形債務者ニ付與セラレタル權利ニシテ強制執行ノ場合ト雖モ債務者ハ依然此權利ヲ保持スルモノトス從テ手形權利者ハ手形債權ノ請求ヲ爲スニ當リ特ニ手形引換ニ支拂フヘシトノ申立ヲ爲スノ要ナシ

○手形債務者カ滿期日前所持人ニ對シ手形ノ交付ヲ受ケスシテ手形金ヲ支拂ヒタル場合ト雖モ其直接ノ當事者間ニ在テハ支拂ノ效力ヲ生シ債務人消滅スヘキハ當然ナリ

第六節 償還ノ請求

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返

三五 九 一一八

三六

三七 一〇七

三八 二六八

三九 七五〇

還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス從テ償還義務者カ其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

○手形上權利ヲ失ヒタル者ハ其債務者ニ對シ法律上請求權ヲ有セサルモノニシテ債務者ヨリ進テ債務ノ辨濟ヲ爲スカ如キハ所謂自然義務ヲ盡スモノニ外ナラス從テ債權者ハ斯ノ如キ者ニ對シテ請求ヲ爲スヘキ責アルコトナシ

〔第四百八十七條〕

〔第四百八十七條〕

（參照）

支拂ノ請求ハ滿期日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス其後二日內即チ支拂拒絶證書作成期間内ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ執達更カ支拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケ滿期日後二日內ニ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ爲シタル支拂ノ請求ハ有效ニシテ償還請求ノ一要件ニ當ルニ足ルモノトス

手形所持人ハ滿期日以後ニ於テモ拒絶證書作成ノ期間内ハ適法ニ手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘシ

商法第四百八十七條ノ法意ハ償還請求ノ爲メニ必要ナル手形ノ呈示ハ必スシモ滿期日ニ爲スコトヲ要セス滿期日ノ後二日內ニ於テモ亦之ヲ爲シ得ヘキ旨趣ナリト解釋セサルヘカラス手形所持人カ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲サントスルトキハ必スギ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルコトヲ要ス故ニ振出人ノ住所其他呈示ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル手形ニ付テハ其呈示ナキコトヲ理由トシテ償還ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ズト判示シタルハ失當ナリ

商法 手形 爲替手形 償還ノ請求

三〇 一三六

三一 三七七

三二 三九

三三 九三

三四 一一一

三五 九六六

手形所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ支拂場所若クハ支拂ヲ求ムルニ適當ナル場所ニ至ルモ支拂義務者ニ面會スルコト能ハサルトキハ手形ノ呈示ハ茲ニ完了セルモノトス
 拒絶證書ハ所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルニ拘ハラズ振出人ニ於テ支拂ヲ拒ミタル場合ニ作成スル文書ナレハ裁判所ハ之ニ依リテ手形呈示ノ事實ヲ認メ得ルモノトス
 手形所持人カ支拂ヲ求ムヘキ時期ニ於テ手形ヲ携帶シ支拂場所ニ臨ミタルモ支拂人不在等ノ爲メ支拂ヲ求ムルコト能ハサリシ場合ハ法律上手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルト同一ナリ

『第四百八十七條ノ二』

(第四百八十七條ノ二)

(參照)

償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成ノ翌日マテニ發スレハ足ル其期間内ニ到達スルヲ要セス
 執達吏カ償還請求ノ通知ヲ送達スル場合ニ於テ其手續ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ要セス
 商法第四百八十七條ニハ償還請求通知ノ發送ヲ以テ償還請求ヲ爲ス要件中ニ置キタルノミニテ其方法ヲ定メサルニ因リ通知力通常到達シ得ヘキ手續ヲ執了スルヲ以テ其發送アリトスルニ足リ必スシモ意思傳達ノ機關ト定マリタルモノニ依ルコトヲ要セス
 商法第四百八十七條ニ所謂通知ヲ發スルトハ郵便ニ依ルト執達吏ニ依嘱シ若クハ雇人其他ノ人ヲ介スルトナ間ハス償還義務者ニ達シ得ヘキ方法ヲ執レハ足ルモノニシテ文書ニ依リテ通知ヲ爲スコトノミニ限リタルモノニ非ス
 商法第四百八十七條ニ謂フ償還請求ノ通知ヲ發ストハ償還請求ヲ爲サントスル手形ノ所持人カ其通知ノ發送ニ關シ自ラ爲スヘキ行爲ヲ完了シ其通知ヲシテ當然被通知人ニ到達スヘキ状態ニ在ラシムルノ義ニ外ナラス
 償還請求ヲ爲サントスル手形ノ所持人カ其通知ノ傳達ヲ執達吏ニ依嘱シタル場合ニ於テハ執

三七	三九	三九	三四	三四	三五	三五	三七
一〇九一	一五五一	一五五一	一〇七七	一〇七七	一〇八	一〇八	一三六四

達吏ノ承諾ヲ得タル時期ニ至リ始メテ請求ノ通知ヲ發シタルモノト云フヲ得從テ執達吏ニ對シ其傳達依嘱ノ信書ヲ發シタル行爲ハ未タ以テ償還請求ノ通知ヲ發シタル行爲ト云フヲ得ス
 商法第四百八十七條ニ所謂償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成ノ翌日マテニ之ヲ發送スレハ足ルト雖モ其發送タルヤ必ス通常先方ニ到達スヘキ相當ノ方法ヲ採ラサルヘカラス
 拒絶證書作成ノ免除ヲ受ケタル者カ其免除ヲ利用シテ該證書ヲ作成セサル場合ニ於ケル償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成時期終了ノ翌日マテニ之ヲ爲スヘキモノトス
 手形所持人カ執達吏ニ對シテ爲シタル償還請求通知送達ノ委託ニシテ不法ナル以上ハ全ク其委託ヲ爲ササルト同一ナリ從テ所持人ハ償還請求ノ通知ニ付キ償還義務者ニ通常到達スヘキ方法ヲ採リタルモノト云フヲ得ス
 償還請求ヲ爲サントスル手形所持人カ滿期日又ハ其翌日拒絶證書ヲ作成セシメタルトキハ該請求ノ通知ハ滿期日ノ翌日又ハ滿期日後二日目マテニ之ヲ發送セサルヘカラス
 償還請求通知ノ方法ハ法律ニ之ヲ規定セサルヲ以テ通常被通知者ニ到達スヘキ方法ヲ採レハ足ルモノトス而シテ其通知書ヲ郵送スル場合ハ何人ヲシテ之ヲ郵便ニ付セシムルモ法律上妨ナキカ故ニ通知者ノ依嘱ヲ受ケ郵便ニ付シタル者カ執達吏タルト否トニ因リ發送ノ效力ニ何等ノ消長アルコトナシ

『第四百八十八條』

(第四百八十八條)

(參照)

手形債權者ノ償還請求ニ應ジ辨濟ヲ爲シタル償還義務者カ其前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スニハ商法第四百八十八條ニ依ルノ外他ニ履行スヘキ手續アルコトナシ故ニ償還ヲ爲シタル事實ヲ主張シ該規定ニ從ヒ求償ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行シタル證據トシテ提出セ

商法 手形 爲替手形 償還ノ請求

三七	三七	三七	三六	三九	四〇
一三六四	一三三九	一五五七	一五四八	一七三六	一八三三

第四百八十九條

○手形ノ所持人ハ拒絶證書作成ノ義務ヲ免除セラレタル場合ト雖モ之ヲ作成セシムル權能ヲ有ス

○拒絶證書作成免除ノ行爲ハ之ヲ手形ニ記載セサレハ手形上ノ効力ヲ生スルコト能ハスト雖モ直接當事者間ニ在リテハ縱令之ヲ手形ニ記載セサルモ意思表示ノ効力ヲ有スルモノトス

第四百八十八條

(參照)

拒絶證書作成ノ義務ノ免除ハ單ニ拒絶證書ノミニ依ル立證方法ノ制限ヲ解キタルニ過キスシテ立證責任ヲ免除スルモノニ非サレハ手形所持人ハ呈示ノ事實ヲ立證スル責任アルモノトス支拂拒絶證書作成義務ノ免除ハ償還請求權ノ保存ニ付キ手形所持人ヲシテ單ニ支拂拒絶證書ヲ作成スルノ義務ヲ免レシムルニ止マリ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示スルノ義務ハ勿論其呈示ノ事實ヲ證明スルノ責任ヲ免レシムルモノニ非ス

第四百九十二條

○償還ノ請求ヲ受ケタル手形裏書人ハ其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息ニ付キ前者ニ對シテ更ニ償還ヲ請求シ得ルモ其支出セザリシ金額ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十七條

○商法第四百九十七條ニ手形ヨリ生スル債務ハ其手形ノ謄本又ハ補箋ニ署名スルニ非サレハ手形法上之ヲ保證シ得サル旨ヲ規定シタルニ過キテ之シテ別箇ノ書面ニ依リテ民事上ノ保證ヲ爲スコトヲ禁シタルモノニ非ス

第九節 拒絶證書

第四百九十四條

○執達吏カ手形所持人ヨリ支拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケタル以上ハ委任者ノ爲メニ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求スルノ權能ヲ有ス

第四百九十五條

商法第五百十五條ノ規定ハ唯手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項ヲ拒絶證書ニ記載スヘキコトヲ命シタルニ止マリ手形ノ原狀ノ如クニ謄寫スヘキコトヲ命シタル規定ニ非ス商法第五百十五條第四號ハ前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地ノ記載方ニ付キ一定ノ方式ヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テ拒絶證書ハ之ニ記載セル他ノ事項ト對照シテ前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地タルコトヲ知リ得ヘキ記載アレハ足レリトス

商法 手形 爲替手形ノ保證 拒絶證書

三六 二六七

三五 一 一六

三七 一五八五

三五 六 四一

三六 八五三

四二 二二四 八三四

三六 三三四

三六 二九

三五 二四六

三六 一〇九七

拒絶者ニ面會スルコト能ハサル場合ニ於テハ拒絶證書ニ拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スレハ足ルモノニシテ請求ノ旨趣ノ如キハ之ヲ記載スルノ要ナシ
 拒絶證書ニ法定ノ要件ヲ記載スルニハ必スシモ一定ノ方式ニ從フコトヲ要セス唯證書ノ全體ヲ通覽シテ其要件ヲ具備スルヲ以テ足ル
 執達吏カ委任ヲ受ケテ拒絶證書ヲ作成スル場合ニ在テハ商法第五百十五條第三號ノ事項ハ執達吏自ラ干與シタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ委任者ト拒絶者トノ間ニ於ケル過去ノ行為ニ付キ單ニ委任者ノ陳述ニ因リテ之カ記載ヲ爲スヘキモノニ非ス
 拒絶證書ヲ作成スル場合ニ於テ拒絶者ニ面會スルコト能ハサルトキハ之ニ對シテ請求ノ旨趣ヲ告ケルニ由ナケレハ單ニ其面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スルヲ以テ足レリトス
 手形ニ記載シアル事項ヲ拒絶證書ニ記載スルニハ拒絶セラレタル手形ノ如何ナルモノナルヤヲ明カニ知了シ得ヘキ程度ニ於テスルヲ以テ足リ必スシモ手形面ノ文字ヲ悉ク其儘ニ記載スルコトヲ要セス

第二章 約束手形

○後見人カ被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出ス場合ニハ民法ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 ○受取人ト爲ル行為ト被裏書人ト爲ル行為トハ互ニ獨立シテ成立スル事實ナルヲ以テ受取人トシテ手形ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルト被裏書人トシテ之ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルトハ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス

三七	一〇九
三六	二五
三五	二五
三二	一六五
三〇	六
二九	七

スヘキモノニ非ス

○合資會社ノ業務擔當社員カ其資格ヲ冒シテ約束手形ニ署名シ自己ニ宛テ之ヲ振出シタル場合ト雖モ善意且過失ナキ被裏書人ニ對シテハ其手形振出行爲ノ無効ナル事由ヲ以テ對抗シ得サルモノトス故ニ裁判所カ其無効ナル事由ヲ以テ被裏書人ノ請求ヲ排斥センニハ被裏書人カ惡意又ハ重過失ニ因リ其手形ヲ讓受ケタルコトヲ判示セサルヘカラス
 ○甲者カ乙者ノ爲メ金融ヲ得セシムル方法トシテ丙者ニ宛テ約束手形ヲ振出シ丙者ハ之ヲ裏書讓渡シ若干ノ金員ヲ得テ乙者ノ使用ニ供シタル場合ニ丙者ヨリ甲者ニ對シ一定ノ期間内ニ相當ノ擔保ヲ供スヘク若シ之ヲ供セサレハ手形面ノ金額ヲ直ニ辨償スヘキ旨ヲ契約シタルトキハ縱令甲者ニ於テ後日其手形ヲ書替ヘ更ニ新し手形ヲ振出スモ此一事ニ因リ該契約ハ當然消滅ニ歸スルモノト云フヲ得ス
 ○甲者カ乙者ニ對シ手形ヲ振出スニ當リ單ニ其手形ニ記載スヘキ振出ノ年月日若クハ受取人ノ氏名商號ノ記入ヲ乙者ニ依頼シ又ハ乙者カ其手形ノ交付ヲ受クル行為ヲ甲者ニ依頼スルカ如キハ民法第百八條ニ所謂法律行為ニ付キ其相手方ヲシテ代理セシメタルモノト云フヲ得ス
 ○約束手形ハ時効ニ因リ其債權消滅シタル後ト雖モ約束手形タルノ性質

三五	二八
三七	三三
三六	二六
三五	二四
三二	二四
三〇	二四

○依然之ヲ保有スルカ故ニ振出人ニ於テ手形カ時効ニ因リ其效力ヲ失セタルコトヲ條件トシテ之ニ他ノ指圖債權證券タル性質及ヒ效力ヲ有セシムルヲ意思ヲ手形面ニ表示スルモ其意思表示ハ約束手形ヲシテ他ノ債權證券タラシムルノ効ナシ

第五百二十五條

○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテ該會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルハカラス

○約束手形ニシテ偽造若クハ變造ノ點ナク且形式上商法第五百二十五條ノ成立要件ヲ具備スル以上ハ單ニ振出ノ日附ト振出地ノ記載カ眞ノ事實ニ適セサルノ一事ヲ以テ當然無効ト爲ルモノニ非ス從テ重大ナル過失ナキ善意ノ取得者ハ其手形上ノ權利ヲ取得保有シ得ルモノトス

○約束手形ニシテ商法第五百二十五條ニ列記シタル形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ縱令其記載事項中事實ニ適合セサルモノアルモ手形ノ成立ニ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ而シテ此法理ハ手形ヲ授受セシ直接ノ當事者ナルト否ト將タ手形取得者ノ善意又ハ惡意ナルトニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス

三五	三七	三九	四一
四三	四五	四七	四九

○約束手形ハ法律ノ特定セル形式的要件ヲ具備スルニ因リテ成立シ證券ニシテ右ノ要件ヲ具備スルモノハ約束手形タルノ性質及ヒ效力ヲ有シ其證券ニ指圖文句ノ記載アルモ之ニ他ノ指圖證券タルノ性質及ヒ效力ヲ付與スルヲ得ス

○手形受取人ノ氏名ヲ手形ニ記入スルカ如キハ振出人ヨリ受取人ニ依頼シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

○振出人カ受取人ノ氏名ノ記載ヲ欠キタル手形ヲ受取人ニ交付シ受取人ヲシテ其氏名ヲ記入セシメタルトキハ手形ハ其記入ノ時ヨリ效力ヲ生ス

○約束手形ノ受取人トシテ之ニ記載スヘキ會社ノ商號ハ必スシモ公簿ニ登錄セラレタル文字ヲ完備スルコトヲ要セス縱シヤ多少之ト異ナル所アルモ其商號ノ實質ヲ具備シ取引上會社ノ慣用ニ依リテ其稱呼タルコトヲ廣ク世人ニ知ラレタルモノハ通稱ノ如キモノト雖モ尙ホ手形方式上ノ商號タルニ妨ナキモノトス

○手形ニ振出日附タルヲ得ヘキ年月日ノ記載アルトキハ縱令該振出日附カ實際振出ノ年月日ニ適合セサルモ手形ノ形式ニ缺クル所ナキノミナラス單ニ振出日附カ事實ニ適合セサル一事ノミニテハ未タ手形ノ實質

四三	四五	四七	四九
五一	五三	五五	五七

ニモ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ

○約束手形振出人ノ肩書ノ地ハ之ヲ手形ノ要件ナラサル住所地ナリト解釋セシヨリハ寧ロ其要件タル振出地ナリト解釋シテ手形ヲ有效ナラシムルハ當然ナリ

○手形ノ振出地ハ特ニ其旨ヲ手形ニ明記スルヲ要ストノ規定存セサルヲ以テ振出地タルコトヲ得ヘキ地域ノ記載アルトキハ特ニ振出地ナル旨ノ明記ナキモ其成立ニ必要ナル振出地ヲ掲ケタルモノト解釋シ其證書ヲ有效ナラムルヲ穩當トス

○手形ノ振出地トハ其振出行爲ヲ爲ス地ヲ指稱シ而シテ手形ノ振出行爲トハ手形ヲ受取人ニ交付スル行爲ノミヲ謂フニ非スシテ手形作成ノ行爲ヲモ指稱スルモノトス

(同三三三)

手形ノ振出行爲ハ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル行爲ノミヲ指稱スルニ非スシテ手形ニ其要件ヲ記載シ之ニ署名スル行爲ヲモ包含スルモノトス

○手形ノ交付地ハ勿論其作成ノ地ヲモ振出地ト爲スコトヲ得ヘキモ手形ノ振出行爲ニ全ク關係ナキ地ヲ以テ振出地ト爲スコトヲ得サルモノトス

三七	三九	四〇	四一	四二
七八	九	一〇	一四	一七
七二	七	一〇	一四	一七

○約束手形ノ振出人カ其手形ニ住所地ヲ振出地トシテ記載シ而シテ別ニ住所ヲ記載セサルモ敢テ法律ニ違背スル所ナシ

○商法第五百二十五條第七號ニ所謂振出地ハ市町村ノ如キ獨立シタル最小ノ行政区畫ヲ指スニ外ナラサレハ市内ニ於ケル區ノ如キハ之ヲ振出地ト爲スコトヲ得ス

(同三三三)

法律ニ於テ振出地ト稱スル地域ハ市町村若クハ北海道(沖繩)ノ區ノ如キ行政区畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリトス

手形ノ振出地トハ市町村ノ如キ獨立シタル最小ノ行政区畫ヲ謂フモノナレハ手形ニ振出地タル市町村ヲ記載スレハ足ルモノニシテ郡縣ノ如キハ之ヲ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス

○振出地ハ約束手形ニ記載スヘキ要件ナレハ縱令之ヲ推測シ得ヘキ事項ヲ記載スルモ振出地ヲ記載シタルモノト爲スコトヲ得ス

○手形カ振出地ノ記載ヲ缺キタル爲メ無効ト爲ルトキハ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シテモ亦之ヲ以テ防禦方法ト爲スコトヲ得ヘシ

○約束手形ノ振出地トシテ最小獨立ノ行政区畫タル地域ヲ記載シタルトキハ偶々其地域ト同一ノ名稱ヲ有スル行政区畫二箇以上アリテ其指定ノ精確ナラサルカ如キ場合ニ於テモ形式ノ瑕疵ト爲ルヘキモノニ非ス

(同三三三)

三六	三九	四〇	四一	四二
五二	九	一〇	一四	一七
一一〇	九	一〇	一四	一七
一一〇	九	一〇	一四	一七

二三ノ縣下ニ同一名稱ノ市町村アル場合ニ於テ其市町村ヲ振出地トシテ記載スルトキハ果シテ何レノ縣下ノ市町村ヲ指示スルヤ手形面ニ於テハ知ルコト能ハサルモ之ヲ以テ手形ノ要件タル振出地ノ記載ナキモト爲スコトヲ得ス

〔第五百二十九條〕

(參照)

約束手形ニ被裏書人トシテ其銀行何何出張所設テ記載シアルハ其銀行カ被裏書人ナルコトヲ示スモノニシテ何何出張所ナル記載ハ無用ノ文字ナルコト文面上自ラ明カナリトス

約束手形ノ裏書讓渡ニ關シテハ商法第五百二十九條第四百五十五條乃至第四百五十七條及第四百六十四條ノ特別規定アルヲ以テ民法第四百六十九條ハ之ニ適用スヘキモノニ非ス

有效ノ裏書ニ因リテ約束手形ヲ讓受ケタル者ハ有效ノ裏書ニ因リタルニ非スシテ其占有ヲ失フモ其後更ニ無効ノ裏書ニ因リテ其手形ヲ所持スルニ至リタルトキハ一旦喪失シタル手形ノ占有ヲ回復シタルニ外ナラサレハ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ

約束手形ヲ騙取シタル者カ支拂拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於テ裏書シタルトキハ被裏書人ハ商法第四百六十二條ノ規定ニ依リ前者ノ有セシ權利ノミヲ取得スルニ過キサルモノトス

約束手形ノ裏書人カ裏書ノ年月日ヲ週記シタルトキハ其記載ハ無効ニシテ裏書行爲モ亦無効ニ屬スルモノトス從テ裏書人カ裏書ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナクシテ享受シタルモノナリ(第四百五十七條四年八二六頁參照)

約束手形ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト爲スコトヲ得サルモ其振出シタル手形ヲ更ニ他人ヨリ讓受ケ又ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトハ約束手形ノ性質上毫無妨ナシ

約束手形ノ振出人カ他人ヨリ自己ノ振出シタル手形ヲ讓受ケルモ民法上混同ノ規定ヲ適用ス

ヘキモノニ非ス

拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於ケル約束手形ノ被裏書人ハ第一ノ被裏書人タルト否トテ問ハス其裏書人ノ有セシヨリ以上ノ權利ヲ取得スルヲ得サルカ故ニ手形債務者ハ滿期後ノ裏書人ニ對抗シ得ヘキ抗辯ヲ以テ其被裏書人ニ對抗スルコトヲ得

約束手形ノ所持人カ償還請求ノ爲メニ必要ナル手形ノ呈示ヲ爲サンニハ振出地ヲ以テ其支拂地トスヘキ場合ニ於テハ振出人ニ之ヲ爲シ又振出地以外ノ支拂地ナル場合ニ於テハ支拂擔當者アルトキハ支拂擔當者ニ之ヲ爲シ若シ支拂擔當者アラサルトキハ振出人ニ之ヲ爲スヲ要ス

商法第四百九十九條ハ他所拂ノ手形ニ付テハ拒絶證書作成ノ免除アリタル場合ト雖モ所持人カ償還請求ヲ爲スニハ之ヲ作成スルヲ要スヘキコトヲ規定シタルニ非スシテ唯該手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂地ニ於テスルコトヲ要スル旨即チ同法第四百四十二條ノ除外例ヲ示シタルニ外ナラズ

約束手形ノ支拂地カ支拂義務者ノ住所地下異ナル場合ニ於テハ手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲サントスルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ指定ノ支拂地ニ於テ支拂義務者ニ出會スルコトヲ得タルト否トニ拘ハラズ必スヤ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニシテ此行爲ヲ爲スヘキ地域ニ關シテハ商法第四百四十二條ト第四百九十九條トノ間ニ原則ト例外規定トノ關係アルコトナシ

約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其手形ニ關シ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行爲ヲ爲シ得サルハ勿論ナレトモ其財團ニ何等ノ影響ヲ及ホササル法律行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ隨テ手形所持人カ償還請求權ヲ保存スルニ必要ナル手形ノ呈示ハ破産者タル振出人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

三六	一〇七
四二	五〇
三五	四六
三五	九
三六	四三
三七	三〇九

三五	六
三四	九
三五	八
三五	一〇
三五	二
三六	一四
三六	一〇七

商法 手形 約束手形

四七〇

約束手形ノ振出人カ支拂ヲ爲ササル爲メ所持人ニ於テ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルニハ滿期日後三日即チ支拂拒絶證書作成期間ノ翌日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルヘク拒絶證書作成義務ヲ免除セラレタル場合ナルト否トニ依リ該期間ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

三七

五七二

約束手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サントスルニ當リ其手形ニ支拂場所ノ指定アルトキハ先ツ支拂ヲ求ムル爲メ該場所ニ至リ振出入ニ對シテ呈示及ヒ拒絶證書作成ノ手續ヲ爲スヘク若シ振出人不在ノ爲メ面會スルコト能ハサレハ其理由ヲ拒絶證書ニ記載スルヲ以テ足ルモノニシテ支拂場所ニ振出人カ出會スルト否トハ毫モ呈示ノ效力ニ影響ヲ及ボスコトナシ

三七

七五七

約束手形ノ讓渡人カ所持人其他ノ後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニハ必スシモ金錢ヲ以テ支拂フコトヲ要スルカ如キ制限ナクハ汎ク民法ニ規定セル債權消滅ノ方法ニ從ヒ其償還義務ヲ盡シ得ルモノトス

元

一一三

償還ヲ爲シタル約束手形ノ裏書人カ振出人ニ對シテ償還ヲ請求スルニハ商法第四百八十八條第二項ノ手續ヲ爲スノ要ナシ

四

八二六

約束手形ノ振出人カ其支拂地以外ニ在ル場所ヲ支拂場所トシテ手形ニ記載スルモノ何等ノ效力ヲ有セス故ニ該手形ノ支拂ノ爲メニスル呈示ハ支拂地ニ在ル振出人ノ營業所住所若クハ其居所ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス

三六

六二九

約束手形ノ振出人カ其手形ニ支拂地ニ於ケル支拂場所ヲ記載シタルトキハ支拂ノ爲メニスル手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂人ノ承諾アルニ非サレハ必ス其記載ノ場所ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス

三六

二九九

手形ニ支拂場所トシテ記載シタル文言ニシテ支拂地域内ノ或場所ヲ記載シタルモノト判斷スルニ足ルトキハ其用語ノ適切明瞭ナルト否トナ間ハ事實承審官ニ於テ支拂場所ノ記載ナリト判斷スルヲ妨グス

三六

二〇八

約束手形ノ振出人カ其營業所住所若クハ居所以外ニ支拂ノ場所ヲ特定シタルトキハ支拂ニ關スル事項ニ付キ振出人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ必ス其特定ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

三六

二七

手形ニ記載スヘキ支拂場所ハ其當時支拂地内ニ實在セル場所ヲ記載スレハ足ルモノトス約束手形ノ支拂場所ニ付テハ法律上何等ノ制限ナキカ故ニ其振出人ハ銀行若クハ他人ノ店舗ノ如キ自己ノ營業所ニ非サル場所ヲ支拂ノ場所ト定ムルコトヲ得

四二

八九〇

約束手形ノ振出人カ其營業所以外ニ支拂ノ場所ヲ定メタルトキハ支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒絶證書ノ作成等支拂ニ關スル行爲ハ其場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ同所ニ於テ拒絶證書ヲ作成スルニハ振出人ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

四二

八九〇

商法第四百八十四條ハ爲替手形ノ所持人ト支拂人トノ間ニ於ケル支拂ニ付テノ規定ナルヲ以テ同第五百二十九條ニ依リ之ヲ約束手形ニ準用スヘキ場合モ亦其所持人ト振出人トノ間ニ於ケル支拂ノ場合ナラサルヘカラス

三六

一九三

約束手形ノ所持人ト其振出人トノ間ノ關係ニ於テハ所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモ振出人カ支拂ヲ爲サザリシ事實ヲ證明スル方法ハ拒絶證書ヲ以テスルコトヲ要セサルノミナラス縱令商法第五百十五條ニ列記シタル事項ノ一二チ欠缺シテ適法ノ拒絶證書ト爲ラサルモノト雖モ裁判所ハ之ヲ採リテ其裁判ノ資料ニ供スルコトヲ妨グス

三六

一一三

商法 手形 約束手形

四七一

約束手形ノ所持人カ支拂保證人ニ對シテ支拂ヲ請求スルニハ主債務者タル振出人ニ對シテ支拂

ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス
約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ手形所持人ハ破産宣告ノ日ヲ以テ満期
日ト爲シ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示スルノ權利ヲ取得スルモ之カ爲メニ手形面ノ満期日ニ至リ其
請求ヲ爲スノ權利ヲ失フモノニ非ス

約束手形ノ所持人カ満期日ニ支拂場所ナル銀行ニ至リ行員ニ對シ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ
タルモ之ヲ拒絕セラレシニ因リ拒絕證書ヲ作成セル場合ニ於テハ振出人ニ對シ呈示ヲ爲シタ
ルモノニ非サレハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フモノトス

約束手形ノ振出人ハ所持人カ正當ノ手形債權者ナルヤ否ヤヲ調査スルノ權利ヲ有ス從テ振出
人カ裏書讓渡ノ事實ヲ否認スル以上ハ所持人ニ於テ其裏書ノ眞正ナルコトヲ立證スルニ非サ
レハ手形金ノ支拂ヲ請求シ得サルモノトス

約束手形ノ振出人ハ所持人カ手形面ニ記載セラレタル支拂場所ニ於テ手形ヲ呈示セサルモ之
カ爲メニ手形金支拂ノ義務ヲ免ルルモノニ非ス

甲者カ乙者ヲ欺罔シテ約束手形ヲ騙取シ之ヲ丙者ニ讓渡シタル場合ニ於テ乙者カ丙者ノ請求
ニ因リ示談ノ上手形金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ニシテ手形上ノ債務ヲ消滅セ
シムルモノトス而シテ乙者ハ丙者ヲ以テ正當ノ所持人ナリト誤信シ之ニ對シテ支拂ヲ爲シタ
リトスルモ此事實ハ辨濟ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

振出人ニ對シ支拂ヲ請求スル場合ニ於テ手形呈示ノ事實ヲ證明スルニハ必スシモ拒絕證書ヲ
以テスルノ要ナキハ勿論拒絕證書ト同様ノ方法ニ從ヒテ作成シタル文書ヲ以テスルコトナモ
要セサルモノトス

手形ノ所持人カ支拂ノ催告ヲ執達吏ニ委託シ其代理人ナシテ之ト同行セシメタル場合ニハ催

(刑)

令執達吏躬親ラ手形ノ呈示ヲ爲ササルモ右ノ代理人カ呈示ヲ爲ストキハ其催告ハ適法ナルモ
ノトス

約束手形ノ振出人ハ常ニ手形ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人ニ對シテ仕拂ノ義務ヲ負フ
モノトス而シテ此ハ是償還義務者トシテ負フニ非スシテ振出人トシテ之ヲ負フニ外ナラス
約束手形ノ所持人カ満期日ニ支拂要求ノ爲メ支拂場所ニ到ルモ支拂義務者タル振出人死亡シ
テ之ニ面會スルコトヲ得サルカ如キ場合ニ所持人其死亡ノ事實ヲ知ラサル以上ハ振出人ヲ拒
絶者トシテ拒絕證書ニ其氏名ヲ記載スヘキハ當然ナリ

第四章 小切手

○振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アリテ小切手ヲ振出シタル場合
ニ於テハ振出ノ當時振出人カ現實ニ資金ヲ有シタルト否トニ拘ハラズ
法律上振出人ハ資金アリテ小切手ヲ振出シタルモノト看做スヘキモノ
トス

○振出人カ受取人ノ爲メ送金行爲ヲ爲ス目的ニテ小切手ヲ振出シタル場
合ニ於テハ兩者ノ關係ハ單純ナル小切手取引ノ關係ヲ以テ率スヘキモ
ノニ非ス縱令振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アルモ受取人ノ相
關セサル所ナレハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ振出人カ當初受取人
ヨリ受取リタル金額ハ即チ之ヲ不當ニ利得シタルモノト云ハサルヘカ

三七	三〇一
三七	三〇九
三七	七五七
三七	一〇八四
三六	二九八
三六	四四一
三六	四七一

三九	一一四
四二	八二六
三六	一三八
三五	七
三五	三四

ラス

○當座貸越契約ニ基ク貸借ハ小切手ニ依ラサレハ成立セシムルヲ得サルモノニ非ス從テ小切手ニ依ルニ非サレハ該契約ニ於ケル貸借成立セストノ事實ハ顯著ナル事實ニ非ス

〔第五百三十四條〕

(參照)

小切手ノ所持人カ支拂人ヲシテ支拂拒絕ノ旨趣等ヲ小切手ニ記載セシメスシテ之ヲ補鑿ニ記載セシメタルトキハ支拂拒絕證書ニ代ルヘキ支拂拒絕ノ記載トシテハ其效ナキモノトス

第五編 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

○普通ノ航路タラサル場所ヲ航行スル船舶ハ他船ノ碇泊シ居ラサル場所ヲ選擇シテ航行スヘキモノニシテ航海者ハ此點ニ付キ十分ニ注意セサルヘカラス故ニ若シ其過失ニ因リテ航路ノ選擇ヲ誤リ之カ爲メ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘキハ當然ナリ

〔第五百四十四條、第五百四十五條〕

〔第五百四十四條、第五百四十五條〕

○商法第五百四十四條ハ船舶所有者カ自ラ其船舶ヲ利用スル場合ニ限り

適用セラルヘキモノニシテ所有者自ラ利用セス之ヲ他ニ賃貸シタル場合ニハ同法第五百五十七條ノ規定ニ依リ賃借人ニ於テ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノトス

○商法第五百四十四條第一項ニ航海ノ終ニ於テ云トアルハ航海ノ終ニ於ケル状態ヲ以テ委付スルコトヲ得ルノ謂ニシテ專ラ委付スヘキ海産ノ範圍ヲ定メタルモノトス

○船舶所有者カ債權者ニ對シ委付ヲ爲スヘキ時期ニ付テハ商法第五百四十五條ノ外他ニ規定スル所ナケレハ必スシモ航海ノ終ニ於テ直ニ又ハ遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要セス航海ヲ了リタル後ト雖モ苟モ同條又ハ前條第一項但書ノ規定ニ反セサル限ハ委付ヲ爲シ得ルモノトス

○船舶所有者カ商法第五百四十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ委付ハ其規定ニ掲ケタル海産ニシテ航海ノ終ニ於テ現存スルモノノ全部ニ付キ之ヲ爲スコトヲ要シ單ニ其一部ノミニ付テ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○商法第五百四十四條ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ船舶所有者ハ航海ノ終ニ於ケル状態ヲ限度ト爲シ海産ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得ルモノトシ以テ所有者

三五七 三四

三七 一九二

三七 一四七七

三七 三四

三六 三六八

四 三三

四 三三

四 三三

ノ責任ノ範圍ヲ限定シタルニ過キスシテ航海ノ終ニ於ケル海産ノ状態ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ常ニ船舶所有者ヲシテ委付權ヲ行フコトヲ得サラシムルノ旨趣ニ非ス

○船舶所有者カ商法第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ爲ス場合ニ於テ其委付スヘキ損害賠償權ノ有無ハ所有者カ自ラ其權利ヲ實行スル意思アルト否トニ因リ之ヲ決スヘキモノニ非スシテ其船舶ニ付キ生シタル損害ノ事實關係如何ニ因リテ定マルヘキモノトス

第二章 船員

第一節 船長

〔第五百五十九條〕

○船長ハ平常海員ノ職務執行ニ注意シテ相當ノ監督ヲ怠ラサリシ場合ニ非サレハ休養時間中ニ生シタル海員ノ過失ニ基ク損害ニ付テモ亦其責ニ任セサルヲ得ス

〔第五百六十八條〕

(參照)

航海ノ繼續ニ必要ナル費用ヲ生シタルトキト雖モ其費用支辨ノ爲メニ借財ヲ爲スコトハ航海

ノ繼續ニ之ヲ必要トスル場合ニ在ラサレハ船長ノ權限ニ屬セス

船長カ航海ノ繼續ニ必要ナル費用ノ立替ヲ受ケタル場合ニ於テ更ニ其立替金ヲ以テ消費貸借ノ目的トスルコトヲ約スルコトモ亦同シ

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

○運送契約ニ於テ荷送人カ一身上ノ事故ニ依リ船積ヲ爲ササルトキト雖モ運送賃支拂ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ヲ爲シタル場合ニハ船主ハ其特約ニ因リ運送ノ履行ヲキニ拘ハラズ運送賃ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

〔第六百十二條〕

○同一ナル物品運送ノ目的ヲ以テ第一ニ船主ト傭船者トノ間第二ニ其傭船者ト第三者トノ間ニ運送契約成立シタル場合ニ於テ船主カ第一ノ契約ニ從ヒ運送ヲ了シタルモ運送賃ノ支拂ヲ受ケサルニ因リ運送品ノ上ニ留置權ヲ有スルトキハ第三者カ傭船者ニ對シ第二ノ契約ニ從ヒテ既ニ運送賃ヲ支拂ヒタルトキト雖モ船主ハ運送賃ノ支拂ヲ受クルマテ其第三者ニ對シテモ留置權ヲ主張シテ運送品ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得

○商法第六百十二條ノ規定ハ傭船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタル

商法 海商 運送 物品運送 總則 四七七

四二

七六

四三

五九六

四三

五九六

四二

四六一

四二

四六一

三九

一四五

四二

八五六

トキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テ船主ヲシテ其
第三者ニ對シ履行ノ責ニ任セシメタルニ止マリ船主カ備船者ト契約シ
タル運送貨ノ支拂ヲ受ケサル爲メ運送品ノ上ニ有スル留置權ノ行使ニ
制限ヲ加ヘタルモノニ非ス

〔第六百十
三條〕

〔第六百十二條〕

○船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ積荷カ其船舶ト共
ニ不可抗力ニ因リテ沈没シタルトキニ於テ商法第六百十三條第二項ニ
所謂運送品ノ價格ヲ超エサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シ
タルモノナラサルヘカラス

〔第六百十
九條〕

〔第六百十九條〕

○數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セスシテ荷送人ニ
損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ
對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ
舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於
テモ亦認メラレサル所ナリ

○如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行爲ヲ爲シタ
ル運送人ニ對シ求償權アルノ外其行爲者タラサル他ノ運送人ニ對シテ

全部ノ請求權ナシ

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ
其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運
送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ
責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱
人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷
主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

〔同三三〕

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナル
カ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタルトセハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

○船舶所有者カ自己ノ便宜ノ爲メ其選擇ヲ以テ任意ニ曳船ヲ雇入レ運送
行爲ノ補助ヲ爲サシメタルトキハ該曳船ノ船長ハ獨立ノ營業ヲ爲ス者
ナレトモ船舶所有者カ其運送ノ爲メニ使用シタル者タルコトヲ妨ケス
從テ曳船船長ノ過失ニ因リ荷送人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ船舶所
有者ハ商法第六百十九條第三百二十七條ノ規定ニ從ヒ之カ賠償ノ責ニ
任セサルヘカラス

第二款 船荷證券

三六	三七	三六	三九
三三	三四	三五	三九

三三	三四	三五	三九
三六	三七	三六	三九

○船荷證券トシテ無効ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有効ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思ノ解釋ニ因テ定マルヘキモノトス

〔第六百二十條〕

○船荷證券ハ荷積前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非ス然レトモ其作成授受ヲ荷積後ニ於テシ其效力モ亦荷積後ニ發生スルヲ以テ通例トス
○運送契約ニ付テハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スルコトモ亦其代理權限内ニ在ルモノトス

〔第六百二十九條〕

(參照)

荷物送狀カ指圖式ナル場合ニ於テ流通證券タル性質ヲ有スルトキハ記名式ナル場合ニ於テモ亦裏書ニ依リ轉讓スヘキハ勿論ナリトス
運送人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ荷爲替附ノ貨物ヲ荷受人ニ交付シタル爲メ該爲替金ヲ償還セル荷受人ハ契約ノ違背者タル運送人ニ對シ其違背ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルト代金ヲ支拂ハスシテ物品ヲ受取リタル荷受人ニ對シ其代金ヲ請求スルト自由ニ選擇シ得ルモノトス

第四章 海損

〔第六百五十一條〕

〔第六百五十一條〕

○商法第六百五十一條ニハ廣ク船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權トアルヲ以テ其前條ノ場合ノ外船舶カ一方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ノ債權モ亦此ニ包含スルモノトス

○商法第六百五十一條ノ規定ハ同第五百三十八條ニ依ル船舶ノミニ適用スヘキモノニシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セサル法意ナリトス

第五章 海難救助

〔第六百五十二條ノ二〕

〔第六百五十二條ノ二〕

(參照)

海上ニ於テ遭難船舶ヲ救助シタル者ハ船舶所有者主ニ對シテ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六章 保險

〔第六百五十三條、第六百五十四條〕

○積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失減損等ニノミ制限シタルモノニ非スシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷

商法 海商 海難救助 保險

三六	三三	三四	三五	三六
	二	五	二	
		一四九	八	
			八四七	

四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

ヲ賣却シ損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ其損害ヲ負擔スヘキモノトス
 ○積荷ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船積方法ニ關スル船長ノ過失ニ因リ
 航海中損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ之ヲ填補スヘキ責任ヲ負フモノ
 トス

〔第六百六十四條〕

○保險者カ保險契約締結當時ノ船長ニ信用ヲ置キ該契約ノ效力ヲ其變更
 ニ繋ラシメ保險者ノ承諾ナクシテ船長ヲ變更シタルトキハ損害填補ノ
 責ニ任セサルヘキ旨ヲ要約スルカ如キハ毫モ公益ニ反スル所ナケレハ
 法律上之ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○商法第六百六十四條ハ單ニ普通ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ保險者
 カ保險契約ノ效力ヲ船長ノ更替ニ繋ラシムルコトヲ禁止セルモノニ非
 ス

〔第六百七十條〕

○商法第六百七十條ニ所謂航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的
 タル積荷ヲ賣却シタルトキトハ單ニ被保險事故ニ因リ絶對ニ其運送ノ
 目的ヲ達スルコト能ハサルニ至レルカ爲メニ賣却ヲ遂ケタルカ如キ場
 合ノミヲ指シタルニ非スシテ衝突事故ノ爲メ航海ヲ繼續スルコト能ハ

サルニ至リ他ノ方法ヲ以テ運送ノ目的ヲ達スルニハ莫大ナル費用ヲ要
 シ途中ニ於テ賣却シタル場合ニ比スレハ一層多額ノ損失ヲ受ケサルヘ
 カラサルカ如キ場合モ亦之ニ包含セルモノトス

三六

四〇

三六

三六

一八五

六二

五七〇

五七〇

三七

八九〇

商法 (明治二十三年法律第三十二號)

注 本法中第一編第六章第十二章及第二章第四章(商事會社ニノミ)ハ明治二十六年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ第三編ハ同二十六年七月一日ヨリ現時ニ至ル上掲ノ部分ヲ除ク殘部ハ同三十一年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ施行セラル

總則

(第一條)

【第一條】

(參照) 商習慣ハ當事者ヲシテ證明セシムルカ又ハ裁判所ノ職權ニ依リ調査ヲ爲シタル上ニ非サレハ漫然其存在ヲ認ムルヲ得ス

第一編 商ノ通則

第一章 商事及ヒ商人

(參照)

商法 總則 商ノ通則 商事及ヒ商人

六

三

一〇三

店判ハ商業以外ノ權利關係ニ付キ之ヲ使用スヘキモノニ非サルモ商業ニ附隨スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタルハトテ通常一般ノ慣行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

〔第四條〕

〔參照〕

一ノ取引ニシテ其大體ノ目的商事上ノ取引ヲ爲スニ在ルトキハ縱令其取引ニ係ル物件ノ一部分ヲ他ノ目的ニ使用スルモ相手方ニ對シ商取引タル性質ヲ失ハス

商取引ナルト否ハ其取引ノ目的如何ニ依リ定ムヘク實質上得ヘキ利益ヲ標準ト爲スヘキモノニ非ス

手形法ハ商法ノ一部ナリ故ニ之ニ基ク手形ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引ハ商法上ノ行為ニシテ商取引ニ屬スルモノトス

〔第六條〕

〔第六條〕

○明治二十六年舊商法ノ一部施行以來商事ノ行為ト民事ノ行為トヲ區別シ商人カ其商業資金融通ノ爲メニ爲ス所ノ契約ハ之ヲ商事ノ行為ト看做シタルノミナラス明治三十一年舊商法施行後ハ同法第六條ニ該當スルヲ以テ其契約ニ因リテ生シタル債權ハ同法第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ現行商法及ヒ同商法施行法第三百七條ノ適用ニ依リ時効ニ罹ルモノトス

第三章 商號

三〇	六	六
三	七	三
四	一	四

〔第二十九條〕

〔第二十九條〕

○當事者間ニ於テ同一ノ商業ヲ營マストノ契約ハ適當ナル期間又ハ區域ニ制限シアル場合ニ於テハ有效ナリトス

第四章 商業帳簿

〔第三十九條〕

〔第三十九條〕

商人カ商業上ノ取引ヲ記入セル簿冊ハ單純ナル手控ノ如キモノト異ナリ其商業取引ニ付テハ一應ノ證據力ヲ有スルヲ以テ之カ論争ヲ爲スモノハ相當ノ立證ヲ爲ササルヘカラス

第五章 代務人及ヒ商業使用人

〔第四十五條〕

〔第四十五條〕

商家ニ於ケル支配人ノ權限ハ商業主人カ常ニ營ム所ノ業務ノ廣狹ニ伴隨スヘキモノニシテ法律上一定ノ不働ノ限界アルコトナシ

〔第五十一條〕

〔第五十一條〕

○番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メ商行爲ヲ爲スヲ通例トスルカ故ニ其行爲ハ主人ノ代理資格ヲ以テ爲シタルモノト認ムルヲ得ヘシ

商法 商ノ通則 商業帳簿 代務人及ヒ商業使用人

三	二	三
三	三	三
三	二	三

第五十四條第五十五條

○舊商法第五十五條ハ商業使用人カ金錢物品等ノ受渡ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ手形ヲ振出シタルカ如キ場合ニ適用スヘキ規定ハ同法第五十四條ナリ

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合 商事會社總則

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付キ縱令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地位ニ立タスト雖モ實體上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ

○商法實施前ニ於ケル銀行ノ頭取副頭取ハ慣例上訴訟ニ付キ銀行ヲ代表スル權利アルモノトス

○登記ヲ受ケサル會社ノ定款タリトモ會社ト取引シタル者カ其定款ノ存

在ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用スルモ不當ニ非ス

○商法施行前ニ在テハ法人ノ資格ナキ會社ト雖モ其代表者ノ名義ヲ以テ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケ得ルモノト爲シ又其會社解散後ノ殘務委員ハ法人タル會社解散後ノ清算人ト同一ノ任務ヲ有スルモノト爲スハ裁判上一般ノ慣例ナリ

(同三三)

商法實施前ニ解散シタル會社ノ殘務委員ハ商法ニ於ケル法人會社ノ清算人ト同一ノ任務アルモノニ付キ其社團代表ノ權利ハ之ヲ認許セサルヘカラス

○商事會社ト雖モ民法上ノ行爲ニ付キ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得
○會社ノ代表權ナキ者ニ對シ會社ニ係ル支拂命令及ヒ執行命令ヲ發シ其代表權ナキ者ニ對シ裁判確定スルモ之ニ干與セサル會社カ之ヲ認メサル以上ハ其效力ニ羈束セラルルコトナシ

○民法施行前ニ於テハ民法第四十三條ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行爲ト雖モ絶對ニ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非ス

(參照)

會社ノ責任ヲシテ有限ト爲サンニハ格段ナル條件ヲ要ス否ラサルトキハ他人ニ對シテ有限責任ヲ主張スルコトヲ得ス

三五	三四	三三	三二	三一	三〇
一	二	五	二	一	
五	七	四	六	一	一〇三

元	元	三	三	三	二
三	三	三	三	三	二
五	五	七	七	七	一四七

地方廳力與ヘタル「會社條例制定施行迄相對自營ニ任ス」トノ指令ハ有限責任ナル會社ノ設立ヲ認可シタルモノトハ論シ難シ

會社解散スルトキハ將來ノ行為ニ係ル賣買取引ハ之ヲ繼續スルノ必要ナキニ依リ其約務ノ消滅ハ當然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之ヲ說明ヲ付セサルモ違法ノ裁判ニ非ス

會社ノ約款ニ有限責任タルコトノ規定アルモ其效力ヲ社外人ニ及ホスコトヲ得ズ縱令其規約ヲ所轄地方廳ニ届出ツルモ世上一般ニ對シ公示シタルモノト爲スニ足ラス

第七十二條

第七十二條

舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社カ社印ヲ押捺セスシテ交付シタル書類ハ總テ無効ノ制裁アルモノニ非ス

(同左)

商法第七十二條ノ社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用フトノ規定ハ素ト内外商業上ノ習慣ニ基キ社號及ヒ社印ノ使用ニ關スル通則ヲ示シタルニ止マリ書類ノ效力ニ關スル法律上ノ要件トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ社印ナキ書類ハ其書類ノ何タルヲ問ハス法律上無効ナリト云フヲ得ス

第七十三條

第七十三條

商法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社社團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セス故ニ其當時ニ於ケル某會社トハ取モ直サズ社員全體ヲ合シテ指稱スル所ノ假名ニ過キス會社即チ社員ニシテ會

社ト社員トハ各獨立ノ權利主體タルヘキ者ニ非ス從テ會社ノ解散スルト否トハ社員ノ義務ニ消長ヲ來スノ理ナシ但法人タラサル會社社團ノ名義ヲ以テ訴ヲ起シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得タル事例アリト雖モ這ハ畢竟訴訟手續上ノ簡便ヲ圖リテ之ヲ許スノミ

(同左)

會社法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社社團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セサルヲ以テ一般ノ法則トス此法則ニ據テ法人視スヘキモノノ外某會社ト云フモ社員全體ヲ指シテ假稱スルニ過キス其會社ハ即チ社員社員ハ即チ會社ニシテ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主體タルヘキ者アルニ非サレハ會社ノ解散セルト否トニ因テ社員ノ義務ニ消長アラサルナリ然ルニ原裁判所方其會社ヲ以テ會社法實施後ノ商事會社ト同視シ會社ノ現存スルニ拘ハラズ各社員ニ對シテ請求シタルヲ以テ不當ト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノトス

- 商法實施以前ニ於ケル特別條例外ノ會社ハ會社存續中ハ社長又清算中ハ清算人ニ於テ訴答ヲ爲シ得ルモノトス
- 會社法施行以前ニ行政廳ノ聽許ニ依リ設立シタル會社ハ法人ニ非サルモノノ團體ナリ故ニ其團體カ其資産ヲ限度トシテ債務ヲ起シ債權者カ之ヲ承諾シタルトキハ其義務ハ團體ノ資産ニ止マリ社員一個人ノ財産ニ及ハス
- 商法實施前ニ於ケル會社社團ハ特別ノ條例ニ依リ設立セラレタルモノ

三五	二五	二六	二七	二八
二	一	二	二	二
二	五	六	三	七
二	二	三	四	五

ノ外法人ト看做ササルヲ以テ一般ノ法則ト爲ス
○法人ノ資格ヲ有セサル會社團體ト雖モ公然會社ト稱スルモノハ其定款
又ハ社則ニ基キ選定セラレタル役員ノ名義ヲ以テ法律行爲ヲ爲シ又之
ト取引スル者モ之ヲ以テ會社ノ法律行爲ト看做スハ商法實施前ニ於テ
普通認知セラレタル慣例ナリ
○商事會社法施行以前ニ於ケル會社ハ法人ノ資格ヲ有スルモノニ非ス單
ニ其社員ノ共同連結ニ外ナラサルヲ以テ社外人ニ對シ特別ノ契約等ナ
キトキハ其責任モ亦社員連帶シテ負擔スヘキモノトス

第一節 合名會社

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

〔第一百十二條〕

(參照)

無限責任會社ノ性質ハ其責任會社ノ資本ニ止マラス出資者個人ノ財産ニ及ホシ各自財産ノ多
寡ニ拘ハラズ共同一體ニ無限ノ責任ヲ免レサルモノナレハ縱令契約ナキモ株主ハ連帶シテ其
責任ヲ盡ササルヲ得ス

第五款 社員ノ退社

〔第一百二十條〕

○商法第百二十條第二項ハ總社員ノ承諾ヲ要スル場合ト任意ニ退社スル
場合トヲ論セス豫告及ヒ時期ノ二條件ヲ具備セザレハ退社ヲ許ササル
法意ナリ

第六款 會社ノ解散

○會社解散ノ申請ヲ棄却シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ法律ノ
規定ナキニ依リ其裁判如何ニ不審ノ廉アルモノニ對シ抗告ヲ爲スノ權
ナシ

第二節 合資會社

〔第一百二十七條〕

○舊商法ニ依ル合資會社社員ノ出資義務ニシテ會社解散ノ當時既ニ辨濟
期ニ在ルモノハ其清算ニ付テハ純然タル會社ノ債權ニ屬スルカ故ニ清
算人ハ會社ノ債務ヲ償却スルニ付キ必要ナルヤ否ヲ問ハス先ツ其辨濟
ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

〔第一百四十三條〕

○舊商法ニ依ル合資會社ノ業務擔當社員ハ會社ノ代表機關ナルモ無限責
任社員ハ當然會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノニ非ス故ニ無限責任社
員ヲ以テ會社代表ノ權限ヲ有スルモノト爲スニハ會社契約ニ依ル下將

商法 商ノ通則 商事會社及ヒ共算商業組合 合名會社
會社ノ解散 合資會社

三六	三五	二五
三六	二五	二五
七五〇	一九	六

三〇	三〇	二五
二	二	六
四六	四六	六

タ社員ノ決議ニ據ルトニ論ナク其會社ノ業務擔當社員タルコトヲ認めサルヘカラス

〔第四百四十五條〕

○舊商法ニ於テハ合資會社ノ有限責任社員ノ持分ハ業務擔當社員ノ認可ヲ經サレハ之ヲ他人ニ讓渡スルヲ得ス從テ社員ノ債權者ハ債權轉付命令ニ因リ其持分ノ轉付ヲ受クルノ權ナシ

第三節 株式會社

第一款 總則

○定款解釋ノ如キモノニ付テハ其解釋上ニ違法ノ廉アラサレハ不服ヲ唱フルヲ得ス

○商事會社法施行以前ノ無限責任株式會社ニシテ第三者ニ對スル負債ヲ償還シ能ハサルトキハ出資者各自ハ共同一體無限ノ責任ヲ免ルルヲ得ス故ニ特約ヲ要セス其會社ノ負債ニ對シ各自連帶シテ義務ヲ負フモノトス

○米穀取引所ハ商法ノ規定ニ依リ株式組織ヲ以テ設立セル商事會社タリ故ニ之ニ對スル爭訟ハ原因ノ何タルヲ問ハズ司法裁判所ノ管轄ニ屬ス
○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合

三
三〇五

三
一四

三
一

三
一四

三
二

員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ止マルヲ以テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

○凡ソ有限責任會社タルニハ政府ノ認可及ヒ登記ノ手續等ヲ要スヘキハ現行商法ノ規定スル所ナリ而シテ同法施行前ニ於テ其認可ヲ地方官ニ請フ者アルモ相對ノ取引ニ任ストノ指令ヲ付シ來リタルハ一般著名ノ慣例ナリ故ニ當時ニ在テハ會社ノ性質及ヒ其責任ノ範圍ハ凡テ會社設立者ト取引者ノ合意ニ一任シ其合意ナク會社ノ性質ヲモ知ラスシテ取引ヲ爲シタル者ニ對シテハ一般契約履行ノ法理ニ依ルヘキモノトス
○舊商法ニ於テモ株式又ハ増資株式ノ申込ニ無効ノモノ若クハ無効ニ歸シタルモノアルトキハ其引受ナキ株式ハ發起人又ハ取締役ニ於テ之ヲ引受ケ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負フモノトス

〔第四百六十一條〕

○株式ノ申込ハ會社設立ノ場合ト資本増加ノ場合トニ拘ハラヌ書面ヲ以テ爲スヲ要ス

○舊商法中署名トアルハ氏名ヲ自署スルノ謂ナレトモ株式ノ申込書ハ自署ヲ要件トスルモノニ非サレハ縱令申込人ニ於テ自署セサルモ直ニ之

三
二

三
二六

三
一〇三

三
七

ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○舊商法第六十一條ハ代人ヲ以テ株式ノ申込ヲ爲ス場合ニハ必ス書面ニ依リ代理委任ヲ爲スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス從テ該委任關係ハ書面ヲ以テ之ヲ表彰スルニ非サレハ其效ナシト云フヲ得ス
○舊商法第六十一條第二項ハ代人ヲ以テ株式ノ申込ヲ爲ス場合ニハ形式上代人ナル文字ヲ表記スヘキ旨ヲ命シタルモノニ非ス從テ申込書自體ニ依リ氏名附記者カ事實上代理權アルコトヲ認識スルニ足ルトキハ其申込ハ適法ナリ

〔第六十七條〕

○株金ノ拂込ハ申込ノ爲メニスル以上ハ第三者代リテ之ヲ行フモ不法ニ非ス

〔第六十八條〕

○株式會社カ登記ノ届出ヲ爲スコトハ其義務ニ屬スルモ此義務ハ登記官吏カ會社ヨリ差出シタル登記ニ關スル陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ終了シ其後ノ行爲ニ關係ヲ有セザルモノトス
○株式會社ノ登記ニ關スル陳述書ノ適否ヲ審査シ之ヲ登記スルハ登記官吏ノ責任ヲ以テ爲スヘキ登記官廳ノ行爲ニ屬シ會社ノ責任ニ屬セズ

〔第七十一條、第七十二條〕

○舊商法第七十二條ノ規定ニハ創業總會以後ニ生シタル義務及ヒ出費ヲ包含セザルハ勿論同第七十一條ノ規定モ亦主トシテ其以前ノ義務及ヒ出費ニ關スルモノニ外ナラス

○舊商法施行ノ當時株式會社發起人カ創業總會ヲ開キタル時ヨリ會社ノ設立登記ヲ爲スマテノ間ニ生スヘキ義務及ヒ出費ノ如キハ創業總會ニ於テ豫メ之ヲ議決スルコトハ法令ノ禁スル所ニ非サレハ此場合ニ於テモ亦同法第七十一條ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

○舊商法施行ノ當時株式會社創立委員長カ發起人ノ委任ニ因リ創業總會ノ後會社ノ利益ノ爲メニ締結シタル消費貸借ノ債務ニ付テハ委任者タル發起人ニ於テ之カ辨濟ノ責ニ任スヘキハ當然ナリト雖モ特別ノ意思表示アラサル以上ハ連帶責任ヲ負ハシムルヲ得ス

第四款 株式

○株式ノ賣買ニ付テハ株券調製ナキモ合意ノ性質ヲ變セス
○白紙委任狀ヲ添ヘテ株券ヲ買取リタル者ハ其名義書換ノ手續ヲ爲サス白紙委任狀添附ノ儘之ヲ轉流通セシムルコトヲ得ルハ我邦現時ノ商慣習ナリ

三〇	元	元	元	元
三	四			
二六	七	一六五	一六五	一六五

三	三	元	元	元	元
三	六				
四	四	二四	二四	二四	二六

○舊商法ニ於ケル株券ノ賣買ハ株券其物ノ賣買ニ非スシテ株主權タル債權ノ賣買ニ外ナラサルモノトス

(同主旨)

株券ノ賣買トハ株式ノ賣買即チ一種ノ權利ノ讓渡ニシテ株券ト稱スル特定物ノ賣買ニ非ス

(參照)

未タ獲得セサル株券ノ賣買金ヲ以テ自己ノ負債ヲ償却シタルハ他人ノ立換ヲ受ケタルト一般ナリ

甲者カ會社株券ノ名前入タルノ故チ以テ既ニ配當金ヲ受領シタリシト雖モ是ヨリ先キ其株券ノ所有權ハ乙者ニ移リ乍ラ甲者ノ故障ニ依リ名前書換ヲ爲シ能ハサルカ爲メ甲者ノ受領シタル配當金ノ取戻ヲ請求シタルトキハ甲者ハ之ヲ引渡ス義務アルモノトス

總テ株券ノ賣買ハ一般ノ商慣習ニ於テ先ツ相場ヲ立テテ之ヲ爲スモノトス利落賣買ハ或場合ノ變例ニ過キス故ニ利落賣買ノ證據ナキ以上ハ相場ヲ立テテ賣買シタルモノナルニ依リ未タ支拂ハサル配當金ハ賣買前ノ時期ニ係ルモノモ株券ト共ニ讓受人ノ取得スルチ一般ノ商慣習ナリトス

【第八十條】

【第八十條】

○商法實施前ヨリ設立シタル株式會社ハ登記ヲ經サルモ商法實施ノ日ヨリ六个月内ハ依然トシテ會社ノ效ヲ存シ其株券ニ於ケルモ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノアルトキハ其賣買若クハ擔保ニ爲シタル或株券ノ

ミナラス其會社ノ總テノ株券ニ付テモ商法第百八十條ノ規定即チ「登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ」トアル規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○會社ノ登記以前ニ其株式ヲ讓渡シタルトキハ當事者互ニ其履行ヲ求ムルヲ得ヌ又授受ヲ了リタルトキハ互ニ返還ヲ求ムルヲ得ヘシ

○商法第百八十條ノ規定ハ豫約株ト稱スルモノノ賣買ニモ亦適用スヘキモノトス

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買ハ舊商法第百八十條ニ從ヒ無効ナルヲ以テ之カ爲メ支拂ヒタル代金ハ當然取戻シ得ヘキモノトス

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買代金ノ對價ハ株式ニ關スル權利ニシテ證據金領收書及ヒ委任狀ノ如キハ右賣買ノ目的タル權利ヲ證明セルモノニ過キス

○舊商法第百八十條中「株式」ナル文字ハ株式會社發起ノ時ヨリ其登記ヲ爲スニ至ル間ニ於ケル株式ニ關スル權利ヲ包含スルモノトス

○舊商法第百八十條ニ所謂株式トハ申込ヲ爲シタル權利ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナリトス

三	二	一	一	一	二	三
二	五	九	二	二	二	三
二	五	九	二	二	二	三

二	二	三	四	五	六	七
二	二	三	四	五	六	七
二	二	三	四	五	六	七

○舊商法第百八十條ハ登記前ニ於ケル株式ハ讓渡ノ目的物ト爲シ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ讓渡行爲自體ヲ禁止シタルモノニ非ス
○舊商法ニ於テハ株式會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ其普通ノ賣買タルト公賣タルトヲ問ハス將タ又其任意タルト強制タルトヲ論セス凡テ絶對ニ無効ナリトス

(同旨)

會社ノ登記以前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ商法第百八十條ニ依リ絶對的ニ無効ナリ
會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ商法第百八十條ニ依リ無効ナリトス

〔第百八十一條〕

(參照)

記名ノ株券ハ普通ノ動産ト同視スヘカラス其名義書換等ノ手續ヲ爲ササルトキハ他人ニ對シ所有移轉ノ效力ヲ有セス

第五款 取締役及ヒ監査役

○株式會社ノ訴訟ニ於テ社長カ訴訟委任ヲ爲スニ當リ其委任狀ニ社印ヲ用ユヘキ規定ナキニ依リ社長ノ實印押捺アル訴訟委任狀ヲ是認セル裁判ハ相當ナリ

○舊商法施行ノ當時株式會社ノ支配人カ會社ノ代表者トシテ締結シタル契約ハ民法第百十三條ノ規定ニ依リ本人タル會社ニ於テ之ヲ追認スル

三五	二	九〇
三五	九	二七
二六	五	九一
三三	二	二四
二五	三	二〇
三一	四	二六

ニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノトス

(參照)

銀行ノ頭取及ヒ株主總代兼ノ肩書ヲ附シテ取締役支配人之ニ連署シ銀行ノ印章ヲ押捺シタル證書ハ完全ナル契約書ナリト認メ乍ラ之ヲ無効ノ契約ト認定スルニハ確實ナル反證ヲ擧ケルカ又ハ他ニ相當ノ理由ナカルヘカラス然ルニ該銀行ノ考課狀ニ該契約ヲ締結スヘキ議決ノ記載ナキヲ唯一ノ理由トシテ該契約ハ株主總會ノ議決ヲ經サルモノト爲シ該證ノ契約ヲ無効ナリト認定シテ判決ヲ下シタルハ探證ノ法則ニ違背シテ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリ

〔第百八十五條〕

○舊商法ニ於ケル株式會社ノ取締役ハ創業總會ニ於テ選定セラルルモノナレトモ其會社ノ機關トシテ活動スルハ會社設立ノ免許ヲ得而シテ發起人ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル時ニ始マルモノナレハ其任期ノ如キモ亦此時ヨリ起算セサルヘカラス

〔第百八十六條〕

(參照)

會社取締役ノ資格ヲ以テ發付セシ書面タルモ社印ナキカ爲メ會社ニ責ナシト爲サンニハ他ヲ彌東スルニ足ルヘキ約束ナカルヘカラス然ラサレハ概シテ其社印ナキカ爲メ取締役ノ爲シタル行爲モ會社ニ責ナシト云フヲ得ス

〔第百八十八條〕

〔第百八十八條〕

三七	四三	
二六	二	二六
三七	八六	
二六	二	二四

○舊商法施行ノ當時甲株式會社カ乙株式會社ノ財産ヲ買受ケタル場合ニハ甲會社ノ取締役ハ縱令其買買ニ付キ株主總會ノ決議ヲ經タレハトテ之カ施行ニ付テハ充分目的物ノ有無ヲ調査シ甲會社ニ損害ヲ生セシメサルノ責任ヲ負フモノトス從テ乙會社ニ存在セサル財産ヲ存在スルモノトシ之カ對價ヲ支拂ヒタルトキハ該取締役ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキハ當然ナリ

第六款 株主總會

○株式會社ノ株主カ他ノ資格ヲ以テ其會社ニ對シ債權ヲ請求スルトキハ會社ノ議決錄ニ拘束セラルルコトナシ
○各株主カ株主總會ノ決議ニ依リ負擔スヘキ義務ハ其所有スル株式ノ金額ヲ限度トスルモノニシテ之ヲ超過シテ該決議ノ結果ヲ受クルモノニ非ス隨テ株主總會カ株券ノ金額ヲ増加シ又ハ新株式ヲ發行シ現在ノ株主ヲシテ其所有スル株式ニ應シ之ヲ引受ケシムヘキコトヲ決議スルモ各株主ハ之ヲ承諾スルニ非サレハ其引受ヲ爲スノ義務ナシ
○株式會社ニ於ケル株主總會ノ決議ハ會社タル法人ノ意思ニシテ法人自體ノ利害ニ關スル重要ノ事項ヲ定ムルモノタルニ外ナラス而シテ株主ハ其所有株式ノ金額ヲ限度トシテ總會ヲ組成スル株主ノ法定多數ノ意

三	六	一八五
二	六	三
三	一	七

第二百六條

第七款 定款ノ變更

○株主總會ノ決議ニ付キ株主カ服從ノ義務ナキ以上ハ會社カ決議事項ヲ登記スルモ株主ニ對シテ其效ヲ有セス
○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサレハ株金額増加ノ引受ヲ承諾セサル株主ニ對シ増加株金ノ拂込ヲ強要スルヲ得ス
○株式會社ノ資本ノ増減ハ其定款ノ變更ナリ而シテ定款ノ變更ニ必要ナル株主總會ノ決議ハ各株主ヲ羈束スト雖モ各株主カ其決議ニ服從ノ義務アルハ其所有株式ノ金額ヲ以テ限度トスヘク株主總會ノ決議ノ爲メ右金額ヲ超過シ新ナル義務ヲ負擔スヘキモノニ非ス
○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサレハ株金額増加ノ引受ヲ承諾セサル株主ニ對シ増加株金ノ拂込ヲ強要スルヲ得ス

三	二	八五
三	一〇	八五
三	二	六
三	二	六

總會ノ決議ヲ經テ各株主ヨリ書面承諾ヲ受クルニ非サレハ其拂込ヲ請
 求シ得サルモノトス

○舊商法ニ於テモ株式又ハ増資株式ノ申込ニ無効ノモノ若クハ無効ニ歸
 シタルモノアルトキハ其引受ナキ株式ハ發起人又ハ取締役ニ於テ之ヲ
 引受ケ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負フモノトス

第八款 株金ノ拂込

○株式會社カ資本ヲ増加スル場合ニ於テ其新株ノ應募者ハ總新株ノ引受
 アルヘキコトヲ豫想シテ其募集ニ應スルモノナルヲ以テ會社ハ定款ニ
 別段ノ定アル場合ノ外總新株ノ引受アリタル後ニ非サレハ引受ヲ爲セ
 シ者ニ對シ拂込ヲ催告スルヲ得ス

〔第二百十五條〕

(參照)

會社定款ヲ以テ拂込未済ノ株ヲ公賣ニ付シ不足金ノ追徴ヲ爲スコトヲ許シ而シテ必ス一回ノ
 拂込未済毎ニ其處分ヲ結了スヘキコトヲ限ル明文ナキ以上ハ其會社ニ於テ二回以上ノ拂込未
 済ニ對スル處分ヲ併セテ同時ニ爲スコトヲ得

第九款 會社ノ義務

○銀行ノ考課狀ハ銀行カ其株主ニ對シテ爲シタル報告書ナレハ其記載事

三七	一〇一
四〇	一〇三
三一	一〇六
二四	一一八

〔第二百十七條〕

項ニ付キ株主以外ノモノニ對シテ直接ニ其責ヲ負フモノニ非ス
 ○舊商法施行ノ當時株式會社カ同法第二百十七條但書ノ規定ニ違背シテ
 自己ノ株券ヲ取得シタル場合ニ於テハ其公賣ノ方法ニ依ルト否トヲ問
 ハス更ニ之ヲ第三者ニ移轉シ得サルモノトス

〔第二百二十一條〕

○會社ノ新株ト舊株ト性質ヲ異ニシ利益配當上優劣アル場合臨時總會ニ
 於テ新株一株ト舊株二株半ヲ同等ト爲シ新株ノ特權ヲ將來ニ向テ廢止
 センコトヲ議決スルモ商法第二百二十一條ノ規定ニ違背シタルモノニ
 非ス

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

○舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第六十三條第三項ノ規定
 ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ

〔第二百二十九條〕

○舊商法第二百二十九條ハ會社資本ノ二十分一ニ該ル株主ニ限リ訴訟ヲ
 爲スコトヲ許シ其他ヲ禁スルノ法意ニ非スシテ二十分一以上ノ株主ハ
 普通ノ訴訟手續ニ從フヲ要セス特ニ選定シタル代人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス

商法 商ノ通則 商事會社及ヒ共算商業組合 株式會社
 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

二九	一一	一
三七	一三	四六
三〇	一三	
三四	二	四〇

トトヲ得ヘキ便宜ヲ與ヘタルニ過キス

第十三款 會社ノ清算

〔第二百四十條〕

○商法實施前ノ私立銀行殘務委員ニ其銀行代表ノ權利アルコトハ裁判上公認セラレタル慣例ナリ

○殘務委員數名アル場合其代表權ニ關シ定款等ニ依リ制限ヲ付セサル以上ハ各別ニテモ銀行ヲ代表スル權利アリトス

〔第二百四十六條〕

○舊商法第二百四十六條ノ法意ハ清算ノ爲メ必要ナルトキハ拂込未了ノ株金ヲ拂込マシムル權利アリトノ義ナリト解釋セサルヘカラス

第四節 罰則

○過料處分ハ民事上ノ責任ト異ナリ相續人ニ於テ先代ノ負ヘル責任ヲ繼承スヘキモノニ非ス

〔第二百六十二條〕

○會社ノ業務擔當ノ任アル社員ニシテ不實ノ報告ヲ爲シタルトキハ報告ノ各回毎ニ其罪(商法第二百六十二條)ヲ構成ス

第五節 共算商業組合

〔第二百六十六條〕

第二百六十六條 第二百六十七條

○商業上組合員カ連帶責任ヲ負擔スルハ裁判上公認ノ法理ナリトス

○舊商法第一編第六章第五節ニ規定セル當座組合ニ在テハ會社解散ノ場合ニ於ケルカ如キ清算手續ヲ爲スヘキ法規存セサレハ組合員ハ如上ノ手續ヲ踐マスシテ各自組合ノ損益ヲ計算シ以テ組合關係ニ基ク債權ヲ主張シ得ルモノトス

第七章 商事契約

(參照)

商業取引上ノ殘額ハ合意ニ因テ不可分ト爲ササル以上ハ其性質可分ナリ

第七節 時效

〔第二百四十九條〕

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時效ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第百三十七條

商法 商ノ通則 商事契約 時效

三	三	三	三	三	三
三	九	九	〇	〇	二
三	九	九	一	一	四

三	四	三
三		〇
三	三	六

及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時効ニ罹ルモノトス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

○舊商法ノ規定ニ依レハ記名式ヲ以テ發行シタル寄託物ノ受取證書ハ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之カ爲メニ該證書ヲ目シテ指圖證券トスルヲ得ス從テ其證券ニハ同第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送

取扱人及ヒ運送人

第五節 仲買人

第四百五十六條

○物産ノ委託販賣ヲ目的トスル會社ハ營業トシテ貸金ヲ爲スヲ得スト雖モ其營業外ニ金錢ノ貸借ヲ爲スモ妨ナシ

第六節 運送取扱人

(參照)

運送取扱人ニ對シ荷爲替附ノ荷物引渡ヲ求ムル者ハ爲替金ノ支拂ヲ爲サスシテ荷物ノミノ引取ヲ許ササルハ條理及ヒ商慣習ノ認ムル所ナリトス

四二 二三九

四 三頁

三〇 八四

二六 一〇六

第四百八十四條

○舊商法第四百八十四條ニ規定セル運送狀ニ付テハ新商法第三百四十四條ノ如キ明文ナシト雖モ運送狀ハ流通證券ニシテ運送品ヲ代表スルモノナル以上ハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求シ得サルモノト解釋セサルヘカラス

第四百八十九條

第四百八十九條

(參照)

運送取扱人ハ荷爲替附ノ荷物ヲ宛名人ニ引渡スモ其爲替債權ヲ失却セス單ニ留置權ヲ失フモノトス

第七節 運送人

○荷爲替ナルモノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物品引換ニ債權者又ハ債權者ノ指名シタル者ニ支拂フヘキ旨ヲ荷受人ニ對シテ指圖ヲ爲シ若シ其辨濟ヲ爲ササル場合ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲ナリトス
○荷爲替ニ因リテ生スル法律關係ハ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ於ケル物品擔保附ノ金錢貸借ナリトス
○荷爲替ノ債權者ハ荷受人カ辨濟ヲ爲ササルトキハ其擔保物タル運送物

三七 八六

二六 一〇六

三一 四

三一 四

品ノ處分ヲ爲サスシテ直ニ荷主タル債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○運送營業ニ關スル債務ト雖モ其債務證書ヲ作製シテ第三者ニ交付シ又ハ金額ヲ借入ルルカ如キ行爲ハ單純ナル運送業務使用人ノ受任權内ニ屬スヘキモノニ非ス

(參照)

通常荷爲替ナルモノハ其證文ノ明文ニ依リ債主タル者ノ隨意處分スルヲ得ヘキモノナレハ其處分上ニ付キ債主ノ承諾ヲ經サルモ荷爲替代金ニ不足ヲ生スル時ハ債主ニ於テ之ヲ償却スル義務アルモノトス
荷爲替ナルモノノ性質ハ貸借ト留置權トノ法理ニ基キモノニテ荷受主カ荷物ヲ拒絕シ爲替金ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ貸主ハ荷物ヲ其儘荷主ニ組戻シテ單ニ爲替金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得必スシモ保證物賣却ノ後ヲ除ク

第四百九十三條

〔第四百九十三條〕

(參照)

甲者乙者ト運送契約ヲ爲シ乙者ニ於テ運送中其貨物ノ喪失シタルニ依リ甲者其價額ノ賠償ヲ求ムルトキハ乙者ニ過失アルコトヲ證明スルノ責任ナシ而シテ乙者ハ運送ノ責任ヲ負擔シタルモノナレハ貨物ノ喪失カ甲者ノ過失貨物ノ性質又ハ不可抗力ニ基因シタルニ非サル以上ハ縱令喪失カ第三者ノ所爲ニ係リ乙者ノ自己ノ過失ナキモ甲者ニ對シ賠償ノ責ヲ免ルルコト能ハス

三	三	三	三
一	一	一	一
四	四	四	四
二	二	二	二
一〇	一〇	一〇	一〇

第五百五條

〔第五百五條〕

運送中貨物ノ喪失ニ付テハ運送營業者ニ於テ自己ノ過失ニ原因セサルコトヲ立證スルニ非サレハ貨物引渡ノ義務ヲ免レス

○運送人ニ於テ同業者カ引受ケタル貨物ヲ引受ケ遞次運送ヲ爲ストキハ各運送人ハ荷主ニ對シテ連帶シ運送ニ付テノ責任ヲ負擔スルヲ以テ一般ノ慣行ナリトス

第五百十六條

〔第五百十六條〕

○舊商法第五百十六條ノ時効ハ荷送人及ヒ荷受人等ヨリ運送人ニ對スル場合ニ係ルモノニシテ或運送取扱人若クハ運送人カ荷送人又ハ荷受人等ニ對シ運送ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シタルヨリ他ノ運送取扱人又ハ運送人ニ對シテ賠償ヲ求ムルカ如キ場合ハ之ヲ包含セサルモノトス

二九	二九	二九	二九
二	二	二	二
一三	一三	一三	一三
三	三	三	三
八六	八六	八六	八六

第九章 賣買

第二節 供給契約

第五百五十三條

〔第五百五十三條〕

(參照)

商法 商ノ通則 賣買 供給契約

供給契約ハ特約アルニ非サレハ物ヲ引渡スニ由テ所有權始メテ買主ニ移轉スルモノナレトモ物ヲ運送人ニ委託シタルノミニテハ未タ以テ賣主ノ所有權ヲ移轉スト云フヲ得ス

第十章 信用

第三節 寄託

第六百八十八條

第六百八十八條

○倉敷料等ヲ受取り物品ノ寄託ヲ營業ト爲ス倉庫會社カ其倉庫ノ失火ニ因リ滅失セシ物品ニ對スル損害賠償ノ義務ヲ免ルルニハ自己ノ過失ニ原因セサル火災ノ爲メ委託物品ノ滅失シタル事實ヲ證明セサルヘカラス

(參照)

倉庫會社カ火災ニ因リ受託物品ヲ滅失シタルトキハ其火災ハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ立證シ初メテ賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第六百二十一條

第六百二十一條

○舊商法ノ規定ニ依レハ記名式ヲ以テ發行シタル寄託物ノ受取證書ハ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之カ爲メニ該證書ヲ目シテ指圖證券トスルヲ得ス從テ其證券ニハ同第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

二六	二	四七
三〇	三	五四
三六	四	五八
四二	五	六五
四八	六	七二
五四	七	七八
六一	八	八五
六七	九	九二
七三	一〇	九九
七八	一一	一〇六
八四	一二	一一三
九〇	一三	一二〇
九六	一四	一二七
一〇二	一五	一三四
一〇八	一六	一四〇
一一四	一七	一四七
一二〇	一八	一五四
一二六	一九	一六一
一三二	二〇	一六八
一三八	二一	一七五
一四四	二二	一八二
一五〇	二三	一八九
一五六	二四	一九六
一六二	二五	二〇三
一六八	二六	二一〇
一七四	二七	二一七
一八〇	二八	二二四
一八六	二九	二三一
一九二	三〇	二三八
一九八	三一	二四五
二〇四	三二	二五二
二一〇	三三	二五九
二一六	三四	二六六
二二二	三五	二七三
二二八	三六	二八〇
二三四	三七	二八七
二四〇	三八	二九四
二四六	三九	三〇一
二五二	四〇	三〇八
二五八	四一	三一五
二六四	四二	三二二
二七〇	四三	三二九
二七六	四四	三三六
二八二	四五	三四三
二八八	四六	三五〇
二九四	四七	三五七
三〇〇	四八	三六四
三〇六	四九	三七一
三一二	五〇	三七八
三一八	五一	三八五
三二四	五二	三九二
三三〇	五三	三九九
三三六	五四	四〇六
三四二	五五	四一三
三四八	五六	四二〇
三五四	五七	四二七
三六〇	五八	四三四
三六六	五九	四四一
三七二	六〇	四四八
三七八	六一	四五五
三八四	六二	四六二
三九〇	六三	四六九
三九六	六四	四七六
四〇二	六五	四八三
四〇八	六六	四九〇
四一四	六七	四九七
四二〇	六八	五〇四
四二六	六九	五一〇
四三二	七〇	五一七
四三八	七一	五二四
四四四	七二	五三一
四五〇	七三	五三八
四五六	七四	五四五
四六二	七五	五五二
四六八	七六	五五九
四七四	七七	五六六
四八〇	七八	五七三
四八六	七九	五八〇
四九二	八〇	五八七
四九八	八一	五九四
五〇四	八二	六〇一
五一〇	八三	六〇八
五一六	八四	六一五
五二二	八五	六二二
五二八	八六	六二九
五三四	八七	六三六
五四〇	八八	六四三
五四六	八九	六五〇
五五二	九〇	六五七
五五八	九一	六六四
五六四	九二	六七一
五七〇	九三	六七八
五七六	九四	六八五
五八二	九五	六九二
五八八	九六	六九九
五九四	九七	七〇六
六〇〇	九八	七一三
六〇六	九九	七二〇
六一二	一〇〇	七二七

第十一章 保險

第一節 總則

第六百三十七條

第六百三十七條

○舊商法第六百三十七條ハ一人カ同一保險物ノ利益ニ關シ二人以上ノ保險者ヨリ各別ニ保險ヲ受クルトキニ於テ各保險金ノ合算額カ保險價額ニ超過セル場合ヲ規定シタルモノニシテ各保險金ノ合算額カ保險價額ニ超過セサルニ於テハ同條ニ所謂重複保險ト稱スヘキモノニ非ス

第六百五十三條

第六百五十三條

○保險契約ヲ爲スニ際シ不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ其事實ノ輕重ヲ較量シ保險契約ノ效力如何ヲ判定スヘキハ當事者間ニ其特約ナキ場合ニ限ルモノトス

第二節 火災及ヒ震災ノ保險

(參照)

被保險者ハ若シ火災防禦ノ手段ヲ盡ササルトキハ保險金ヲ受領スルノ權ヲ失フモノナルコトハ保險規則ノ條文ニ於テ明カナリ即チ本訴ノ曲直ヲ定ムルニハ先ツ上告人ニ於テ火災ノ當時被保險物ニ防禦ノ手段ヲ盡ササリシハ果シテ怠慢ニ出テタルヤ否ヲ確定セサルヘカラス否ラサレハ該則ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ否ヲ判然セサル筈合ナルニ原院ハ直ニ該則ノ制裁ヲ

三六	三五
三二	三八
二八	三一

受リハキモノトシタルハ不法ノ裁判ナリ

第五節 生命保險、病傷保險及ヒ年金保險

第六百七十八條

(參照)

生命保險契約ハ財産上ノ關係ナシト雖モ親屬故舊ノ因由情誼ヨリ甲者乙者ノ爲メニ保險金ノ義務ヲ負擔スルハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ保險金負擔者ト被保人ト其人ナ異ニスレハトテ公安ヲ害スルモノトシテ無効ト論斷スルコトヲ得ス

第十二章 手形及ヒ小切手

總則

○送金手形カ所持人證券ナル場合ニ在テハ縱令之ヲ讓渡シタル者ト支拂人トカ相互ニ債權者タリ債務者タリシコトアルモ法律上相殺ヲ以テ第三者タル所持人ニ對抗シ得ルトスルニ於テハ取引上ノ信用ヲ害シ融通ヲ妨クルコト必然ナリ則チ法律ニ於テ明カニ之ヲ許ササル限ハ第三者タル所持人ニ對抗スルヲ得ルカ如キ相殺ハ生セサルモノトセサルヲ得ス

○送金手形カ所持人證券ナルトキハ其手形ヲ支拂フヘキ者ニ告知ヲ爲シ

又ハ其承諾ヲ得ルカ如キ手續ヲ要セサルハ論ヲ竣タス況ヤ「コレレズボンデンス」ノ契約アルニ於テ「コレレズボンデンス」ノ契約ハ其當事者タル銀行ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ手形ヲ受取ルヘキ手形所持人ノ何人タルヲ問ハス其命令ニ從ヒ支拂ヲ爲スヘシトノ契約ニ外ナラス

○差圖證券ノ債務者ハ其證券ニ記載シタル事項又ハ其證券ヨリ當然生スル抗辯ニ由ルニ非サレハ其債權者ニ對抗スルヲ得ス

○有效ノ手形ハ融通證券ナルヲ以テ當然合法ノ原因ヲ含有スルモノト推定セラレ之ニ署名捺印シタル者ヲシテ其手形上ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負ハシムルノ效力アリト雖モ失効ノ手形ニ至リテハ唯其所持人ヲシテ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハサリシ爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リ己ヲ利シタル限度ヲ特ニ證明シタル上其限度内ニ於テノミ償還請求ヲ爲スヲ得セシムルコトハ舊商法ノ規定スル所ナリトス

第七百二條

第七百二條

○約束手形成立ノ後別ニ契約ヲ以テ満期日ヲ定メタルトキハ手形面ノ満期日ハ外觀ノ爲メニノミ記入シタルモノト爲リ其約束手形ハ商法第七

百二條ノ規定ニ依リ其情ヲ知リタル者ニ對シテ手形ト看做スヘキモノニ非ス

〔第七百五條〕

○手形ハ要式證券ナルヲ以テ無期限ノ延期手形ト云フ如キ不完全ノモノニハ手形ノ名稱ヲ付與スルコトヲ得ス手形トシテハ手形面ニ記入アル支拂期日ノ延期ヲ許スコトヲ得ス當事者間ノ合意ヲ以テ約束手形面ノ支拂期日ヲ延期セシコトノ事實ヲ認メタル上ハ普通法ニ依テ其合意ヨリ生スル所ノ責任如何ヲ判定セサルヘカラス

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除ク外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラズ專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

〔第七百七條〕

○約束手形ノ但書ニ「本件金額ハ某銀行拙者當座勘定ヨリ支拂可申候也」ト記載セル文言ハ手形所持人ニ一ノ便利ヲ與ヘタルニ過キサレハ商法ニ所謂重要ナラサル附記ト看做スヘキモノトス

〔第七百十條、第七百十一條〕

○凡ソ手形ノ占有者ハ其取得ノ方法正當ニシテ且甚シキ怠慢ニ出テサルトキハ商法第七百十一條ニ列舉シタル原由アルモノノ外同法第七百十條後段ノ場合ニ非サルヨリハ其取得ノ權利ヲ害セラルルコトナシ

〔第七百十四條〕

○時効ニ因リ約束手形上ノ請求權ヲ失ヒタル者ハ其爲替權利ヲ失ヒタルニ拘ハラズ振出人カ爲替資金ニ因リ不當ニ己ヲ利シタル限度ニ於テ不當利得ノ取戻ヲ請求シ得ヘキモ振出人ハ常ニ其手形面ノ金圓ヲ利得シタルモノト推定スヘキニ非ス

第一節 爲替手形 第一款 振出

〔第七百十六條〕

○舊商法第七百十六條ハ振出人ノ署名捺印ヲ以テ爲替手形ノ要件ト爲スカ故ニ苟モ振出人ノ氏名ノ記載アリ且其捺印ニシテ真正ナル以上ハ氏名ノ記載ハ振出人自ラ之ヲ爲ササル場合ト雖モ尙ホ其要件ヲ具備スルモノト謂フヘシ

○舊商法第七百十六條ニ振出ノ場所トアルハ新商法ノ振出地ト同シク市

商法 商ノ通則 手形及ヒ小切手 爲替手形 振出

三〇	八	一
二六	二七	一〇一
二九	二	六七

二九	四	九四
三五	五	三三
三九		三四

町村ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリ

第二款 裏書

○舊商法ニハ縱令新商法第四百六十一條及ヒ第四百六十四條但書ノ規定ト同一ナル明文ナシト雖モ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡シタル手形ノ所持人ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得ルノミナラス同種ノ裏書數次アル場合ニ於テハ後ノ裏書人ハ前ノ裏書ニ因リテ手形ヲ讓受ケタルモノト看做スヘキハ當然ナリ

〔第七百二十三條〕

○手形ニ裏書讓渡人ノ住所記載ナキトキハ其裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ讓渡ノ效ナキニ止マリ其瑕疵ハ手形ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○舊商法ニ依レハ手形ノ裏書ニハ二種アリテ其第一種ハ年月日場所裏書讓渡人ノ署名捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要シ第二種ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲スヘキモノナルカ故ニ單ニ裏書讓渡人ノ署名捺印ノ外ニ裏書讓受人ノ氏名ヲ記載シタル手形ハ第一種ノ裏書トシテ無効ナルノミナラス第二種ノ裏書トシテモ其效ヲ有セス

〔第七百二十四條〕

○舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ日附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必スシモ手形交付ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルモノニ非ス

〔第七百二十五條〕

○舊商法第七百二十五條ニ依レハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミニテ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ爾後交付ノミヲ以テ轉付スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ此手形ニ付キ再三裏書人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲シタル裏書讓渡ヲ有效ト認メタル判決ハ相當ナリ

○舊商法第七百二十五條ノ法意ハ一度讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ特ニ通例ノ裏書若クハ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テスル裏書ノ方法ニ依ラスシテ交付ノミヲ以テ讓渡スルコトヲ得ヘシトノ旨趣ニシテ讓渡ノ方法ヲ交付ノ一事ニ限定シタルモノニ非ス

〔第七百二十八條〕

○舊商法ニ於テ手形ノ裏書讓受人ハ支拂期日後ニ其裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シ償還請求權ヲ有ス

○舊商法第七百二十八條後段ニ所謂獨立シタル償還請求權ヲ取得ストハ滿期後ニ手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ滿期後ノ裏書讓渡人ニ對スル

三元 三四一

三元 六 六五

二元 二 二六

三元 七 四五

三元 三 六一

三元 一〇 二九

三元 六 六五

三元 五 六二

關係ニ於テハ其前者ノ權利如何ヲ問ハス法律ノ規定上獨立ノ權利ヲ享有セシムル旨趣ナリトス

第五款 保證

第七百五十一條

(刑)

○手形保證人ヲシテ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔セシムルノ規定(商法第七百五十一條)ハ單ニ債權者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト保證人トノ權利關係ハ毫モ變更ヲ受クヘキモノニ非ス是故ニ保證人名義ヲ純然タル連帶債務者ノ如ク變更シタル所爲ハ手形變換行使罪ヲ構成ス

第六款 支拂

○舊商法ニ依リタル手形ノ滿期日後ニ裏書讓渡ヲ得タル所持人カ其支拂ノ請求ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ訴狀送達ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノナレハ手形債務者ハ其日ヨリノ利息ヲ支拂フヘキモノトス

第八款 償還請求

(參照)

手形裏書人ニ對スル償還ノ要求ハ支拂ノ請求ト其場合異ナルヲ以テ拒證書ノ作製ヲ要スル規定モナク隨テ嚴格ナル手續ニ依ラサルモ現ニ本人又ハ本人ノ住所ニ就キ要求ヲ爲シタルコト

四三

三九七

三〇

八

四

四三

四五五

ヲ認ムヘキ確證アレハ其效アルモノトス

第七百七十六條

第七百七十六條

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲セハ必ス滿期日ニ支拂ノ爲メ之ヲ支拂人ニ呈示スルヲ要ス若シ其呈示ヲ爲ササルトキハ原因ノ如何ヲ問ハス償還請求ノ權ヲ喪失スルコトハ舊商法ノ法意ナリ

第七百八十一條

第七百八十一條

○手形ノ償還請求ニ付キ爲ス所ノ通知ハ民事訴訟法ニ依リ任命セラレタル特別代理人ニ爲スモ有效ナリトス
○裏書讓渡人ニ對シ爲スヘキ償還請求ノ通知ハ權利發生ノ條件ニ過キスシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ二箇ノ訴訟カ其償還請求ノ通知ヲ爲シタル日時ニ差異アルモ前訴後訴共ニ其請求ノ原因カ振出人ニ於テ支拂ヲ拒絶シタルニ因リ償還請求ヲ爲スニ在ルトキハ後訴ハ一事不再理ノ原則ニ反スル不當ノ訴訟ナリ

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ支拂拒證書ヲ作りタル日ノ翌日書面ヲ以テ其請求及ヒ拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス又拒證書作成ノ義務免除ノ場合ニ於テハ拒證書ヲ作ルヘキ日ノ翌日

二六

二

一一三

三三

六

六〇

二九

五

七五

三三

三

七

書面ヲ以テ償還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

(反對)

手形ノ償還請求ノ通知ハ拒證書作成通知後何時ニテモ爲スコトヲ得

○手形上ノ償還請求ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作リタル日ノ翌日裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

○舊商法第七百八十一條ニ於ケル償還請求通知ノ日カ一般ノ休日ニ當ルモ必ス其日ニ於テ之カ通知ヲ爲ササルヘカラス

〔第七百八十三條〕

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラズ專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス
○舊商法ニ於ケル拒證書作成義務ノ免除ハ其作成ニ直接ノ關係ヲ有スル義務ノミヲ免除スルニ過キスシテ之ニ關係ヲ有セサル他ノ手續上ノ義務ヲモ免除スルモノニ非ス

三	二九	三二
四	三	四
一〇	六	一七
一〇	六	五
一〇	六	四
一〇	六	五
一〇	六	五

〔第七百八十六條〕

○拒證書作成ノ義務ヲ免除シタル者ノ後者カ免除者ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ拒證書ヲ作成スヘキ業日ノ次日ニ償還請求ノ通知ヲ爲ササルヘカラス

〔第七百八十六條〕

○舊商法第七百八十六條ニ依リ償還ヲ請求シ得ヘキ利息金ハ付遲滯ノ手續ヲ要セス滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息ヲ請求シ得ヘキモノトス

第二節 約束手形

○約束手形ノ裏書カ無効タルトキハ其讓渡ノ効ナキニ止マリ其手形ハ依然效力ヲ保有シ未タ裏書ヲ爲ササル原狀ニ復スヘキモノトス

○約束手形ハ其裏書讓渡ノ方式ニ違背シタルカ爲メ手形タルノ效力ヲ失ハス

(刑)

○約束手形ノ義務ノ原因ハ必スシモ賣買代金ニ限ラレタルモノニ非ス
○約束手形ノ所持人カ其滿期日ニ當リ振出人ニ對シ支拂ノ猶豫即チ恩惠期日ヲ承諾スルハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非サルニ依リ其支拂猶豫ノ契約ハ當事者間有效ナリ
○手形所持人ト振出人ノ間ノ支拂猶豫ノ契約ハ其當事者間ニ於ケル手形

三	二九	三二
四	三	四
一〇	六	一七
一〇	六	五
一〇	六	四
一〇	六	五
一〇	六	五

- 上ノ權義關係ヲ變シテ民事上ノ權義關係タラシムル效果ヲ生ス
- (刑) ○約束手形ハ無形人ト雖モ其名ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得
- (刑) ○賭博ニ原因スル約束手形ハ其情ヲ知ル者ニ對シテハ約束手形タルノ效力ナシ

(參照)

約束手形振出人ト直接ニ之ヲ受ケタル者トノ間ニ於テハ「合法ノ原因ハ當然券面ニ包含スルモノナリ」ト云フ手形上ノ原則ハ之ヲ適用スルコトヲ要セス債權成立ノ原因ニ依テ權利義務ヲ定ムヘシ

現金ヲ以テ授受スヘキ實質代價ノ一部ニ對シ授受シタル約束手形ノ支拂期日カ物品授受ノ期日以前ニ係リ受取人之ヲ他ヘ流通セサル場合ニ在テハ法理上一概ニ現金ヲ授受セシト同視スルヲ得サルモノトス

〔第八百十一條〕

- 數人同一ノ約束手形ヲ振出スモ其振出シタル手形ハ一行爲ヲ爲スニ過キスシテ各振出人ニ於テ各別箇ノ手形ヲ作成シタルモノト看做スヘキニ非ス唯其手形ニ依リ各自獨立ノ債務ヲ負擔スルノミ故ニ其手形ノ記載要件ニ欠缺アル場合ニ於テハ總振出人ニ對シ要件欠缺アルモノト謂ハサルヲ得ス
- 手形ニ其振出ノ場所ヲ記載セサルトキハ手形トシテ效力ナシ

三三	三三	三三	二四	二五	二九
三三	三三	三三	一	五	二
七三	三五	九〇	一〇八	五	二九
					二六

〔第八百十條〕

- 手形振出ノ場所ハ其町村番地等詳細ニ明示スルヲ要セス其何レノ場所ニ於テ振出シタルヤヲ知り得レハ充分ナリトス
- 舊商法第八百十一條第一ニ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ヲ指稱スルモノナルカ故ニ其手形カ何レノ市町村等ニ於テ振出サレタルモノナルヤ一定シ居レハ足レルモノニシテ大字等ノ如キハ敢テ之ヲ記載スルノ要ナシ

(同旨)

舊商法第八百十一條ニ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ノ謂ニシテ市町村内ノ區町字等ノ謂ニ非ス故ニ單ニ東京市内ノ區名ヲ記シタル手形ハ振出ノ場所ヲ記載セサル手形ニシテ無効ナリ

- 約束手形ノ振出地ハ法律上一定シタル地域ニシテ事實上ノ問題ニ非ス
- 無記名式ノ約束手形ニシテ所持人ニ支拂フヘキ旨ノ記載ナキハ適式ノ手形ニ非ス
- 舊商法第八百十一條第五號ノ所謂振出人ノ署名トハ振出人ノ氏名又ハ商號ヲ書スルヲ謂ヒシモノト解釋スルヲ相當トス

〔第八百十五條〕

- 約束手形ノ所持人ハ其振出人ニ對シテハ時効ノ經過セサル間ハ何時ニ

二九	三四	三四	三四	三四	三三
二二	一	九	一	三	五
二六	二九	二四	三	三〇	二七

○テモ其支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
 ○約束手形支拂満期日ニ於テ拒證書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ發シタル以上ハ爾後該手形ノ所持人ニ於テ振出人ニ對シ一時支拂ノ猶豫ヲ與フルモ之ヲ以テ手形上ノ權利義務ノ關係ヲシテ民事上ノ權利義務ノ關係ニ變更シタルモノト謂フヲ得ス

○手形權利者カ裏書人ニ對シ既ニ適法ニ償還請求權ヲ得タル上ハ其後ニ至リ縱令振出人ニ對シ支拂猶豫ヲ與フルコトアリトスルモ之カ爲メ振出人ニ對シテハ格別裏書人ニ對シテ其既ニ得タル償還請求權ヲ失フヘキモノニ非ス

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタルヲ原因トシテ而モ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

第三節 小切手

(刑) ○小切手ハ裏書又ハ無記名式ヲ以テ賣買若クハ交換スヘキ約定證券ナリ

〔第八百十七條〕

○舊商法第八百十七條ニ記載要件トシテ掲ケタル署名トハ單ニ記名スヘ

三二〇	三二二	三七七	三六二	三六四
-----	-----	-----	-----	-----

シトノ意義ニ非スシテ自署ノ意義ナルコトハ從來同文詞ヲ使用シタル慣例ニ徴シ明白ナリ

第二編 海商

第一章 船舶所有者

第二節 船舶所有者ノ權利及ヒ義務

(參照)

積荷ノ喪失ニ付キ荷主ニ對スル賠償責任如何ノ問題ニ於テ明治二十五年法律第五號ヲ適用セントノ論疑ハ其當ヲ得サルモノトス

〔第八百四十二條〕

(參照)

船舶所有主ハ他ニ法律ノ規定ナキ限ハ船長ノ行爲ニ付キテハ代理法ニ基キ其責任ヲ負擔セサルヘカラズ
 自己ノ過失ニ對スル責任ハ契約ヲ以テ免ルルコト能ハサルモノトス故ニ船舶所有主カ船長即チ代理人ニ過失アルコトヲ認メ乍ラ他ノ契約ニ依リテ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス
 船長ノ試験規則ハ船長ノ行爲ニ付キ船主ノ責任有無ヲ論スル場合ニ援引スルコトヲ得ス
 船主ハ船長ノ職務履行上生シタル過失ニ付キ第三者ニ對シ其責任ヲ負フモノトス

商法 海商 船舶所有者ノ權利及ヒ義務

三五七	三五七	三五七	三五七	三五七
-----	-----	-----	-----	-----

第三章 船舶債權者

『第八百五十八條』

○船舶沈没ノ場合ニ於テ船舶所有者ノ責任ハ船舶ノミナラス其保險金ニ及フヘキコトハ舊商法施行前ニ於テモ是認シタル法理ナリ

(參照)

船舶沈没ノ爲メ生シタル損害ニ對シ船主ニ於テ其船舶限リ賠償ノ責任ヲ負フヘキコトハ顯著ナル慣例ナリ

第四章 船長及ヒ海員

第一節 船長

(參照)

無期限ニテ雇傭契約ヲ締結シタル以上ハ縱令船舶カ航海不能ト爲リ雇人タル船長其職務ヲ行フコト能ハサルモ契約ニ基ク權利義務ハ直ニ消滅スルモノニ非ス

『第八百六十三條』

(參照)

船長カ船主ノ委任ヲ受ケスシテ船主代理ノ名義ヲ用ヒ第三者ヲシテ船中ノ需用品ヲ供給セシムルノ契約ヲ爲シタルハ本件ノ場合ニ於テハ越權ニ屬ス

第五章 運送契約

第二節 船荷證書

『第九百二條』

(參照)

船荷證書ハ裏書ニ依リ自由ニ轉讓シ得ヘキ流通ノ性質ヲ有スルモノナレハ證書所持人ハ何時ニテモ其貨物ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有ス

船主カ船荷證書ト引換ニ渡スヘキコトヲ約シタル貨物ヲ其約ニ背キ他ニ交付シタルトキハ荷主ハ船荷證書ノ所持人ニ對シ未タ貨物ノ引渡ヲ爲ササル地位ニ在ルヲ以テ之カ責任ヲ免ルルヲ得ス從テ其貨物ノ換價格ハ荷主ノ損害ト爲リタルモノト看做スヘキモノトス

第四節 旅客運送

(參照)

汽船ノ乗客カ汽船仲次營業者ノ報知ニ依リ發航日時ヲ信用スルハ普通ノコトナレハ之カ爲メ懈怠ノ責ヲ生セス

第六章 海損

(參照)

原裁判カ海損ノ慣例ヲ認メテ船主ノ責任無限ナラサルコトヲ判定シタルハ本院カ濫キニ與ヘタル判決「責任ノ有限ナルコトハ條理上當然ナルモノニ非ス」レヲ蹂躪シタリト云フヲ得ス

第八章 保險

商法 海商 運送契約 船荷證書 旅客運送 海損 保險

三	四	二	二
五	〇	〇	〇
三	三	三	三
二	四	二	二
〇	五	〇	〇

三	三	三	三
〇	〇	〇	〇
三	三	三	三
二	二	二	二
〇	〇	〇	〇

第二節 保險者及被保險者ノ權利義務

○船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其保險金ハ乘客若クハ荷主ニ對スル損害ノ賠償ニ充テシムヘキモノトス

〔第九百五十九條〕

○海上保險者ハ特約ヲ取結フニ非サレハ航海ニ關スル不測ノ事故ニ因リテ生スル一切ノ損害ヲ填補スルノ責任ヲ負擔スヘキモノトス
 ○被保險物ノ性質瑕疵若クハ荷造ノ不完全ヨリ生シタル損害ノ如キハ航海ニ關スル不測ノ事故ヨリ生シタル損害ニ非サルヲ以テ海上保險者ノ負擔ニ屬スヘキモノニ非ス

第三編 破産

第一章 破産宣告

○民事訴訟法第四百五十五條ノ規定ハ商法破産ニ關スル訴訟手續ニ準用スヘカラス

○破産事件ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例ニ特ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ旨ノ明文アルモノノ外同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

三	三	三	三
八	二	二	六
二六	二五	二五	一〇四

○破産ノ宣告ハ其宣告後ニ在リテ最初破産ノ申立ヲ爲シタル債權者カ其申立ノ取下ヲ爲シタリトモ他ノ債權者ニ對シテ影響ヲ生スルモノニ非ス

○破産裁判所ニ於テ破産事件ノ口頭辯論中ニ言渡シタル證據決定ニ對シテハ抗告スルヲ得ス

○破産事件ノ抗告裁判所ハ當事者カ特ニ證據トシテ提出シ又ハ援用スルト否トニ關セス破産事件ニ正當ニ添附シタル記録ヲ參照シテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○破産ハ各債權ノ額ニ應シ債務者ノ總財産ヲ以テ其總債權者ニ平等分配ヲ得セシムル爲メノ裁判上ノ手續ニシテ其性質一ノ強制執行方法ニ過キサルモノトス

○破産ノ目的ハ債務者ヲシテ正實ナル辨濟ヲ爲サシメ且債權者ヲシテ平等分配ヲ得セシムルニ在リテ債務者ノ能力ヲ制限スルニ在ラス

○破産宣告ハ宣告裁判所所屬國ノ裁判カ執行力ヲ有スル地域内ニ限リ效力ヲ有スヘキモノニシテ而シテ裁判ハ特別ノ法令若クハ國際條約アルニ非サル以上ハ領域内ニ限リ執行力ヲ有スルモノナルヲ以テ甲國ニ於テ宣告シタル破産ハ乙國ニ於テ其效力ヲ有スルモノニ非ス

三五	三五	三五	三四	三四
六	六	一	二	二
八五	八五	三	九〇	一〇六

○破産裁判所カ書證ニ付キ當事者ノ認否ヲ聽カスシテ之ヲ證料ニ供スルハ違法ニ非ス

○破産宣告アリタル後ニ至リ破産ノ申立ヲ取下クルモ其既ニ爲シタル破産宣告ハ當然消滅スヘキモノニ非ス

(同五三)

○破産宣告ノアリタル後ニ至リ破産宣告申立ノ取下ヲ爲シタルトテ其既ニ爲シタル破産宣告ヲ取消スヘキモノニ非ス

○破産手續ハ強制執行ノ範圍ニ屬スルヲ以テ其性質ヨリ之ヲ言フモ非訟事件手續法ノ規定ヲ適用シ若クハ之ヲ準用スルコトヲ得サルモノトス

(第九百七十八條)

『第九百七十八條』

(刑) ○商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ノ宣告ヲ受クヘキモノトス而シテ其商行為ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

(刑) ○支拂停止ハ破産決定ニ依リ確定シタル事實ナリ

○手形ハ單ニ滿期日ニ支拂ヲ拒絕シタルノミヲ以テ支拂停止ト看做スヘキモノニ非ス

○破産決定ノ申請ニ對シ債務者ハ債權者ニ對シテ有スル債權ト相殺センコトヲ求メタルカ爲メ支拂ヲ爲ササリシモノニシテ支拂ヲ停止シタル

三九	四一	三三	三二	三三	三三	三三
一五九三	二六	七六	九	九	九	九
			二二	二二	二二	二二
			一三〇	一三〇	一三〇	一三〇

モノニ非ストノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得

○支拂停止トハ支拂ヲ停ムルノ意義ニシテ單ニ期日ニ支拂ヲ爲ササリシ事實ノミニテハ未タ以テ支拂ヲ停止シタルト爲スヲ得ス

(刑) ○商法第九百七十八條ノ債權者ニハ總テノ債權者ヲ包含ス從テ債務者ニシテ支拂ヲ停止シタル事實アルニ於テハ之カ債權者タル以上ハ支拂ヲ求メタル者ナルト否トヲ問ハス破産ノ宣告ヲ申請スルコトヲ得

○破産裁判所ハ單ニ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヲ判斷シ得ルニ止マリ債權ノ有無及ヒ其成立原因等ヲ審判スルノ職權ヲ有セス

(同五三)

○破産宣告ニ關スル事件ハ其性質非訟事件ナルカ故ニ破産裁判所ハ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヲ審理スルニ止マリ其申請ノ基本タル債權ノ存否ヲ判斷スヘキモノニ非ス

○商法ニハ破産ノ決定ニ付テハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキ規定アルモ其辯論中止ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例中抗告ヲ許ス規定アルコトナシ

○支拂停止ノ有無ニ付キ裁判ヲ爲ス手續ニ於テ生シタル債權存否ノ爭ニ關スル破産裁判所ノ判斷ハ破産宣告ノ申立ノ目的ニ對スルモノニ非サルヲ以テ確定スヘキモノニ非ス

三三	三四	三四	三四	三四	三四	三四
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
八四	八四	八四	八四	八四	八四	八四